出口遺跡

一県営中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

2017年日田市教育委員会



出口遺跡の空中写真(西から)奥に亀石山を望む



出口遺跡調査の空中写真(南から)

巻頭写真図版3



出口遺跡出土縄文土器 1



出口遺跡出土縄文土器 2

巻頭写真図版4



出口遺跡出土縄文土器 3



出口遺跡出土縄文土器 4

序 文

この報告書は、日田市教育委員会が平成25年度に県営中山間地域総合整備事業の工事実施に伴って

発掘調査をおこなった、出口遺跡の調査内容をまとめたものです。

出口遺跡では、周辺を流れる出口谷川左岸に位置する沖積地からは縄文時代後期前葉頃と考えられ

る縄文土器が大量に出土し、同じく出口谷川の左岸に広がる緩斜面からは中世〜近世の建物群が発見

されました。

これらの発見から、調査地周辺の河川付近は、縄文人が生活するのに適した良好な場所で、中・近

世には周囲の斜面を切り開いて集落を営むなど、この地域の開発過程の一端を確認することができま

した。五馬台地から小国へと至る狭小な谷部にあるこの地域の歴史を知る上で貴重な成果といえます。

こうした発掘調査の内容をまとめた本書が、今後、文化財の保護や活用、出口地区の歴史解明、学

術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、ご協力を賜りました出口地区圃場整備組合や地元の皆様方、全ての関係者の

方々に厚くお礼を申し上げます。

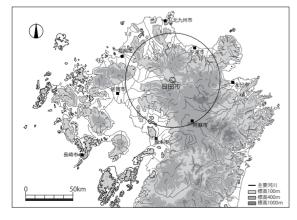
平成29年3月

日田市教育委員会

教育長 三笘 眞治郎

例 言

- 1. 本書は、日田市教育委員会が平成25年度に実施した出口遺跡の調査報告書である。
- 2. 調査は、平成25年度に県営中山間地域総合整備事業の工事実施に伴い、大分県西部振興局の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
- 3. 調査に当たっては、出口地区圃場整備組合、市農業振興課に協力を賜った。
- 4. 発掘調査は、予備調査・本調査ともに上原が担当した。
- 5. 出口遺跡の測量及び空中写真撮影は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、その成果品を使用した。
- 6. 遺構の写真撮影は上原が行った。
- 7. 遺物実測・製図・写真撮影・遺構製図は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店と有限会社九州文化財リサーチに委託し、その成果品を使用した。また、遺物実測・製図・写真撮影・遺物図の割付・観察表及び遺構・遺物の説明文の一部については有限会社九州文化財リサーチに委託し、その成果品を編集して使用した。
- 8. IVの漆椀塗膜分析は、株式会社パレオ・ラボに委託し、その成果品を編集して使用した。
- 9. 挿図中の方位・文中の方位角は、真北を示す。
- 10. 出土遺物、図面及び写真類は日田市埋蔵文化財センターに保管している。
- 11. 本書の執筆は I (1) については若杉が行い、III (2) の遺構・遺物文章、(3) \sim (8) の遺構文章、及びIV は委託業務の成果品を編集・加筆して使用しそれ以外を上原が行った。全体の編集は上原が行った。



日田市の位置



大分県の行政区分

本 文 目 次

I 調査の経過	1
(1)調査に至る経緯	1
(2)調査の組織	
(3)発掘作業の経過	5
(4)整理等作業の経過	5
Ⅱ 遺跡の位置と環境	6
Ⅲ調査の内容	
(1)調査の概要	8
(2) A 区の遺構と遺物	
(3)B区の遺構と遺物	
(4) C 区の遺構と遺物	
(5) D 区の遺構と遺物	
(6) E 区の遺構と遺物	
(7) F区の遺構と遺物	
(8) G 区の遺構と遺物	70
IV 自然科学分析 ·······	74
V 総括 ······	77
挿 図 目 次	
挿図目次 第1図 工事実施区域と調査区位置図(1/15,000)	2
	2
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500)	
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500)	3
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000)	3 7
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000)	3 7 9
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80)	3 7 9 11
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40)	3 7 9 11 12
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40) 第7図 A区1号土坑出土遺物実測図 (1/4)	3 7 9 11 12 13
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40) 第7図 A 区 1号土坑出土遺物実測図 (1/4) 第8図 A 区遺物包含層 (1/50)	3 7 9 11 12 13
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1 号土坑実測図 (1/40) 第7図 A 区 1 号土坑出土遺物実測図 (1/4) 第8図 A 区遺物包含層 (1/50)	3 7 9 11 12 13 14 15
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40) 第7図 A 区 1号土坑出土遺物実測図 (1/4) 第8図 A 区遺物包含層 (1/50) 第9図 A 区遺物包含層土層図 1 (1/60) 第10図 A 区遺物包含層土層図 2 (1/60)	3 7 9 11 12 13 14 15 16
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40) 第7図 A 区 1号土坑出土遺物実測図 (1/4) 第8図 A 区遺物包含層 (1/50) 第9図 A 区遺物包含層土層図 1 (1/60) 第10図 A 区遺物包含層土層図 2 (1/60)	3 7 9 11 12 13 14 15 16
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40) 第7図 A区1号土坑出土遺物実測図 (1/4) 第8図 A区遺物包含層 (1/50) 第9図 A区遺物包含層土層図 1 (1/60) 第10図 A区遺物包含層土土遺物実測図 1 (1/4) 第12図 A区包含層出土遺物実測図 2 (1/4)	3 7 9 11 12 13 14 15 16 17 18
第1図 工事実施区域と調査区位置図 (1/15,000) 第2図 調査区位置図 (1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000) 第4図 調査区位置図 (1/1000) 第5図 A区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80) 第6図 1号土坑実測図 (1/40) 第7図 A区1号土坑出土遺物実測図 (1/4) 第8図 A区遺物包含層 (1/50) 第9図 A区遺物包含層土層図 1 (1/60) 第10図 A区遺物包含層土層図 2 (1/60) 第11図 A区包含層出土遺物実測図 1 (1/4) 第12図 A区包含層出土遺物実測図 2 (1/4) 第13図 A区包含層出土遺物実測図 3 (1/4)	3 7 9 11 12 13 14 15 16 17 18
第1図 工事実施区域と調査区位置図(1/15,000) 第2図 調査区位置図(1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図(1/25,000) 第4図 調査区位置図(1/1000)及び土層図(1/80) 第5図 A区遺構配置図(1/100)及び土層図(1/80) 第6図 1号土坑実測図(1/40) 第7図 A区1号土坑出土遺物実測図(1/4) 第8図 A区遺物包含層(1/50) 第9図 A区遺物包含層土層図1(1/60) 第10図 A区遺物包含層土層図2(1/60) 第11図 A区包含層出土遺物実測図1(1/4) 第12図 A区包含層出土遺物実測図2(1/4) 第13図 A区包含層出土遺物実測図3(1/4) 第14図 A区包含層出土遺物実測図3(1/4)	3 7 9 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
第1図 工事実施区域と調査区位置図(1/15,000) 第2図 調査区位置図(1/2,500) 第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図(1/25,000) 第4図 調査区位置図(1/1000) 第5図 A区遺構配置図(1/100)及び土層図(1/80) 第6図 1号土坑実測図(1/40) 第7図 A区1号土坑出土遺物実測図(1/4) 第8図 A区遺物包含層(1/50) 第9図 A区遺物包含層土層図1(1/60) 第10図 A区遺物包含層出土遺物実測図1(1/4) 第12図 A区包含層出土遺物実測図2(1/4) 第13図 A区包含層出土遺物実測図3(1/4) 第14図 A区包含層出土遺物実測図3(1/4) 第15図 A区包含層出土遺物実測図4(1/4) 第15図 A区包含層出土遺物実測図3(1/4)	3 7 9 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

第19図	A 区包含層出土遺物実測図 9(1/4) ······	25
第20図	A 区包含層出土遺物実測図 10(1/4)	26
第21図	A 区包含層出土遺物実測図 11(1/4)	27
第22図	A 区トレンチ出土遺物実測図 1 (1/4)	34
第23図	A 区トレンチ出土遺物実測図 2 (1/4)	35
第24図	A 区トレンチ出土遺物実測図 3 (1/4)	36
第25図	A 区トレンチ出土遺物実測図 4 (1/4)	37
第26図	A 区出土遺物実測図 1 (1 ~ 6:2/3、7:1/2) ·······	39
第27図	A 区出土遺物実測図 2(2/3) ······	40
第28図	A 区出土遺物実測図 3(2/3) ······	41
第29図	A 区出土遺物実測図 4(1/2) ······	42
第30図	A 区出土遺物実測図 5(1/2) ······	43
第31図	A 区出土遺物実測図 6(1/2) ······	44
第32図	B 区遺構配置図(1/150) ·····	46
第33図	B 区 1・2 号掘立柱建物実測図(1/125)	47
第34図	B 区出土遺物実測図 1 (1/3、4 ~ 6・16・18:1/4)	48
第35図	B 区出土遺物実測図 2 (1/3、16・19:1/4)	49
第36図	B 区出土遺物実測図 3 (1/4)	50
第37図	B 区出土遺物実測図 4 (41 ~ 43:1/4、44:1/3) ······	51
第38図	B 区出土遺物実測図 5 (1:2/3、2・3:1/2)	51
第39図	C 区遺構配置図及び土層断面図(1/200・1/60)	53
第40図	C 区 1 号掘立柱建物実測図(1/60)······	54
第41図	C区2号掘立柱建物実測図(1/60)······	55
第42図	C区3号掘立柱立建物実測図(1/60) ······	56
第43図	C 区出土遺物実測図 1(1~6:1/4、7~16:1/3) ······	57
第44図	C 区出土遺物実測図 2(1/4) ·····	57
第45図	D 区遺構配置図(1/250) ·····	58
第46図	D 区竪穴建物実測図(1/60)	59
第47図	D 区竪穴出土遺物実測図(1/4) ·····	59
第48図	D 区 1 号掘立柱建物実測図(1/60) ······	60
第49図	D区2号掘立柱建物実測図(1/60) ······	61
第50図	D 区出土遺物実測図 1 (1/4) ·····	62
第51図	D区出土遺物実測図 2 (3/4) ·····	62
第52図	E 区遺構配置図(1/200) ·····	63
第53図	E 区出土遺物実測図(1/4)	64
第54図	F 区遺構配置図(1/200) · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	65
第55図	F 区 1 号掘立柱建物実測図(1/60) ······	66
第56図	F区2号掘立柱建物実測図(1/60)······	67
第57図	F 区出土遺物実測図 1 (1/4) ·····	68
第58図	F 区出土遺物実測図 2 (1/2) ·····	69
第59図	G 区遺構配置図(1/200) ·····	70
第60図	G 区 1 号掘立柱建物実測図(1/60) ······	71
第61図	G 区 2 号掘立柱建物実測図(1/60) ····································	72
第62図	G 区出土遺物実測図 1 (1 ~ 3・5・6:1/3、4:1/4)	72
第63図	G 区出土遺物実測図 2 (1:2/3、2:1/2) ······	73

写真図版目次

巻頭写真図版 1

出口遺跡の空中写真(西から)

巻頭写真図版2

出口遺跡調査の空中写真(南から)

巻頭写真図版3

出口遺跡出土縄文土器 1

出口遺跡出土縄文土器 2

巻頭写真図版4

出口遺跡出土縄文土器3

出口遺跡出土縄文土器 4

写真図版1

上 調査地全景(東から)

下 調査区 (C~G区) 全景(北から)

写真図版 2

上 A 区空中写真(南から)

中 B 区空中写真(東から)

下 C~G区空中写真(南から)

写真図版3

上 A 区包含層検出状況(北から)

中 A 区包含層検出状況(南から)

下 A 区発掘状況(北から)

写真図版4

上 A区1号土坑土層断面(東から)

中 A区1号土坑土層断面(北から)

下 A区1号土坑完堀状況(西から)

写真図版 5

① A 区包含層(G-2)発掘状況 1(西から)

② A 区包含層 (G-4) 発掘状況 2 (西から)

③ A 区包含層(G-5)発掘状況 3(西から)

④ A 区包含層 (G-8) 発掘状況 4 (西から)

⑤ A 区包含層 (G-8) 発掘状況 5 (西から)

⑥ A 区包含層(G-10)発掘状況 6(西から)

⑦ A 区包含層(G-11)発掘状況 7(西から)

⑧ A 区包含層 (G-16) 発掘状況 8 (西から)

写真図版6

① A 区南北土層(北側)

② A 区南北土層(南側)

③ A 区東西土層 (東側)

④ A 区東西土層 (西側)

⑤ B 区検出状況(西から)

⑥ B 区発掘状況(西から)

⑦ B 区発掘状況(南から)

⑧ B 区 1 ・ 2 号掘立柱建物発掘状況(西から)

写真図版7

① C 区空中写真(北から)

② C 区発掘状況 (東から)

③ C 区発掘状況(西から)

④ C 区 1 ・ 2 号掘立柱建物発掘状況 (東から)

⑤ C 区 3 号掘立柱建物発掘状況(南から)

⑥ C 区土層断面(東から)

⑦ C 区土層断面(南から)

⑧ D・E 区空中写真(北から)

写真図版8

① D 区発掘状況(東から)

② D 区東側検出状況(東から)

③ D 区発掘状況(西から)

④ D 区竪穴建物土層断面(東から)

⑤ D 区 1 号掘立柱建物発掘状況(北から)

⑥ D 区 2 号掘立柱建物発掘状況(南から)

⑦ E 区発掘状況 (西から)

⑧ E 区発掘状況(西から)

写真図版 9

① F 区空中写真 1 (南から)

② F 区空中写真 2 (北から)

③ F 区東側発掘状況(西から)

④ F 区 2 号掘立柱建物発掘状況(西から)

⑤ G 区空中写真(北から)

⑥ G 区発掘状況(東から)

⑦ G 区発掘状況 (西から)

⑧ G 区 1 号掘立柱建物発掘状況(東から)

写真図版10~16

出土遺物写真

本 文 写 真 目 次

写真 1	重機作業風景	5
写真2	発掘調査風景	5
写真3	整理作業風景	5
写真4	G 区出土漆器椀	73
写真5	漆器椀赤色塗膜断面	76
写真6	塗膜分析資料(漆器椀)	76
	表目次	
	表目次	
第1表	県営中山間地域総合整備事業出口地区に伴う調査一覧	1
第2表	生漆と赤外吸収位置とその強度	74
第3表	赤色塗膜層等の X 線分析結果	74
第4表	塗膜分析結果	75
第5表	漆器椀塗膜の赤外線スペクトル	75
第6表	出土土器観察表(1)	80
第7表	出土土器観察表(2)	81
第8表	出土土器観察表(3)	82
第9表	出土土器観察表(4)	83
第10表	長 出土土器観察表 (5)	84
第11表	長 出土土器観察表 (6)	85
第12表	長 出土土器観察表 (7)	86
第13表	長 出土土器観察表 (8)	87
第14表	長 出土土器観察表 (9)	88
第15表	長 出土土器観察表(10)	89
第16表	長 出土土器観察表(11)	90
第17表	長 出土土器観察表(12)	91
第18表	長 出土土器観察表(13)	92
第19表	長 出土土器観察表(14)	93
第20表	出土石器・石製品観察表	94

| 調査の経過

(1)調査に至る経緯

県営中山間地域総合整備事業(日田地区事業主体:大分県西部振興局農林基盤部、以下、県振興局)は、中山間地域の立地条件にあった農業の展開方向を探り、ほ場整備や農業用排水施設整備、農道整備などの生産基盤・環境整備等を総合的に行い、農業・農村の活性化を図ることにより、定住の促進・都市との共通社会基盤の形成及び国土・環境の保全に資することを目的とした事業である。今回、調査原因となったのは日田市南東部の天瀬町出口地区内の榎迫、中村、夕川の3工区について、平成22~28年度予定で計画されたものである。これらの工区の事業実施前にはそれぞれ予備調査を実施して、遺跡の所在についての確認と協議をおこなった。その結果、本調査が必要と判断されたのは中村工区(東側)のみで、榎迫工区については遺跡の所在が確認されたものの工事による削平の恐れがないことから工事を許可した。中村工区(西側)・夕川工区では遺跡の所在は確認されなかった。(第1表)

今回報告する中村工区(東側)は、平成 24 年度に大分県教育庁文化課(以下、県文化課)が実施した農林業関係事業実施予定地の分布調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地(出口遺跡)に該当しており、予備調査が必要と判断された。

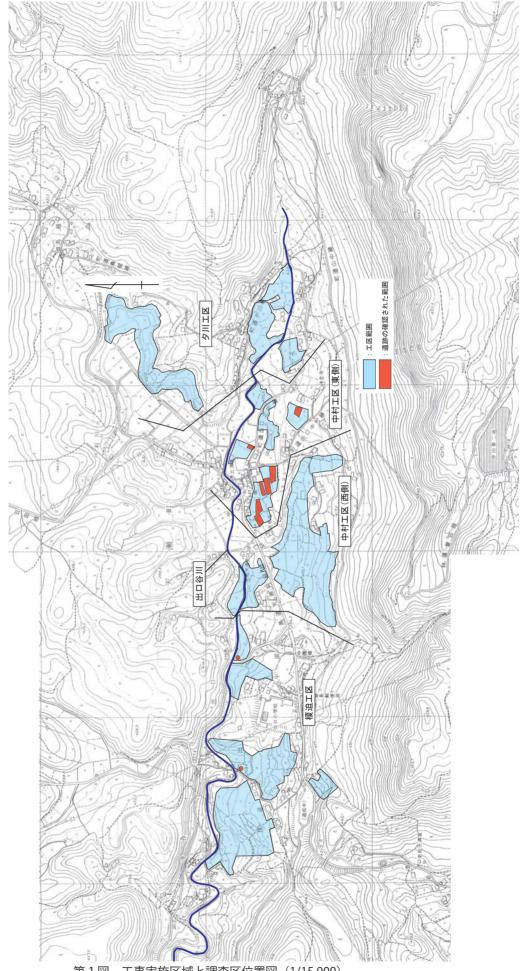
この中村工区(東側)については、平成25年度での事業実施が予定されていたため、県振興局より平成24年9月27日付けで予備調査の依頼、平成24年10月2日付けで文化財保護法第94条の通知の進達依頼を受け、稲刈後の平成24年11月28日~12月13日にかけて予備調査を実施した。工事対象面積3.1haのうち、基本的に工事により掘削を受ける水田を対象に調査を行い、28ヶ所(面積約334㎡)のトレンチのうち、9ヶ所のトレンチから縄文土器、近世の遺構や陶磁器が確認された。県振興局へこれらの調査結果と遺跡の取り扱いについて協議が必要な旨の報告を行い、工法変更による遺跡の保存について協議を行ったものの、変更による保存措置は不可能であったことから、削平を受ける範囲7ヵ所(3,621㎡)を対象に発掘調査を実施することになった。文化財保護法のやり取りは、平成25年3月7日付けで法第94条の通知を大分県教育委員会あてに進達し、

同年3月21日付で調査実施の通知を受け、同年3月25日付で県振興局長あてに伝達を行った。 平成25年4月24日には調査費や調査期間、調査前の地元への周知、調査中の工事との調整等について、県

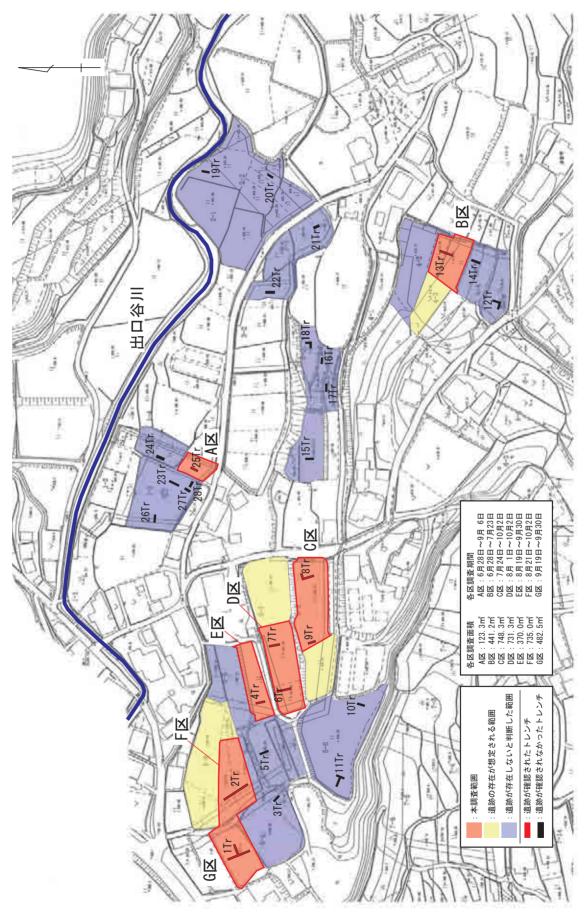
振興局と確認を行い、5月13日付で契約を締結、5月15日より調査に着手することとなった。

	工事	工事	調査	遺跡	処置	予備	調査	本調査	整理	報告書	備考
	年度	面積	面積	の有無		調査	期間		作業	刊行	
		(ha)	(m²)								
榎迫工区	平成	6.5	132	有	慎重工事	平成	12/8 ~	-	-	-	遺跡の破壊の恐れが少な
	22 年度					22 年度	12/24				い為、工事を許可。
中村工区	平成					平成	11/28 ~	平成	平成	平成	
(東側)	26 年度	3.1	334	有	本調査	24 年度	12/23	25 年度	26 • 27	28 年度	
									年度	(本年度)	
中村工区	平成	6.0	255	無	慎重工事	平成	11/20 ~	-	-	-	
(西側)	26 年度					25 年度	12/6				
夕川工区	平成	5.4	322	無	慎重工事	平成	10/31 ~	=	-	-	
	27 年度					26 年度	11/25				

第1表 県営中山間地域総合整備事業出口地区に伴う調査一覧



工事実施区域と調査区位置図(1/15,000) 第1図



第2図 調査区位置図 (1/2,500)

(2)調査の組織

発掘調査・整理作業に関する組織は以下の通りである。また、職名は当時のままとしている。

平成25年度(2013)/発掘調査

調 査 主 体 日田市教育委員会

調查責任者 合原多賀雄(日田市教育委員会教育長)

調 査 総 括 財津俊一(日田市教育庁文化財保護課長)

調 査 事 務 園田恭一郎(同埋蔵文化財係長)、華藤善紹(同副主幹)

行時桂子(同主查)、渡邉隆行(同主查)、若杉竜太(同主查)

調 査 担 当 上原翔平(同主任)

発掘作業員 綾垣みつ子、石松武夫、岩下愛子、小関美智子、小野スマ、小野高住、小野ヤチ子、梶原恵子、

梶原ハル美、加藤祐一、合原建國美、財津真弓、酒井玉子、佐藤シゲ子、武原シヲリ、竹本和

則、林豊子、松下宣男、森山敬一郎、山中タカ子、山中ヤエ子、山本シゲ子

平成26年度(2014)/整理作業

調 査 主 体 日田市教育委員会

調査責任者 合原多賀雄(日田市教育委員会教育長)~6月

三笘眞治郎(日田市教育委員会教育長)7月~

調 査 総 括 財津俊一(日田市教育庁文化財保護課長)

調 查 事 務 園田恭一郎(同埋蔵文化財係長)、行時桂子(同主査)、渡邉隆行(同主査)

若杉竜太 (同主査)、諫山温子 (同主事)

整理担当 上原翔平(同主任)

整理作業員 伊藤一美、黒木千鶴子、髙田美保、武石和美、安元百合

平成27年度(2015)/整理作業・報告書作成

調 査 主 体 日田市教育委員会

調查責任者 三笘眞治郎(日田市教育委員会教育長)

調 査 総 括 柴尾健二(日田市教育庁文化財保護課長)

調 査 事 務 園田恭一郎(同埋蔵文化財係主幹(総括))~9月

古賀信一(同埋蔵文化財係主幹(総括))10月~、行時桂子(同主査)、渡邉隆行(同主査)

若杉竜太 (同主査)、諫山温子 (同主任)

整理担当 上原翔平(同主任)

整理作業員 伊藤一美、黒木千鶴子、田中美保、武石和美、高瀬真奈美、用松操、吉田里美

平成28年度(2016)/整理作業・報告書作成、印刷

調 査 主 体 日田市教育委員会

調查責任者 三笘眞治郎(日田市教育委員会教育長)

調 査 総 括 池田寿生(日田市教育庁文化財保護課長)

調 査 事 務 古賀信一(同埋蔵文化財係主幹(総括))、渡邉隆行(同主査)、行時桂子(同主査)

若杉竜太(同主査)、長祐一郎(同主査)

整理担当 上原翔平(同主任:報告書担当)

整理作業員 伊藤一美、高瀬真奈美

(3)発掘作業の経過

発掘作業は、平成 25 年 5 月 15 日より着手した。調査個所が 7 ケ所に分かれていた為、大きく東側(A · B区)と西側(C ~ G 区)に分けて調査を行った。東側部分を先行して実施し、終了後に随時西部振興局に引渡した。

調査の主な経過は以下の通りである。

5月15日 機械を用いて表土剥ぎを開始(A~G区)

6月28日 A・B区の遺構検出を開始

7月 5日 B区の遺構掘り下げを開始

7月23日 B区の調査終了

7月24日 C区の遺構検出を開始

7月25日 A・B区の測量を順次開始

8月 1日 D区の遺構検出開始

8月19日 E区の遺構検出開始

8月21日 F区の遺構検出開始

8月22日 A区の遺構掘り下げを開始

9月 6日 A区の調査終了、A・B区を西部振興局に引き渡す

9月 9日 C~G区の測量を順次開始

9月26日 空中写真撮影を実施

9月30日 E・G区の調査終了

10月2日 C・D・F区の調査終了、器材等の整理・撤収を行い現場完了

(4) 整理等作業の経過

整理等作業は、調査終了後の平成26年8月より開始し、平成27年8月に整理作業を終了した。この中で器面の剥落で脆くなっている土器については、バインダー処理を施している。平成26・27年度には遺物実測等委託を行い、平成28年度には報告書刊行の執筆委託と印刷、収納に向けた整理を実施した。



写真 2 発掘調査風景



写真 1 重機作業風景



写真 3 整理作業風景

Ⅱ遺跡の位置と環境

日田市は、大分県西部、筑後川上流域に位置し、標高 80m 前後の沖積地に広がる市街地の周辺を標高約 150m 前後の阿蘇溶岩台地が廻り、その外周を標高 200 ~ 600m の耶馬渓溶岩台地が、さらに市の境界域では 700 ~ 1,000m 級の山々が連なって盆地の景観を形成する。

遺跡は、日田市南東部の台地の一つである五馬台地(旧日田郡天瀬町)に所在する。この台地は、天瀬町を南北に分断する玖珠川によって形成された深い谷の南側に位置する。

出口遺跡の所在する天瀬町出口は、標高 300 ~ 450m の高度で平坦な台地が展開し、東と南に向かって次第 に高くなる山地に続いている。東は標高約 600 ~ 700 mの起伏の小さい山地で山浦川を越えて玖珠町の万年山 の麓に広がる高原に続き、南は小国町に接して湯ノ見岳 (740.5 m)、その東には旧天瀬町域で最も高い亀石山 (942.6 m)、北東に黒山 (925m) 等の山があり、旧天瀬町域で最も高い山地を形成している。

こうした台地を形成する大小の谷部には、湧水や小河川がみられ、それを利用した人々の生活の痕跡が多く残されている。以下は、これまで調査された遺跡について概観していく。まず台地南東部、ノヲガケ遺跡 (4) は標高約 700 mの緩斜面に位置する。調査では、縄文時代前期以降と考えられる落とし穴状遺構が確認された。この落とし穴状遺構の配置に規則性はなく、谷の周囲に配置し水場に集まる動物を狙ったものと考えられる。また、ノヲガケ遺跡の南東側にある高瀬遺跡 (5) は標高 670 m前後の丘陵地に位置する。調査では旧石器時代の遺物包含層と焼けた礫群が確認されたほか、多くの炭化物が検出された。年代測定の結果、約 34,000 年以上前のものと確認され、日田市域の遺跡の最古例となっている。

高瀬遺跡の南西側の丘陵地にある平草遺跡 (6) では、旧石器時代の細石刃・細石核・スクレイパー・ナイフ形石器、縄文時代では早期の集石炉や土器に加え、前・中・晩期の土器、弥生時代の遺物などが出土している。さらに平草遺跡の南側に位置する亀石山遺跡 (7) では後期旧石器時代終末の細石刃が 12,000 点以上出土したほか、縄文時代早期の台石群や押型文土器、無文土器や石鏃などの遺物が出土している。また、台地南西部の井川遺跡 (16) では鉄塔建設に伴う確認調査において旧石器時代の剥片が出土しており、山頂付近の平坦部が当時の狩猟ルート上にあったものと考えられる。

次に台地中央部の塚田地区では、西遺跡 (8) において旧石器時代の遺物や時期は不明であるが、落とし穴状遺構が発見され、合楽川沿いの丘陵上に位置する平原遺跡 (9) では、縄文時代早期の遺物包含層や祭祀に利用されたとみられる中世の土坑、17世紀初頭から 18世紀後半の掘立柱建物群などが確認されている。特に近世の建物群は丘陵の北側斜面を削った、居住に適さない場所にある。同じく、合楽川沿いの河岸段丘上に位置する原ノ久保遺跡 (10) では、近世の掘立柱建物跡やトイレ遺構が確認され、庄屋屋敷の跡と想定されている。その立地の違いから身分の違いを看守され、当時の社会背景を考える上で有効な資料と位置づけられている。この原ノ久保遺跡南側の丘陵斜面にある山田遺跡 (11) は、旧石器時代・縄文時代の遺物包含層や 15世紀中葉から 17世紀前葉の土坑墓・火葬墓、近世の掘立柱建物跡が確認されている。

一方、台地北西部の五馬市地区では、東西に延びる丘陵上に位置する宇土遺跡 (12) において、A T層下位から台形石器やナイフ形石器が出土し、そのほか縄文時代の貯蔵穴とみられる遺構や早期~中期にかけての遺物のほか、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の集落や墓域、古墳時代中期の石棺系竪穴式石室を主体とする古墳などが確認されている。宇土遺跡の西側に位置する大坪遺跡 (13) では、旧石器時代の細石器文化期、ナイフ形石器段階の遺物や礫群、弥生時代中期から古墳時代初頭の墓地などが確認されている。宇土遺跡南東側に位置する中尾原 (14)・杉ソノ (15) 遺跡は、旧石器時代や縄文時代の遺物・落とし穴状遺構、弥生時代後期中葉から古墳時代初頭の集落、古墳時代中期を中心とした石棺系竪穴式石室、箱形石棺などから成る墓地が確認されている。

このほか、今回の圃場整備に伴う予備調査の結果、中園遺跡 (2) では縄文土器や石器が、迫遺跡 (3) では、縄文土時代早期の土器が出土している。本来の埋没状況を示すものではないが、周辺にこの時期の遺跡があったことを想定させる。

※括弧内の番号は、第3図の遺跡名に対応している。

参考文献

中島国夫「日田盆地のなりたち」『日田市三十年史』日田市 1974

日田市 『日田市史』1990

横溝宏佳「日田市周辺の地形」『日田・玖珠地域 - 自然・社会・教育 - 』大分大学教育学部 1992

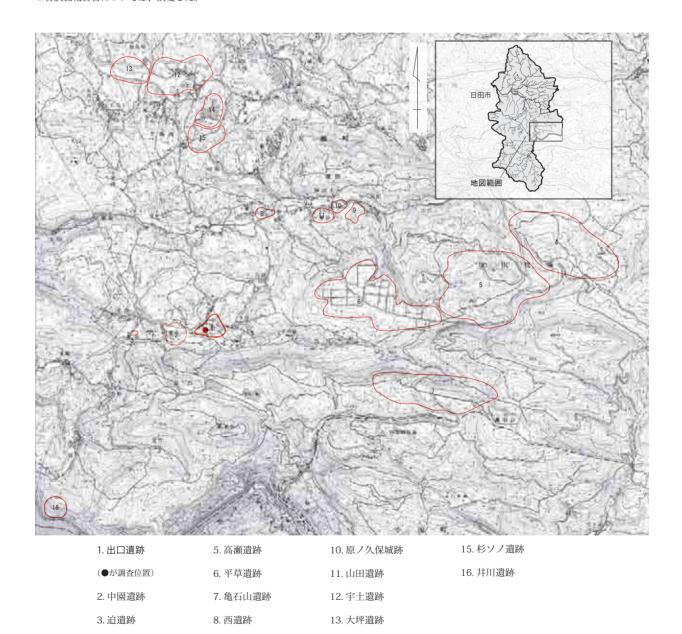
千田昇 「日田・玖珠地域の地形 - とくに台地地形について - 」『日田・玖珠地域 - 自然・社会・教育 - 』大分大学教育学部 1992

今田秀樹・後藤宗俊・橘昌信「天瀬の遺跡」『天瀬町誌 明日への礎』天瀬町 2005

※各調査報告書については、割愛した。

4. ノヲガケ遺跡

9. 平原遺跡



第3図 出口遺跡調査地周辺遺跡分布図(1/25,000)

14. 中尾原遺跡

Ⅲ調査の内容

(1) 調査の概要(第4図)

調査は中村工区(東側)の工事対象面積 3.1ha の内、遺構が確認された区画で、工事によって遺跡が破壊される $A \sim G$ 区の 7 ケ所を対象に実施した(第 2 図)。A 区を除いて調査区は付近を流れる出口谷川によって形成された谷部の緩斜面に位置する。調査面積は、7 か所合計で 3.632 ㎡である。

基本層序は、表土・水田盤を除いた後すぐに黄褐色土(ローム層)の自然堆積層に黒褐色土、灰褐色土の埋土を持つ遺構が検出されている。黒褐色土は縄文時代後期頃の埋土で、出口谷川の沖積地に位置する A 区でのみ確認されている。その他の調査区はほとんどが灰褐色土の埋土で中世から近世頃のものと考えられ、色が明るくなるにつれて時期が新しくなる傾向が見られた。また、B から D 区に関しては、緩斜面に位置していることから遺構検出までの深さが北側と南側で約 40cm 程異なっており、そのため、 $\text{C} \cdot \text{D}$ 区では部分的に自然堆積層のベルト状の黒色帯が検出された。 $\text{F} \cdot \text{G}$ 区も基本層序は $\text{C} \cdot \text{D}$ 区などと同様だが、G 区の検出面から礫が多く確認された。 G 区は周囲に比べて旧地形が高く、その分大きく削平を受けたことで礫層まで到達しているものと考えられる。

なお、土層の記録に関しては、C区の土層以外の記録を失念したため、文書による説明のみとなっている。 以下、検出遺構及び遺物について区ごとに説明する。なお、文章中に記載している時期区分や産地については、 V 総括に記載している参考文献 (P79・80) に基づいている。

(2) A 区の遺構と遺物(第5図、図版2・3)

A区は調査区の中で最も出口谷川に近く、南側には出口谷川支流が流れている。調査区の中では最も標高が低い 396m 前後に位置する。調査面積は 123.3㎡で、地形は南に流れる出口谷川の支流に向かって緩やかに傾斜している。基本層序は地表から約 60cm の厚さで水田層・水田盤を確認した。その下位で黒褐色土の包含層が約 20cm の厚さで堆積している。この包含層は、南側に向うに従って薄くなっており、その下位からは黄褐色土のローム層、礫を多く含む黄灰色砂質土の自然堆積層が確認される。

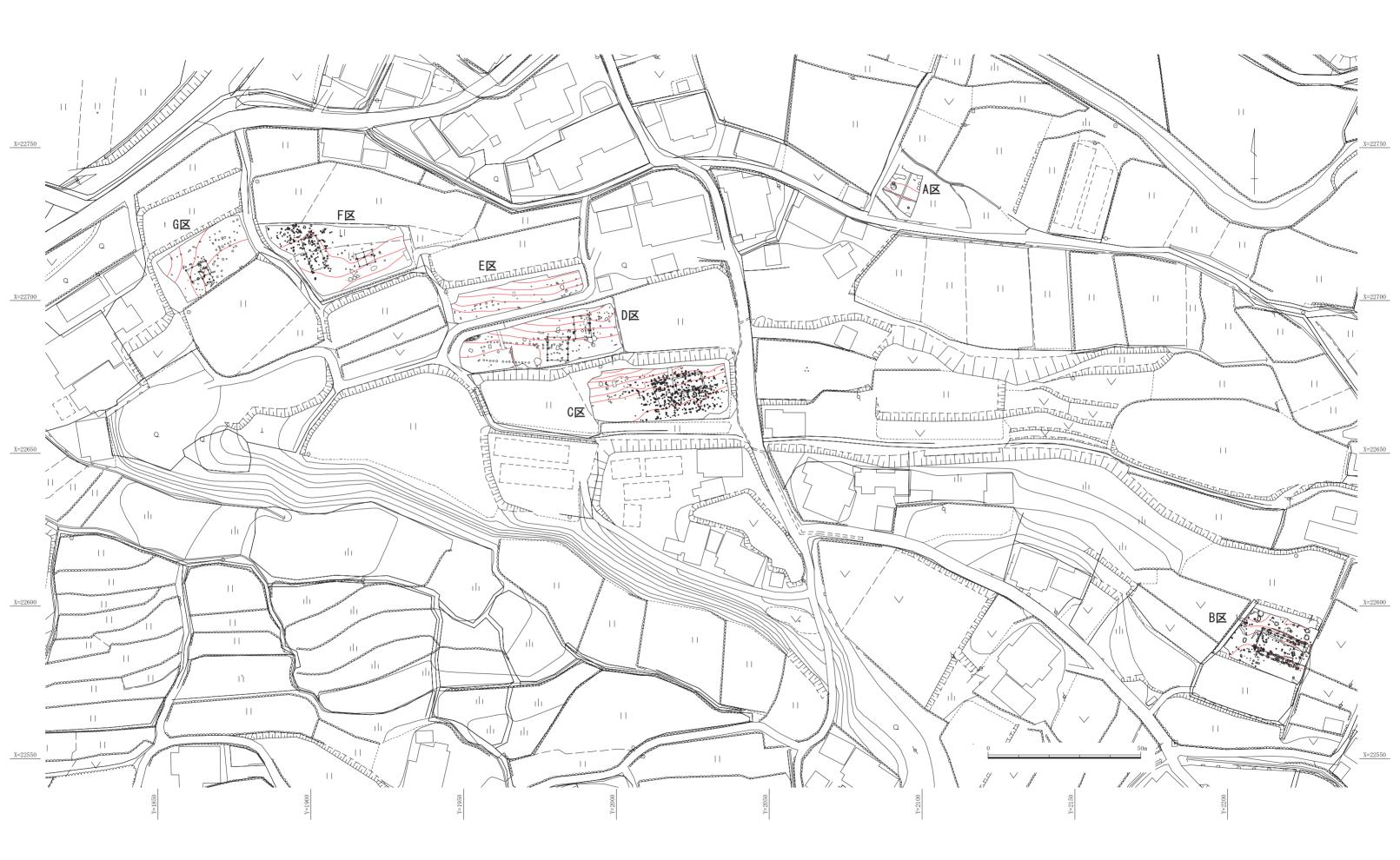
調査では、土坑1基、ピットと遺物包含層が確認された。なお、遺物包含層調査のため、調査区南側をグリット分割して調査した。

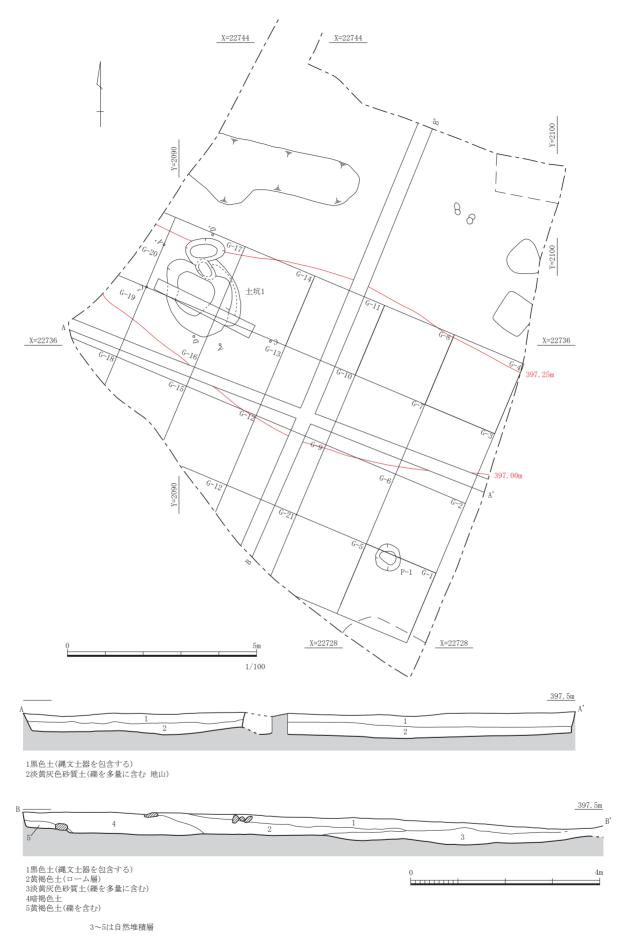
1. 土坑(第6図、図版4)

1号土坑は調査区西側 G13・14・17・16 グリッドにわたって検出した。包含層を 10cm 程度除去した段階で、掘り方を確認できた。平面形は、やや不定形の円形である。床面はわずかに舟底状を呈し、壁は北側及び西側がやや角度を付けて立ち上がり、南側及び東側がやや緩やかに立ち上がる。規模は南北軸 2.6m 東西軸 1.9m、検出面からの深さは約 20cm を測る。埋土は黒褐色土に黄褐色土が挟まれた状態で堆積しているものの、比較的に単純な層位と思われることから、短期間に埋没したものと思われる。その用途は不明であるが、遺構埋土は後述する包含層と同様である点や出土している遺物が包含層の時期とあまり差がないことから、この土坑は包含層と同時期に埋没した遺構であると考えられる。

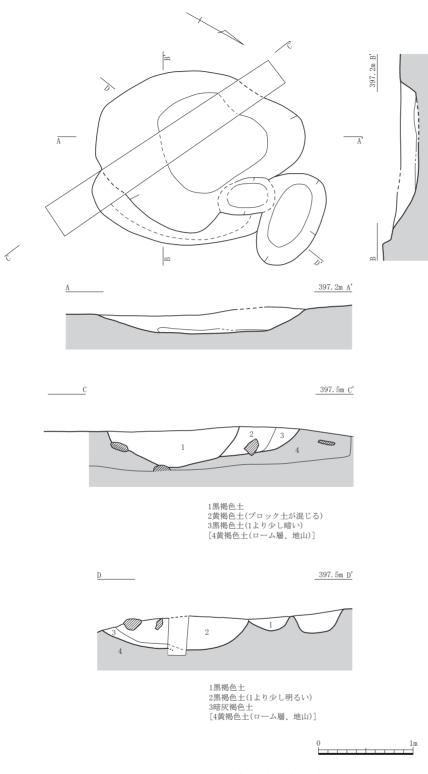
出土遺物(第7図、図版10)

1 は深鉢の口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付け、刻目が施される。その他に施文はない。調整は丁寧なナデ調整がおこなわれており、内面には調整痕が明瞭に残る。





第5図 A 区遺構配置図 (1/100) 及び土層図 (1/80)



第6図 1号土坑実測図(1/40)

2 は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施され、2 条の沈線文の間に斜位の短沈線文が施される。内外面とも条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。

3・4 は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施される波状口縁で、口縁部に幾何学文様の凹線文が施される。工具は半截竹管と見られる。条痕調整をおこなった後にナデ調整がおこなわれ、内面に調整痕が明瞭に残る。角閃石や雲母片などを胎土に含み、胎土は精微である。

5 は深鉢の頸部もしくは胴部で、 ほぼ口縁部に近い箇所と見られる。 沈線文が施され、その下に施文はない。調整は内外面とも条痕調整で、 内面には調整痕が明瞭に残っており、外面は条痕調整後にナデ調整を おこなっている。

6は深鉢と見られる胴部である。 沈線文が施されている。調整は内外 面とも二枚貝による調整と見られ る。7は浅鉢または深鉢の底部であ る。内外面ナデ調整で、外面には調 整痕が明瞭に残る。底面には成形痕 または組織痕が残る。8は深鉢の底 部に近い胴部で、胴部と底部との接 合帯で剥離している。

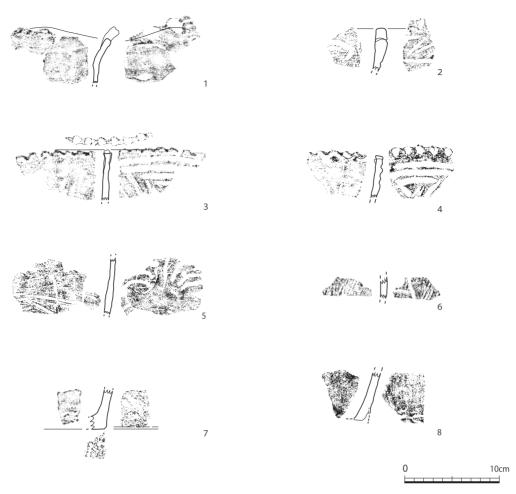
2. 包含層

(第8~10図、図版5・6)

調査区南側に深さ約 20cm 前後で拡がりを見せる、遺物を多く含む黒

色土層である。この包含層に対し、2mグリッドを設定し遺物の取り上げをおこなった。

出土遺物は縄文土器を主体とする第11図1から第23図267までである。縄文時代後期前葉から中葉にかけての西日本に起源を持つ磨消縄文土器や北・中九州に起源を持つ凹線文系の土器が中心となっている。遺物の出土状況を面的(第9図)に見ると、調査区北東及び北西、南西側に集中しており、南東部では出土量が減少している。土器の時期を見てみると、後期前葉から中葉にかけての磨消縄文土器である第11図3や7の同時期



第7図 A区1号土坑出土遺物実測図(1/4)

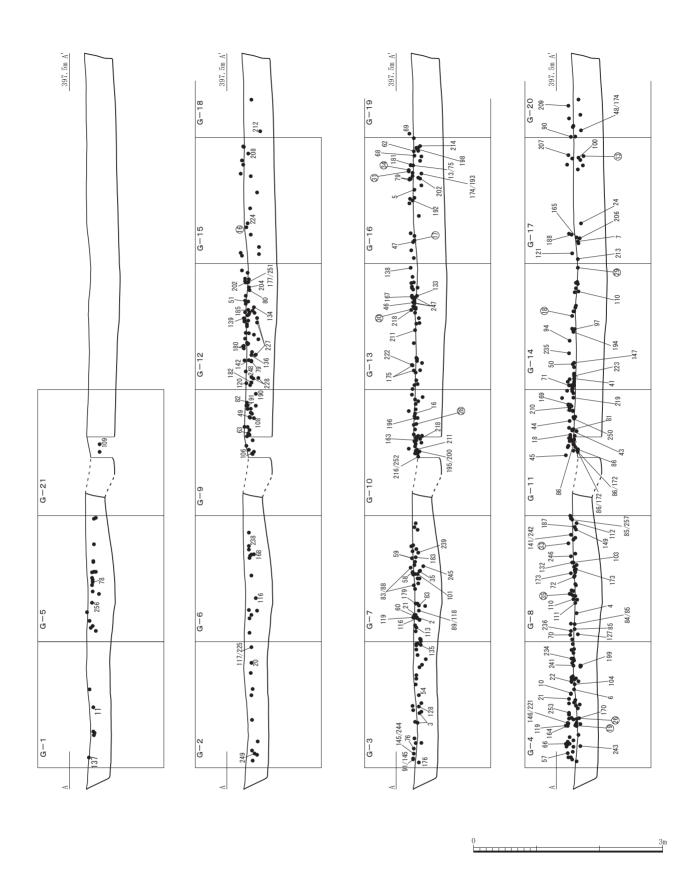
の土器が離れて出土し、波状口縁で内外面条痕調整の縄文時代中期末から後期前葉の土器である第14図83や 後期前葉から中葉にかけての磨消縄文土器である第16図133が隣接し出土している。こうしたことから、時 期による面的なまとまりを見ることは出来ない。

次に、出土深度による出土状況(第9・10図)を見ると、A-A、B-Bとも第1層の黒色土層に集中していることが見て取れる。第11図1の磨消縄文土器が第1層上面に出土し、1とほぼ同時期の第16図133が第1層下面から出土している。また第11図24の西和田式の鉢と第11図7の中津式の鉢がほぼ同じレベルで出土し、また第11図13のコウゴー松式の深鉢と第13図75の出水式の深鉢が同レベルで出土している。このことから、その深度によって遺物の時期が上下することなく出土しており、時期差がほとんどないことがわかる。このことから、この包含層は、長期間にわたって徐々に堆積したものではなく、短期間にまとまって堆積したものと考えられる。

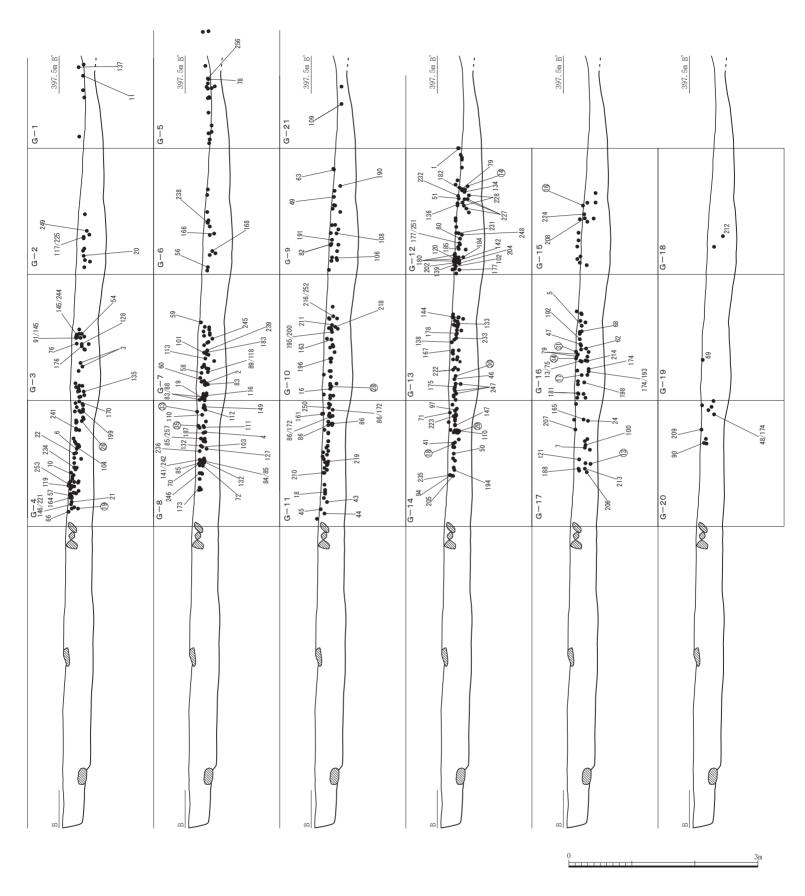
また、出土遺物を見ると摩滅している土器が少なく、流れ込みなどによるローリングの影響を受けていない。 このほか、炭化物や焼土などが出土していないことから生活面とは考えづらい。この包含層については、縄文時 代後期に周囲の生活面から廃棄された遺物の堆積層であり、土器捨て場のような場所であった可能性を考えてお きたい。また、この包含層が調査区の南側にのみ拡がりを見せることは、調査区周辺が耕作地化する段階で、削 平を受けたために部分的に残ったものと考えられる。



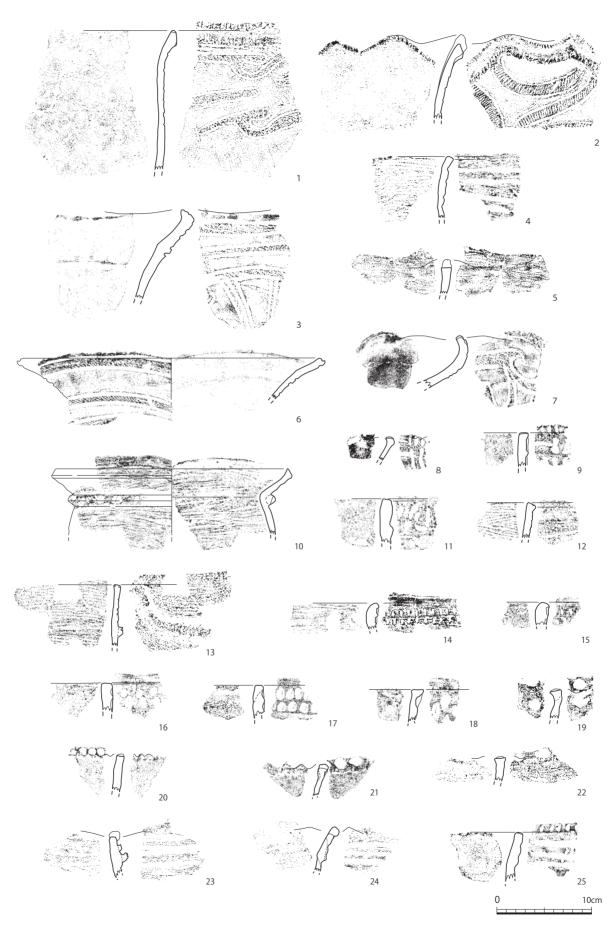
第8図 A区遺物包含層(1/50)



第9図 A区遺物包含層土層図1(1/60)



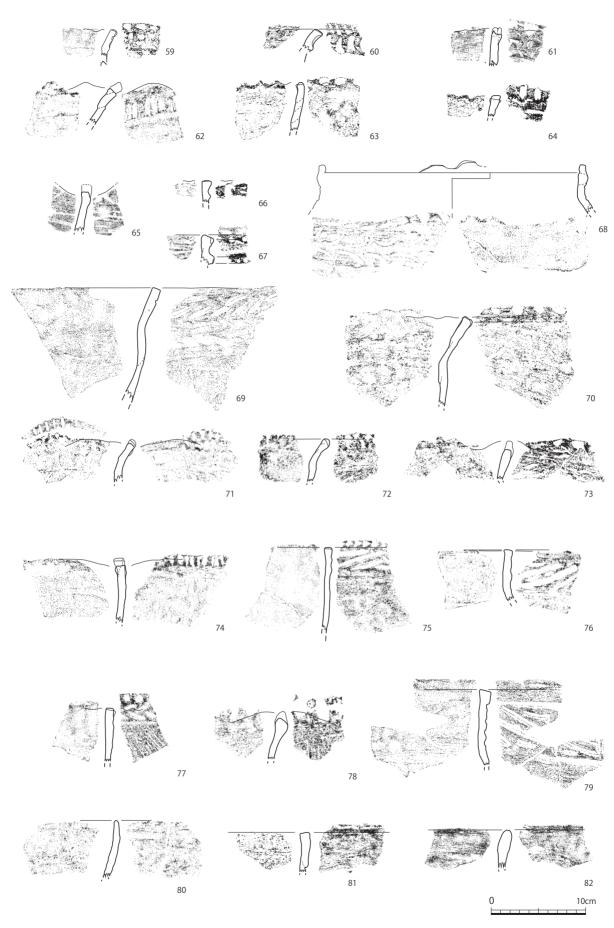
第10図 A区遺物包含層土層図2(1/60)



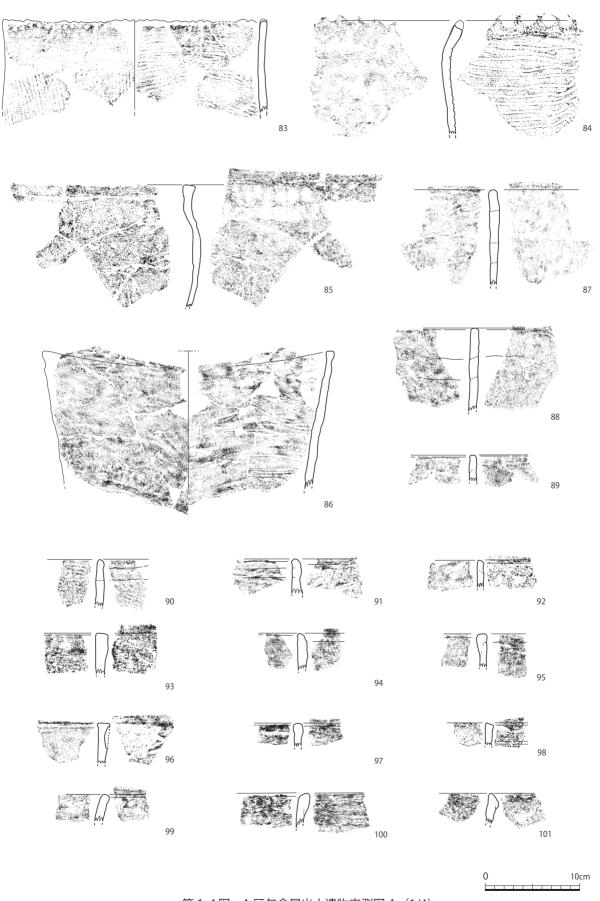
第11図 A区包含層出土遺物実測図1(1/4)



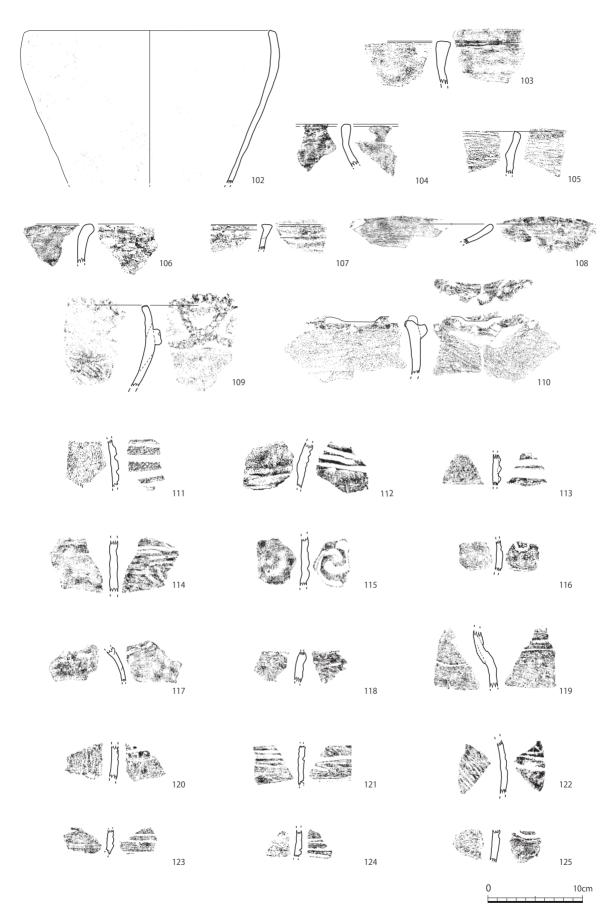
第12図 A区包含層出土遺物実測図2(1/4)



第13図 A区包含層出土遺物実測図3(1/4)



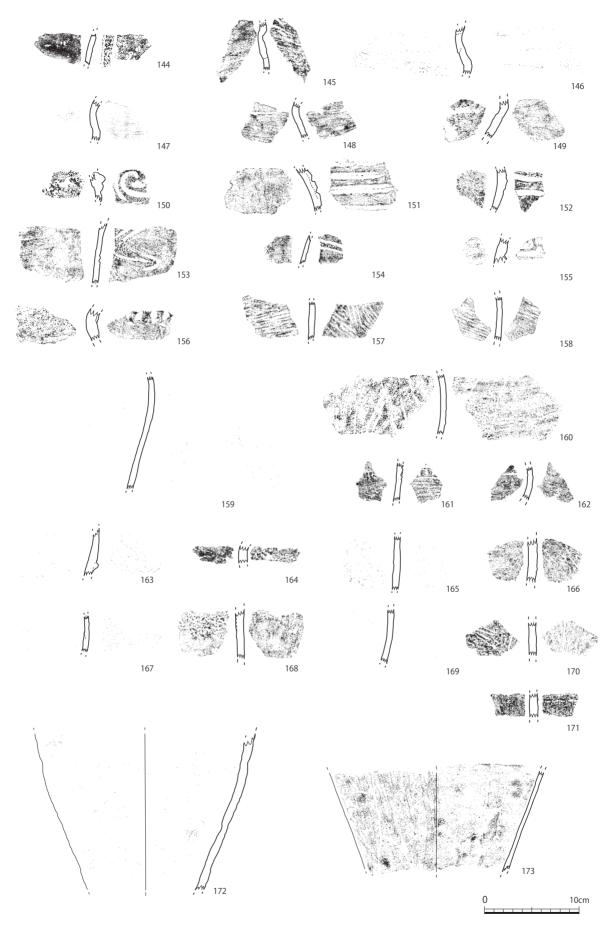
第14図 A区包含層出土遺物実測図4 (1/4)



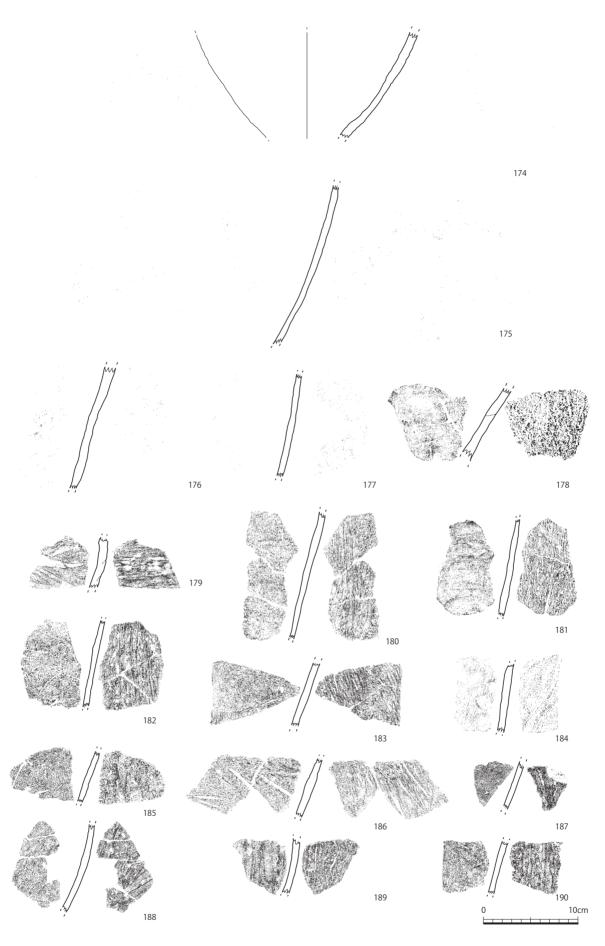
第15図 A区包含層出土遺物実測図5 (1/4)



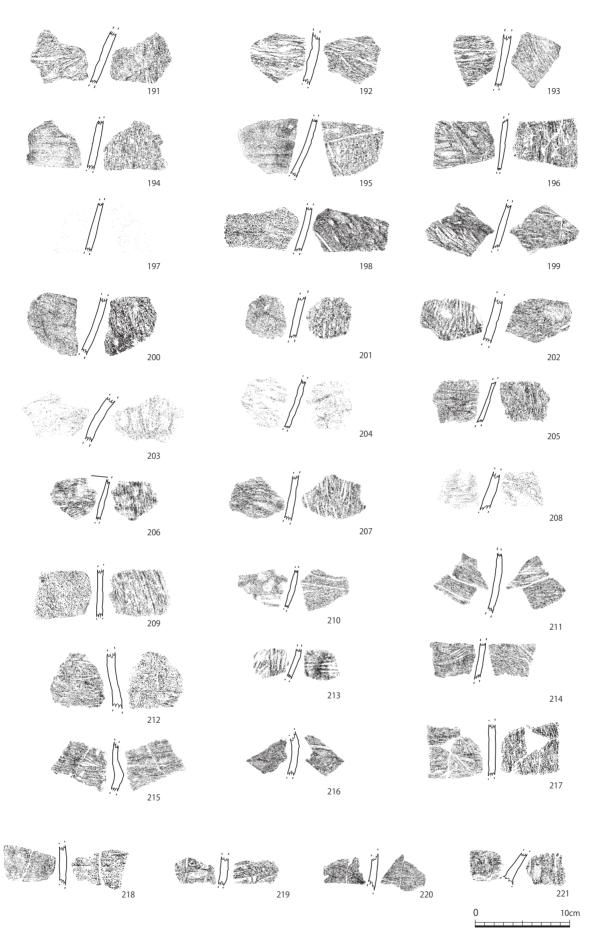
第16図 A区包含層出土遺物実測図6(1/4)



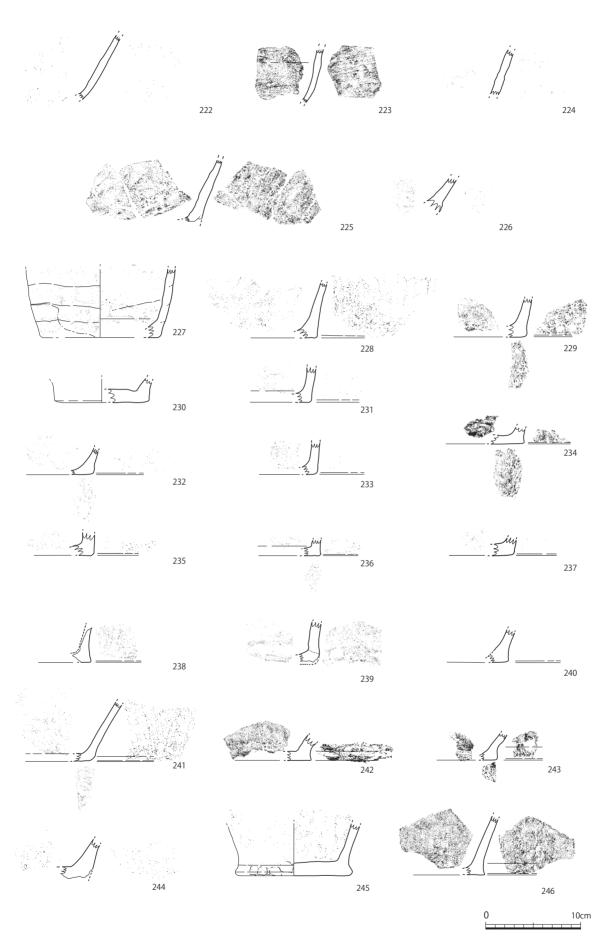
第17図 A区包含層出土遺物実測図7 (1/4)



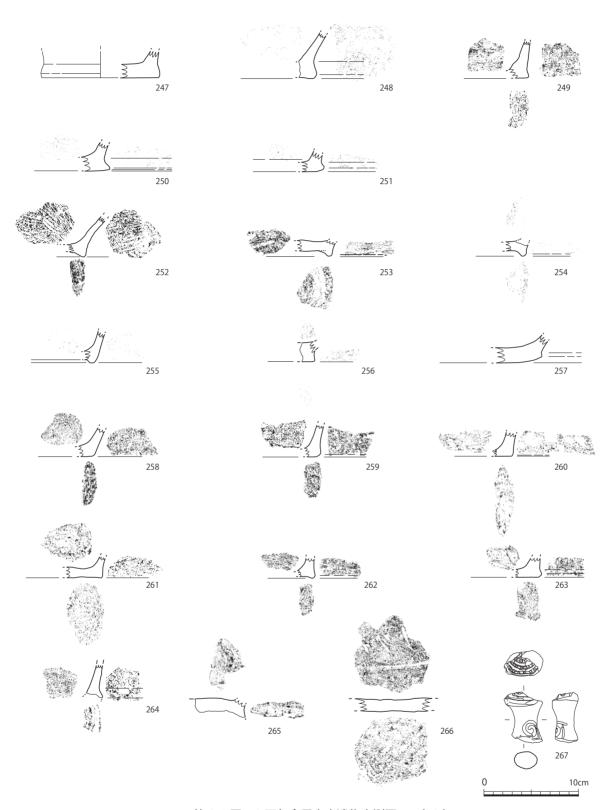
第18図 A区包含層出土遺物実測図8(1/4)



第19図 A区包含層出土遺物実測図9(1/4)



第20図 A区包含層出土遺物実測図10(1/4)



第21図 A区包含層出土遺物実測図11(1/4)

出土遺物(第11~21図、図版10~15)

1から3・6から8は沈線区画内に縄文もしくは二枚貝腹縁による連続刺突文が施される土器である。1から3・6は深鉢で、7は口縁部が内湾する鉢、8は小片のため不明確だが深鉢になると見られる。1・2は口唇部に刻目、口縁部に刻目隆帯が巡らされ、沈線区画内に二枚貝腹縁による連続刺突文が施される。2の口唇部は裏面にも刻目が施される。1・2とも内外面ナデ調整が丁寧におこなわれている。3・6は面取りした口唇部に沈線文を巡らし、沈線区画内に縄文が施される。3・6とも調整はナデ調整が丁寧におこなわれている。7は口唇部から頸部にかけて沈線区画内に縄文が施される。調整は内外面とも丁寧なナデ調整がおこなわれている。8は縄文を地文とし、その上から沈線文が施されていると見られる。口唇部をやや肥厚させ、沈線文が施される。調整は内外面ともナデ調整である。6点とも磨消縄文土器であり、中津式から福田 K Ⅱ式と考えられる。7は器形から福田 K Ⅲ式とみられる。

10 は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。口縁部に面を持たせ、頸部屈曲部に刻目隆帯が巡らされる。 内外面とも条痕調整で、その上を軽くナデ調整をおこなっている。

4・9・24・25 は深鉢の口縁部である。24 は口唇部に隆帯を貼り付け山形口縁を呈し、25 は口唇部に刻目が施される。3 点とも口縁部から頸部にかけては、口縁部に並行する凹線文もしくは沈線文が施される。調整は3点とも内外面条痕調整だが、24・25 は条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。これらは西和田式と考えられる。

11・14 から 18 は小片のため不明確だが、深鉢と見られる口縁部片である。それぞれ口縁部に短沈線文もしくは刺突文を施す。19 は口唇部に刻目を施す。11 は短沈線文が口縁部に施され、隆帯で区画されている。

16・17・18・19 は口縁部に指頭と見られる刺突文が施される。14・15 は口縁部に2列の列点文が施される。6 点とも調整は内外面ともナデ調整であるが、14の内面には条痕調整が薄く残っている。これらは西和田式と考えられる。

5 は口縁部に隆帯を貼り付ける山形口縁の深鉢である。口唇部、口縁部には特に施文がなく、調整は内外面条 痕調整で、外面は条痕調整後ナデ調整である。内外面とも調整痕が明瞭に残る。

20から22は波状口縁の深鉢である。口唇部に刻目が施される以外、施文はない。内外面とも条痕調整後にナデ調整で、22の外面には調整痕が明瞭に残る。西和田式と考えられる。

12・13・23 は深鉢の口縁部である。口唇部及び口縁部頸部に、沈線区画内及び隆帯上に刺突文が施される土器である。23 は口唇部に隆帯を貼り付け山形口縁を呈す。刺突施文具は、先の細い棒状工具と見られる。内外面とも条痕調整で、内面には調整痕が明瞭に残る外面は軽くナデ調整がおこなわれるか。これらはコウゴー松式と考えられる。

43 は深鉢の口縁部から頸部である。口唇部には刻目が施され、口縁部から頸部にかけて幾何学文様の凹線文が施されている。内外面とも条痕調整だが、外面は条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。西和田式とみられる。

44・45 は波状口縁の深鉢である。口唇部に刻目が施され、口縁部に並行する沈線文が施される。44 はその 沈線文の上から刺突文が施される。調整は内外面とも条痕調整後にナデ調整をおこなっている。これらは西和田 式とみられる。

46・48・50 から 52・56 から 58 は深鉢の口縁部である。それぞれ口縁部に 50 の入組状沈線文や縦位もしくは横位の短沈線文が施され、48・50 の口唇部には刻目、56 の口唇部には降帯を貼り付ける。

52 は第6図5と同様の沈線文が施される。調整は内外面とも条痕調整をおこなった後にナデ調整がおこなわれているが、48・50の内面には条痕調整が部分的に残っており、52は外面施文の箇所に条痕が残されている。

これらは西和田式と考えられる。

35・53から55は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部と見られる。それぞれ、口唇部に刻目を施し、口縁部に斜位の短沈線文が施される。53の短沈線文は幾何学文様になるか。調整は内外面とも条痕調整後にナデ調整がおこなわれているが、53のみ丁寧なナデ調整がおこなわれる。その施文から西和田式か。35・54・55は出水式と考えられる。

32・40 は深鉢の口縁部である。それぞれ口縁部に並行するように、沈線より幅広くしっかりとした凹線文が施される。32 はやや幅広な口唇部を成形するが無文で、40 は口唇部に刻目が施される。調整は内外面とも丁寧なナデ調整である。

26 から 28 は深鉢の口縁部である。沈線区画内に縄文もしくは二枚貝腹縁擬縄文が施される磨消縄文である。 26・27 は口唇部に沈線文を巡らし、器形が頸部で強く屈曲する深鉢である。28 は口縁部と沈線区画内に二枚 貝腹縁の擬縄文が施される。調整は内外面ともナデ調整である。これらは中津式から福田 K II 式とみられる。

34 は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部と見られる。口縁部に沈線文と隆帯上に刺突文を施す土器である。刺突文の施文具は先の細い棒状工具が用いられている。コウゴー松式と考えられる。

30 は小片のため器形等は不明である。口唇部に刺突文が施され、山形口縁波頂部から貼付隆帯を垂下させる。 隆帯上には刺突文が施される。

36 は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器片である。口唇部をやや外側に肥厚させ、二枚貝腹縁が口縁部沈線区画内に連続刺突される。調整は内外面とも条痕調整と見られるが、外面は条痕をナデ消している。

- 31 は小片のため器形等は不明であるが、口唇部を大きく肥厚させ、沈線文が施される。
- 49 は鉢の口縁部で、口唇部を丁寧に成形し口縁部にやや幅広な入組状沈線文が施される。
- 29・33 は深鉢の口縁である。口唇部に刻目が施されるのみで、その他特に施文はない。33 の口唇部刻目は部分的に施される。調整は内外面ともナデ調整である。

38 は深鉢の口縁部である。口唇部に面を持たせるのみで、その他特に施文なし。内外面とも条痕調整で、内面は条痕が残り、外面は条痕調整後のナデ調整痕が明確に残る。粗製土器である。

39 は深鉢の口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付け山形口縁を呈す。特に施文はなく、内外面とも条痕調整後にナデ調整をおこなうが、内面には部分的に条痕が残る。粗製土器である。

41・42・47 は深鉢と見られる口縁部である。口縁端部もしくは口縁部につまみ上げによる隆帯を巡らされる。 その他に特徴的な施文はない。調整は内外面ともナデ調整である。

37 は鉢の口縁部である。口縁端部を薄く成形しており、口縁部にはナデ調整痕が明瞭に残る。

59 から 62・64 から 66 は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が、口縁部に短沈線もしくは刺突文が施される土器である。60 は口縁部に爪形状の刺突文が施される。61 は口唇部に隆帯が蛇行状に貼り付けられる。62 は口唇部に隆帯が貼り付けられ、山形口縁を呈す。65 は小片のため不明確だが、沈線文が部分的に確認できる。調整は全て内外面ともナデ調整である。

68・69・75・76・79 は深鉢の口縁部である。口縁部に入組状沈線文もしくは、斜位の短沈線文を施す土器である。 68 は口唇部に2連の山形状隆帯を貼り付け、口縁部には乱れた入組状沈線文が施される。75 は口唇部に刻目が施され、口縁部には斜位の短沈線文が施される。69・76・79 は口唇部を面取りし、口縁部に短沈線文が施される。79 は2条の沈線文を巡らし、その間に斜位の沈線文が施される。いずれも調整はナデ調整と見られるが、76・79 の内面にかすかに条痕調整が残ることから、条痕調整をおこなった後に、丁寧なナデ調整をおこなって条痕を消していると見られる。これらは出水式か。

67 は小片のため不明確だが深鉢の口縁部と見られる。口縁端部及び隆帯上に、棒状施文具を用いた刺突文が

施される。調整は内面条痕調整で外面はナデ調整と見られる。コウゴー松式か。

63・70から74・77は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施されるのみで、その他特に施文はない。71・73・74は口唇部に隆帯を貼り付け刻目が施される。

71 は隆帯を貼り付けることにより山形口縁を成し、貼り付けた隆帯上のみ刻目が施される。63・70・72・77 は面取りをした口唇部に刻目が施される。調整は内外面とも条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。70 は条痕調整した後に、粘土帯部分を丁寧にナデ調整している。全て粗製土器。

78 は深鉢の口縁部である。口唇部に蛇行する隆帯を貼り付けている。その他特に施文はない。調整は内外面 条痕調整後にナデ調整をおこなっている。

80 から 82 は深鉢の口縁部である。口唇部、口縁部とも特に施文はない。調整は内外面とも条痕調整後に丁寧なナデ調整がおこなわれている。内外面に調整痕が残る。粗製土器。

83 は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器片である。波状口縁を呈す。内外面とも条痕調整で、外面は縦方向、 内面は横方向の調整で、内外面とも明瞭に調整痕が残る。特に施文はないが、口縁部から頸部にかけての条痕調 整はナデ消されている。粗製土器と見られる。

84・96 は深鉢の口縁部である。84 は口唇部に刻目が施され、口縁部に並行する沈線文が、曲線を交えて胴部付近まで連続する。96 は口縁部が一部剥離していて不明確だが、沈線文が一部残っている。調整は2点とも内外面条痕調整後に丁寧なナデ調整がおこなわれている。84 は内面に条痕調整が薄く残っている。これらは西和田式と考えられる。

85 は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。口唇部面取りをするが、その他は特に施文は見られない。 調整は内外面ナデ調整だが、口縁部には指頭によるナデ調整が顕著に見られる。粗製土器。

86 は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。4 単位の山形口縁で、内外面条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。内面に条痕が薄く残っている。粗製土器。

87から95・97から101は小片のため不明確だが深鉢と見られる口縁部片である。明確な施文は見られないが、99は口縁部に爪形状の刺突文が施されている。それぞれ条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。粗製土器。

102 は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器である。内外面横方向のナデ調整である。

103から107、109・110は深鉢の口縁部である。103は外面にミガキが施される。精製土器。104・106・107は内外面ともナデ調整がおこなわれており、106は口縁端部が肥厚する。105は丁寧な横ナデ調整後に外面には列状に雑な刺突文がおこなわれている。模倣品か。109は粘土紐による刺突連点、口縁部には刻目が施される。110の外面は指押えによる降帯がみられる。

108 は浅鉢の口縁部である。内外面ともに丁寧なナデ調整がおこなわれる。

111 から 125 は深鉢もしくは浅鉢の胴部である。111・112 は内外面ともにナデ調整後に沈線が施される。 113 はナデ調整後に突帯を貼り付けている。

114 は内外面とも条痕後にナデを施している。115 は外面に渦巻文を施している。116 は外面に赤色塗料が残る。また、滑石を多量に含んでいる。120 は外面を沈線で区画して刺突文が施される。121 から 124 の外面はナデ調整後に沈線が施される。121 の内面には接合痕が残る。125 は外面ミガキ調整が施される。

129 は頸部が屈曲し胴部が張る深鉢である。頸部に入組状沈線文や刺突文が施され、胴部に刻目隆帯を貼り付けることにより区画する。調整は内外面ナデ調整である。

131 は小片のため不明確だが、深鉢の胴部片と見られる。隆帯上に刺突文が施される。調整は内外面ナデ調整で、内面に調整痕が残る。コウゴー松式か。

126 から 128・130 は深鉢もしくは鉢の胴部片と見られる。126・127 は凹線文が施される。130 はつまみ

出しの隆帯に刻目が施される。128 は特に施文は見られない。126・127 は内外面条痕調整後ナデ調整がおこなわれている。128・130 は内外面ともナデ調整である。

132 から 142 は深鉢もしくは鉢の胴部片である。135・137・138・141・142 は沈線区画内に縄文が施される。それぞれ内外面とも丁寧に磨り消されている。133・139 は沈線区画内に二枚貝腹縁を連続刺突文が施されている。132・136・140 は沈線区画内に縄文が施される。この 3 点は、これまでの土器と異なり、胎土が非常に精微で器壁も薄い。在地で作られた土器ではなく、搬入品と見られる。中津式から福田 K II 式と考えられ、137 については福田 K II 式の鉢とみられる。

143 は緩やかに頸部が屈曲し、やや胴部が張る胴部である。条痕調整後にナデ調整をおこなう無文の土器である。粗製土器。

151 は胴部が内湾する鉢である。施文箇所に粘土を貼り付け、その上に棒状工具を用いたやや幅広な沈線文が施されている。胎土には滑石片が大量に含まれている。この胎土に滑石を含む土器は、本遺跡において他に確認できず、在地の土器ではなく搬入品と見られる。

152 は胴部で内湾する鉢である。屈曲部に並行するように沈線文が施される。内外面とも丁寧なナデ調整である。中津式から福田 K Ⅱ 式と考えられる。

155 は小片のため不明確だが、深鉢もしくは鉢の胴部になると見られる。凹線文が幾何学文様で施されている。調整は内外面ナデ調整で、内面に調整痕が残る。

156 は頸部で外反する深鉢である。屈曲部に連続刺突文が施される。調整条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。

161は小片のため不明確だが、深鉢の胴部片か。沈線区画内に連続刺突文が施される。内外面ともナデ調整だが、外面には調整痕が残る。

144・154 は深鉢もしくは鉢の胴部である。沈線区画内に縄文が施されている。調整は内外面とも丁寧なナデ調整がおこなわれている。胎土が非常に精微で、器壁が薄い。中津式から福田 K Ⅱ 式と考えられる。

153 は深鉢の胴部である。沈線文が施された後、先の細い棒状工具を使用して連続刺突文が施される。内外面ともナデ調整で、内面に調整痕が残る。コウゴー松式と考えられる。

145・146・148・149・157 から 160・162 から 173 は、深鉢もしくは鉢の胴部片である。149 は胴部がやや強く屈曲し、162 は湾曲の丸みがやや強い。条痕調整後にナデ調整をおこない、施文はない。163 には貼付隆帯が部分的に残る。157・158 は内外面とも条痕調整が明確に残る。全て粗製土器と見られる。

174から190は深鉢である。調整は内外面とも条痕調整もしくは、条痕調整後にナデ調整がおこなわれている。 施文はない。186は内面に調整時に使用したと見られる植物茎の痕跡が明瞭に残っている。187はナデ調整の みがおこなわれており、胎土も非常に精微である。器形は底部に向かいほぼ直線的になるが、188・189はやや 内湾している。全て粗製土器と見られる。

191から221は深鉢もしくは鉢である。221はほぼ底部である。198・216には沈線文と見られるものもあるが、その他は無文である。内外面とも条痕調整もしくは、条痕調整後にナデ調整がおこなわれる。202は内面に条痕が残っており、213は内外面とも条痕が残る。器形は底部に向かいほぼ直線的になる土器片が多いが、215は屈曲が強い。203・212は緩やかに外反する。216・220は緩やかに内湾する鉢形になるか。

222 から 226 は深鉢の胴部である。225・226 はほぼ底部に近い。施文はない。調整は全て内外面ともナデ調整がおこなわれているが、223 の外面及び 225 の内外面には調整痕が明瞭に残っている。

227 から 246 は深鉢の底部である。特に施文はない。調整は内外面ともナデ調整もしくは、条痕調整後にナデ調整をおこなっている。227 は粘土接合帯が明瞭に観察できる。229・232・243・241 の底面には組織痕も

しくは成形痕が確認できる。245 は底部がやや張り出している。242・246 は底部に強い稜線が生まれている。 全て縄文時代後期か。

247 から 266 は深鉢の底部片である。底部形態は平底だが、257 はやや丸みを帯びた底部となっている。内外面条痕調整もしくは条痕調整後にナデ調整をおこなっている。250 は底部が強く張り出している。

249・252 から 254・256・258・259 から 263・266 は底面に組織痕もしくは成形痕が見られる。264 は底部と胴部との粘土接合帯で剥離している。

267 は鉢の口縁突帯部の一部と考えられる。押引沈線文や渦巻き状沈線文が施されている。ただ、その形状から土偶の腕部もしくは脚部の可能性もある。

3、その他の遺物(第22~25図、図版15)

1・3・15 は深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施される。その他に施文はないが、3 の頸部には沈線文が部分的に見られる。調整は内外面ともナデ調整だが、1 の内面及び 15 の外面には調整痕が明瞭に残る。これらは西和田式と考えられる。

2 は口縁がやや外反する深鉢の口縁部である。口唇部に刻目が施され、口縁部に並行する凹線文が施される。 内外面ともナデ調整だが、両面とも調整痕が残る。

7 は深鉢もしくは鉢形の土器である。口縁部に貼付隆帯と沈線文、刺突文が施される。調整は内外面ナデ調整で、外面に赤彩痕が確認できる。

5・6・8・19 は深鉢もしくは鉢の口縁部である。5 は屈曲部が口縁部に近い箇所にあることから、鉢形になると見られる。5 は口唇部に沈線文を巡らし、口縁部に斜位の短沈線文が施される。6 は山形口縁で、口唇部に刻目、口縁部には2条の沈線文の間に列点文が施される。8 は口唇部を面取り成形し刻目が施され、口縁部に列点文が施される。19 は口唇部に刻目が施され、横位の列点文もしくは短沈線文が施される。4 点とも調整は内外面条痕調整後にナデ調整をおこなう。6 の内面には条痕が薄く残る。8 の内面には明瞭に調整痕が深く残る。これらは西和田式と考えられる。

20 は小片のため不明確だが、深鉢の口縁部と見られる。口唇部及び口縁端部には施文及び面取り成形は見られない。やや隆起した口縁部に幅の細い刻目が施される。調整は内外面ともナデ調整である。

11 は深鉢、22 は鉢の胴部である。それぞれ沈線区画内に縄文が施される磨消縄文である。内外面とも丁寧なナデ調整をおこなっている。特に 11 の外面はミガキに近いナデ調整がおこなわれている。胎土も非常に精微で、器壁も薄い。第 1 6 図 132 と同様に搬入品と見られる。これらは福田 K II 式と見られる。

12 は小片のため不明確だが、鉢の胴部と見られる。沈線文が施された後に、連続刺突文が施される。調整は内外面とも丁寧なナデ調整である。

18 は小片だが深鉢の口縁部と見られる。口縁部内面に隆帯を貼り付け、山形口縁を呈す。その他には施文はない。調整は内外面ともナデ調整である。

4・9・10 は深鉢の口縁部である。10 は鉢の可能性がある。特に施文はない。9 は口唇部を面取り成形し、10 は隆帯を貼り付けている。調整は内外面ともナデ調整で、10 の内外面には調整痕が明瞭に残る。粗製土器である。

13 は頸部が緩やかに屈曲する深鉢で、屈曲部には粘土帯が観察できる。14 は底部に向かってすぼみを見せる 砲弾形の深鉢である。2 点とも内外面とも条痕調整後にナデ調整をおこなっている。粗製土器か。

16・17 は底部片である。2 点とも底部立ち上がり部に若干の面取りをおこない、稜線が生まれている。17 は底部立ち上がり部が強く張り出す。

21 は焼成後に穿孔がおこなわれる土器である。補修孔と見られるが、土器片自体が丸みを持つ平面をしていることから、有孔円盤の可能性も考えられる。使用されている土器片は、沈線文が施されている。

33 は深鉢の口縁部から胴部である。口縁部はやや外反する。口唇部に指頭による刻目が施され、口縁部から頸部にかけては、入組状の沈線文が施される。内外面とも条痕調整で、明瞭に調整痕が残る。西和田式と考えられる。

31 は深鉢の口縁部である。口唇部には部分的に刺突文が施され、口縁部には縦位に連続列点文が施されている。 2 列の連続列点文か。調整は内外面ナデ調整だが、内面に条痕と見られる痕跡も見られる。西和田式か。

32 は鉢もしくは頸部で屈曲する深鉢の口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付け、刻目が施される。内外面とも丁寧なナデ調整で、内外面とも調整痕が明瞭に残る。

26 は小片のため不明確だが深鉢の口縁部になるか。口唇部に刻目が、口縁部に並行する凹線文もしくは沈線 文が施される。調整は内外面とも条痕調整後ナデ調整をおこない、内面には条痕が薄く残る。

34は頸部で屈曲する深鉢の口縁部から胴部である。面取りした口唇部に刻目が施される。その他に施文はない。 内外面とも丁寧なナデ調整で、特に口縁部から頸部にかけては丁寧なナデ調整がおこなわれている。粗製土器。

23・27・28・35 から 37 は深鉢の口縁部から胴部である。施文はない。6 点とも内外面とも条痕調整後ナデ調整がおこなわれており、23 の外面及び 27・28 の内面には明瞭に条痕が残る。27・28・37 は口唇部に面取り成形が見られるが、23・35・36 には見られない。

24・29・30・39 は底部である。内外面とも条痕調整後軽くナデ調整がおこなわれ、底面に成形痕もしくは 組織痕が確認される。30 は若干上げ底気味になる。

38 は底部である。底部に若干高台気味の張り出し部がある。内外面とも条痕調整で、ナデ調整はおこなわれない。

25 は焼成後穿孔がおこなわれている補修孔または紡錘車である。内外面に条痕調整痕が見られる。

55 は口縁部がやや外反する深鉢である。口唇部に隆帯を貼り付け、緩やかな山形口縁を呈す。口縁部に斜位の短沈線文が施され、その下は施文されない。内外面条痕調整後に丁寧なナデ調整をおこなう。内面に条痕調整が薄く残る。出水式と考えられる。

54 は緩やかな屈曲を持つ深鉢の胴部である。頸部に連続刺突文が施される。この連続刺突文を施す前に沈線文を巡らすか。内外面とも条痕調整で、明瞭に調整痕が残る。

40 は頸部で屈曲する深鉢の口縁部から胴部である。口縁端部は折り返し、面を形成する。口縁部と屈曲部の間に隆帯を巡らす。この隆帯と口縁部の間及び頸部の間には、ナデ調整で施文帯を形成する。胴部は無文である。調整は内面ナデ調整、外面は条痕調整であり、外面には調整痕が残る。西和田式か。

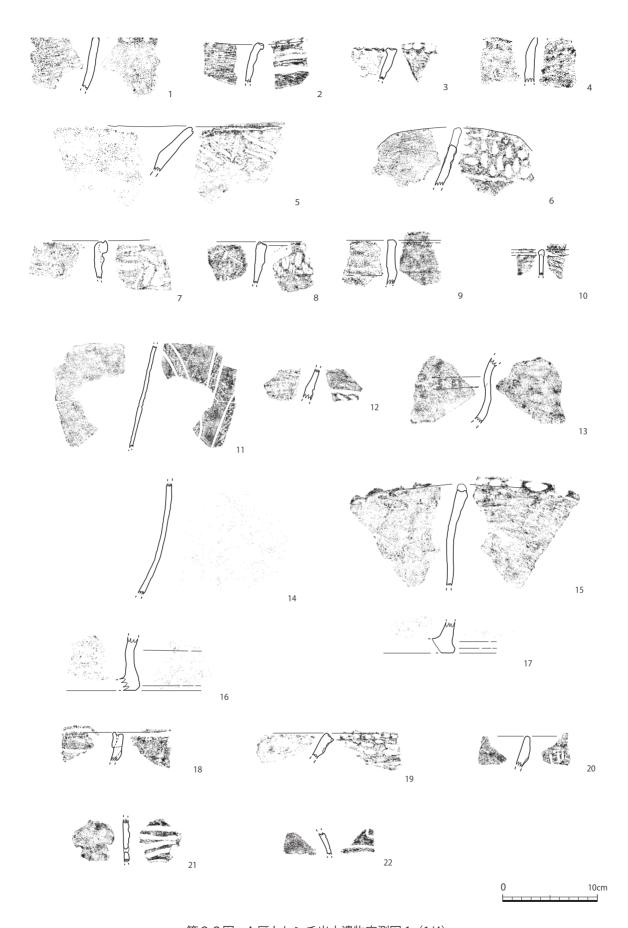
48 は小片であるが深鉢の口縁部と見られる。口唇部に指頭による刻目が施され、波状口縁を呈す。口縁部にはやや幅広な短沈線文が縦位に施される。内外面ともナデ調整である。

47 は深鉢の口縁部である。口唇部に面取り成形をおこない刻目が施される。調整は内外面ナデ調整であるが、 外面には調整痕が残る。

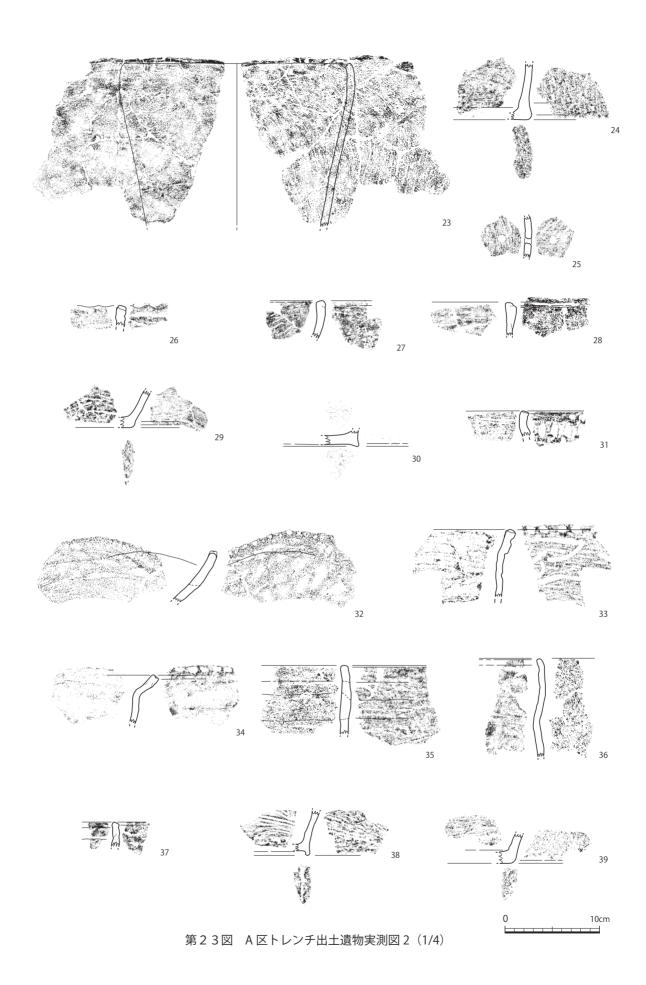
53 は山形口縁の鉢口縁部である。口唇部に隆帯を貼り付けることにより山形口縁を成す。内外面丁寧なナデ調整である。特に施文はない。

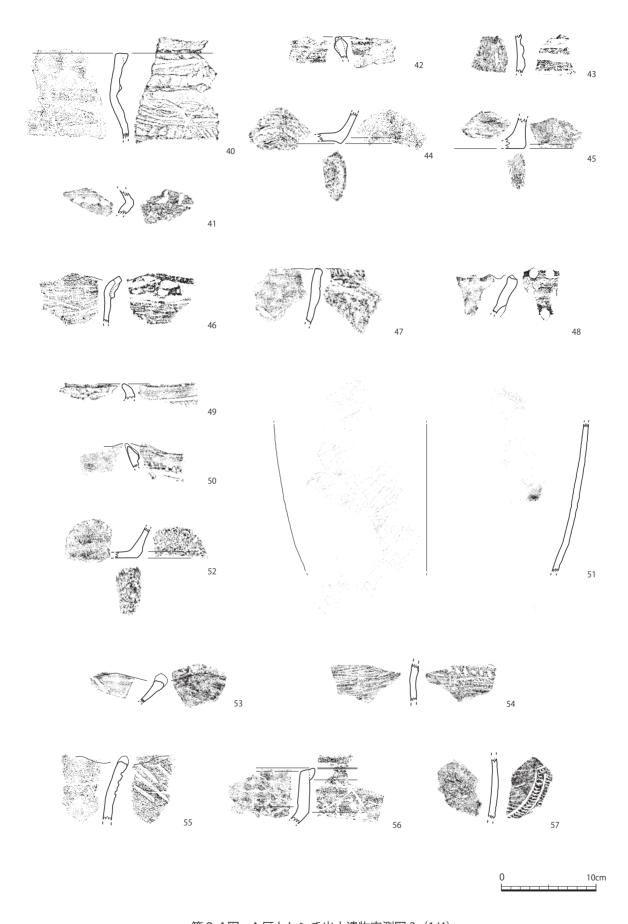
46 は山形口縁の深鉢である。口縁端部に刻目隆帯を貼り付け、山形口縁を成す。内外面条痕調整で、内外面とも調整痕が明瞭に残る。

41 は強い屈曲を持つ鉢の胴部である。屈曲部には連続刺突文が施される。胴部は無文。内外面とも条痕調整後ナデ調整がおこなわれる。内面の屈曲部には指頭痕が明瞭に残る。

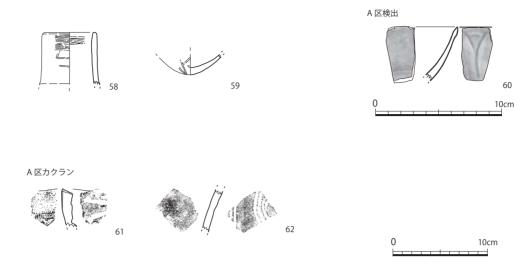


第22図 A区トレンチ出土遺物実測図1 (1/4)





第24図 A区トレンチ出土遺物実測図3(1/4)



第25図 A区トレンチ出土遺物実測図4(1/4)

43 は深鉢もしくは鉢の胴部である。幅広な沈線文が施される。胎土に滑石が多量に入る土器で、第17図 151 と同一個体と考えられる。

42・50 は口縁部が内湾する鉢である。50 は山形口縁になるか。42 は特に施文はないが、50 には口縁部に連続刺突文が施される。調整は2点とも内外面ナデ調整だが、50 の内面には調整痕が明瞭に残る。

49・57 は、49 は口縁部が内湾する鉢で、57 は深鉢もしくは鉢である。口縁部に並行する沈線文が施され、その沈線文の間に縄文が施される。内外面丁寧なナデ調整である。これらは福田 K Ⅱ 式とみられる。

56 は頸部で強く屈曲する深鉢の口縁部である。口縁端部には隆帯を巡らす。その他に施文はない。内外面条痕調整で、外面は条痕調整後ナデ調整をおこなう。

51 は底部に向かって緩やかなカーブを描く深鉢の胴部である。施文はない。調整は内外面条痕調整で、内面は条痕調整後にナデ調整をおこなっている。粗製土器。

44・45・52 は深鉢と見られる底部である。44 は内外面条痕調整後ナデ調整で、内面に条痕が残る。若干上 げ底気味になるか。45・52 は内外面ナデ調整で、内外面とも調整痕が残る。底部立ち上がり部分に面取りを入 れることから、稜線が生まれている。3 点とも底面に成形痕もしくは組織痕が残る。

58・59 は土師器の壷である。58 は口縁部のみ残存し、59 は底部のみ残存している。60 は青磁碗である。外面に鎬蓮弁が施される。この時期の遺物はこの一点のみであり、この他に確認できないことから、遺構に伴うような遺物ではないと考えられ、斜面上に中世の遺構も確認されていることから、上部から混ざ込んだものと想定している。

61・62 は縄文土器の深鉢である。ともに外面に沈線文が施され、62 には磨消縄文が見られる。

石器・石製品(第26~31図、図版16)

- 1はサヌカイトの剥片で、先端部に二次加工痕がある。
- 2はサヌカイトの削器で、先端部に微細剥離がある。
- 3は姫島産黒曜石の剥片で二次加工等はない。
- 4・5 はサヌカイトの縦長剥片で二次加工はない。自然面が残る。6 は姫島産黒曜石の縦長剥片で二次加工はない。自然面が残る。

7は砂岩と見られる磨製石斧で、刃部は欠損している。

8 は安山岩の石核で、二次加工はないが微細剥離は確認できる。この遺物については、最も大きな剥離面が、 自然面を除去するための剥離の可能性があり、横長剥片素材の石核もしくは、スクレイパーなどの素材剥片の可 能性も考えられる。

9 は黒曜石製の剥片である。ナイフ形石器の可能性もあるが、明確に判断はできない。10 は姫島産黒曜石の石鏃で、先端部は使用時の欠損と見られる。11 は小国産と見られる黒曜石の石鏃で、刃部は鋸歯状に加工されている。12 は西部九州産黒曜石の石鏃である。

13はサヌカイトの削器である。14はサヌカイトの削器で、二次加工が見られる。15はサヌカイトの削器である。 石匙と見られるが、石錐の可能性もある。16はサヌカイトの石匙である。基部には自然面が残る。

17 はサヌカイトの石錐で、先端部は欠損している。

18 は安山岩の削器で、上部に自然面が残る。

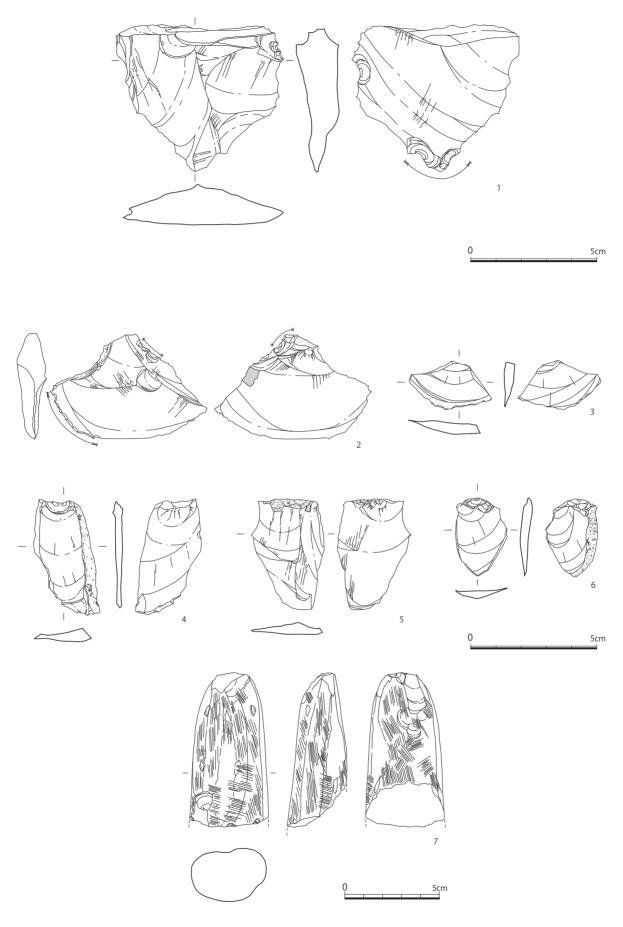
19 は安山岩の石核である。ただし、石核にしては剥離が小さく、剥片を取った最後の残りである残核と見られる。

20 はサヌカイトの剥片で二次加工がある。21・22 は姫島産黒曜石で、21 は二次加工、22 には微細剥離がある。23・24 はサヌカイトの剥片で二次加工等はない。25 は姫島産黒曜石の縦長剥片で、二次加工はない。26 は安山岩の横長剥片である。

27 は蛇紋岩の磨製石斧で、断面は扁平である。刃部には使用時と見られる欠損があり、基部は欠損している。28 は砂岩と見られる磨製石斧で、断面は楕円形である。基部は欠損している。29 は蛇紋岩の磨製石斧で、断面は扁平である。基部は欠損している。刃部は使用時の欠損か。30 は砂岩と見られる磨製石斧の刃部である。31・32 は蛇紋岩の磨製石斧で、刃部は欠損している。2 点とも断面は扁平である。33 は砂岩の磨製石斧で、断面は楕円形である。刃部は欠損している。34 は安山岩の磨製石斧である。断面は楕円形で、刃部周辺にのみ擦痕する。35 は角閃安山岩の磨製石斧で、断面は楕円形である。

36 は安山岩の敲石である。断面はほぼ円形に近い。先端部に敲打痕が残る。

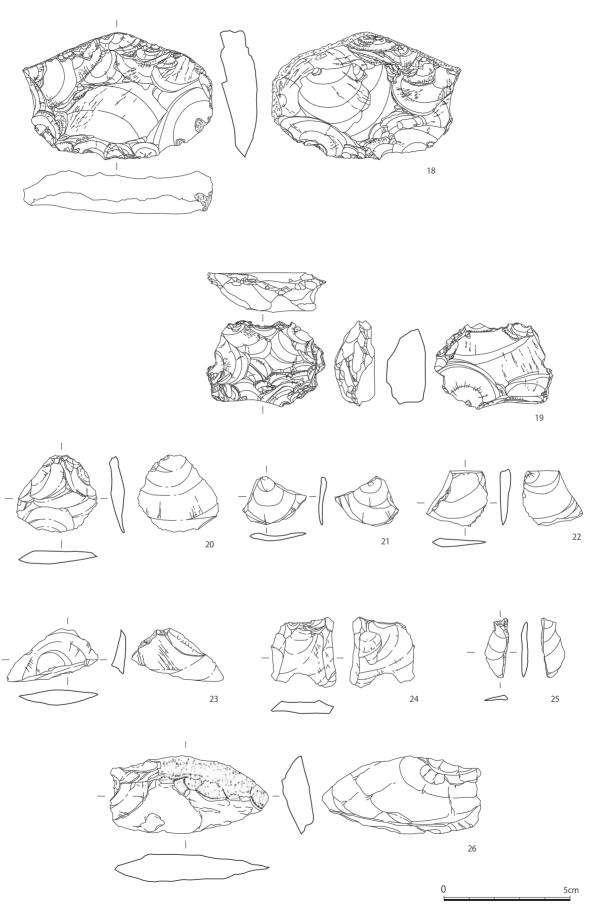
37 は蛇紋岩の磨製石斧である。断面は楕円形で、刃部は欠損している。



第 2 6 図 A 区出土遺物実測図 1 (1 ~ 6:2/3、7:1/2)



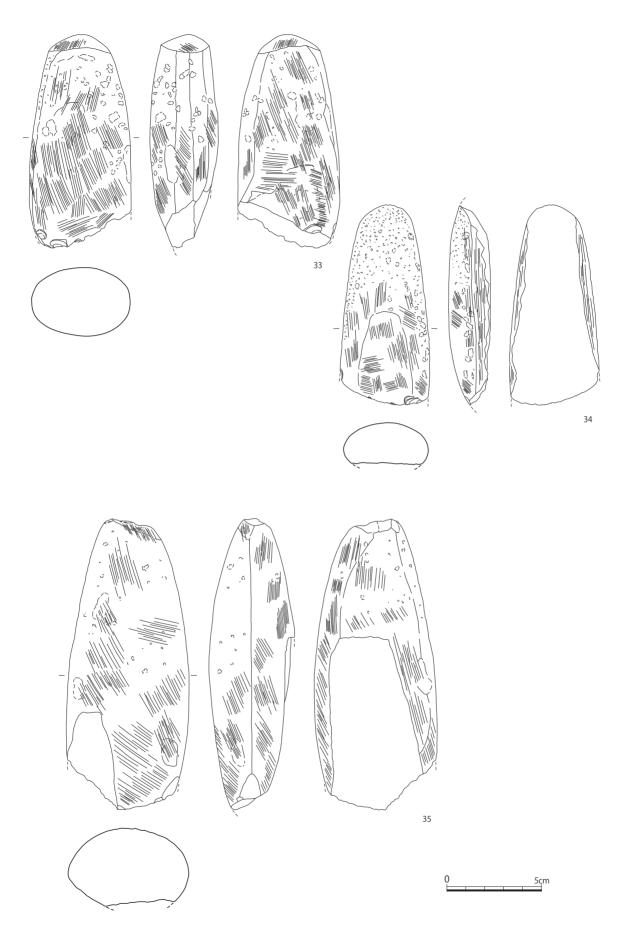
第27図 A区出土遺物実測図2(2/3)



第28図 A区出土遺物実測図3(2/3)



第29図 A区出土遺物実測図4(1/2)



第30図 A区出土遺物実測図5(1/2)



第31図 A区出土遺物実測図6(1/2)

(3) B区の遺構と遺物(第32図)

B区は調査区内でも最も標高が高く、標高 414m 前後に位置し、調査面積は 441.2㎡を測る。南から北に向かう緩斜面上の比較的に緩やかな場所に所在し、表土・耕作土直下、地表面より約 30cm下から黄褐色土の遺構検出面を確認している。耕作土直下から検出面が確認されることから、周囲は後世に削平を受けたものと想定される。この検出面は地形に沿うように北にいくほど深くなっていく。

調査では掘立柱建物2棟、ピットが多数検出されている。

1号掘立柱建物(第33図、図版6)

1号掘立柱建物は、調査区の中央に位置しており、柱穴 P 3・18 や P16・31 の切り合い関係から 2号掘立柱建物によって切られる。梁間 2 間×桁行 6 間の東西棟で、身舎面積は約 74.7㎡である。その主軸方向は N - 67 $^{\circ}$ $^{\circ}$

2号掘立柱建物(第33図、図版6)

2号掘立柱建物は、調査区の中央に位置しており 1号掘立柱建物を切る。梁間 2 間×桁行 6 間の東西棟で、身舎面積は約 76.4㎡である。その主軸方向はN - 67° - W であり、1号と同一をとる。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 2.6 m、西側辺で 2.5 \sim 2.7 m、桁行は北側辺で 2.2 \sim 2.5 m、南側辺で 2.3 \sim 2.5 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 27 \sim 90cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴 P 1 より近世染付碗底部、P 2 より近世陶器碗口縁部片、P10 より染付皿口縁部片、P16 より近世陶器碗底部が出土している。また、2 号掘立柱建物はほぼ同じ場所で複数のピットが切り合っていることから、数度の建て替えが行われたものと想定される。

出土遺物 (第34~37図)

ここでは、B区から出土した遺物をまとめて報告する。なお、掘立柱建物より出土した遺物には図版番号横に括弧書きで遺構名と柱穴番号を記している。その他の遺物については観察表を参照されたい。

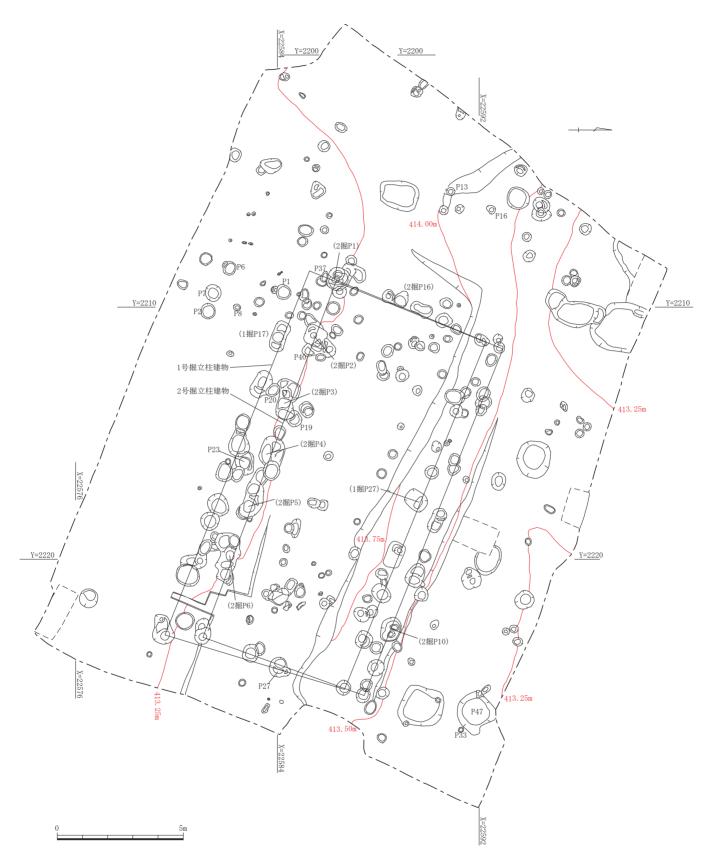
 $1\sim 6$ は 1 号掘立柱建物 P17 より出土した遺物である。1 は磁器(染付)碗である。外面に文様が描かれる。 2 は青磁の火入である。内外面に釉が施され、外面口縁部に貫入がある。3 は磁器(染付)皿である。内外面に釉が施され、内外面に貫入がある。外面底部に特徴的な朝の文字があることから朝妻焼と考えられる。 $4\sim 6$ は盤、内 $5\cdot 6$ は瓦質土器でいずれも内面に回転ミガキが施される。

7は2号掘立柱建物P2より出土した陶器の擂鉢である。刷目は細かい。福岡産と考えられる。

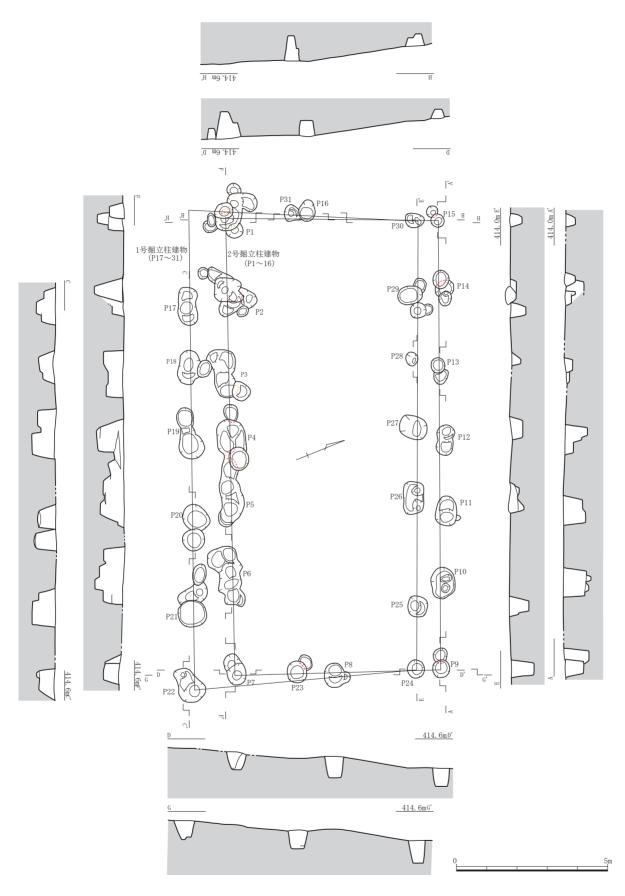
 $8\sim12$ は 2 号掘立柱建物 P3 より出土した遺物で $8\sim11$ は碗である。8 は磁器 (染付)内面に文様、貫入あり。 9 は磁器、10 は青磁である。11 は磁器(染付)で外面に花柄と思われる文様あり。12 は陶器瓶である。外面白化粧による文様が施される。福岡産と考えられる。13 は 2 号掘立柱建物 P4 より出土した青磁碗である。

 $14 \sim 16$ は 2 号掘立柱建物 P5 より出土した土器で $14 \cdot 15$ は磁器(染付)碗である。15 は外面胴部に重ね焼痕が残る。16 は土師質土器の火鉢である。

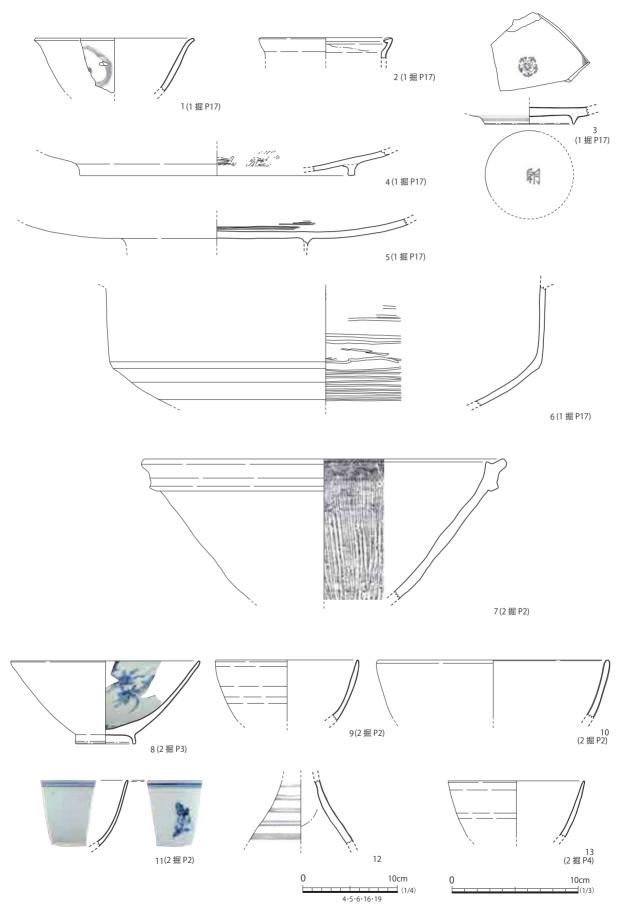
17 は 2 号掘立柱建物 P6 より出土した碗である。福岡産と考えられる。内面に付着物が有る。



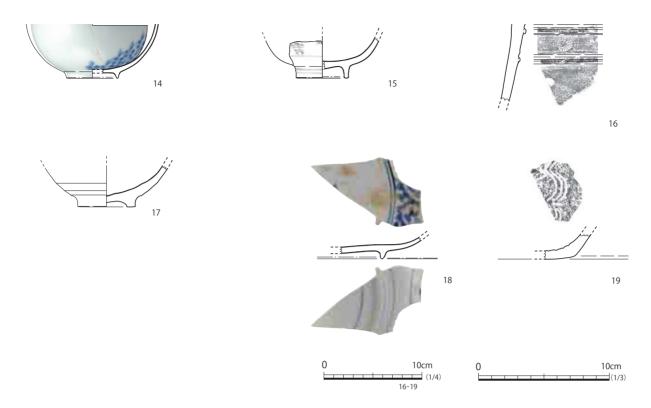
第32図 B区遺構配置図(1/150)



第33図 B区1・2号掘立柱建物実測図(1/125)



第34図 B区出土遺物実測図1 (1/3、4~6・16・18:1/4)



第35図 B区出土遺物実測図2(1/3、16·19:1/4)

18 は染付、19 は土師質の皿である。18 は肥前産陶器と考えられる。19 は内面に波状の文様が施される。20 は磁器皿で内面に赤絵が施される。 $21\sim23$ は磁器碗である。いずれも内外面に貫入が確認される。

24・26 は磁器皿である。24 の内外面には貫入が確認される。

25・27 は磁器碗である。27 は 2 号掘立柱建物 P16 より出土している。また、内面には貫入が確認される。 28 は片口小鉢である。福岡産と考えられる。29 は 1 号掘立柱建物 P27 より出土した香炉である。外面には 櫛描波状文が施される。30 は 2 号掘立柱建物 P10 より出土した磁器(染付)皿である。

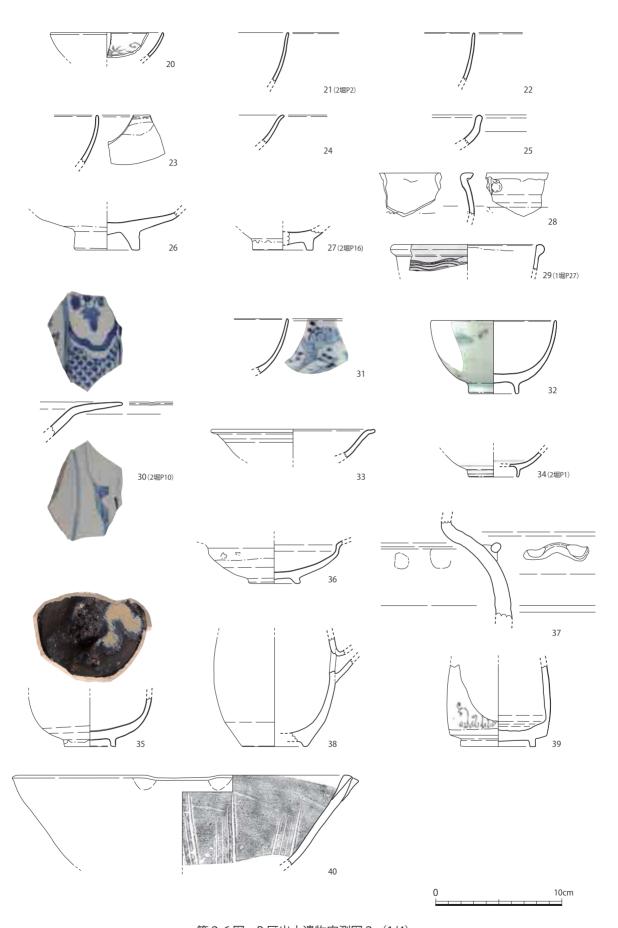
31・32 は磁器(染付)碗である。32 の畳付には砂が付着する。33 は磁器皿である。

 $34 \sim 36$ は碗である。34 は 2 号掘立柱建物 P1 より出土した磁器(染付)で内外面に貫入が確認される。 $35 \cdot 36$ は陶器で 35 には外面胴部に重ね焼痕が残る。

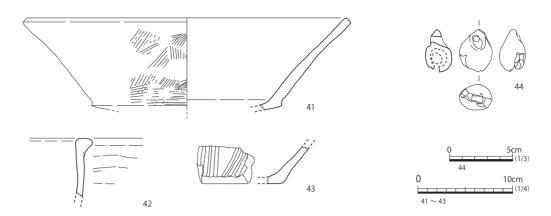
37 は陶器壷である。外面に沈線がめぐり、肩部に耳部貼付けが施される。産地は肥前か福岡産と考えられる。38 は陶器油さしで、注口が残る。福岡県上野産と考えられる。39 は陶器火入(灰落)である。外面底部に文様が施される。40 は瓦質土器の擂鉢である。41 は土師質土器鉢である。外面に不定方向のハケが施される。42 は土師質土器甕である。口縁部を肥厚させている。43 は土師質土器擂鉢である。底部のみ残存する。44 は土鈴である。内部には玉が残る。

石器・石製品(第38図)

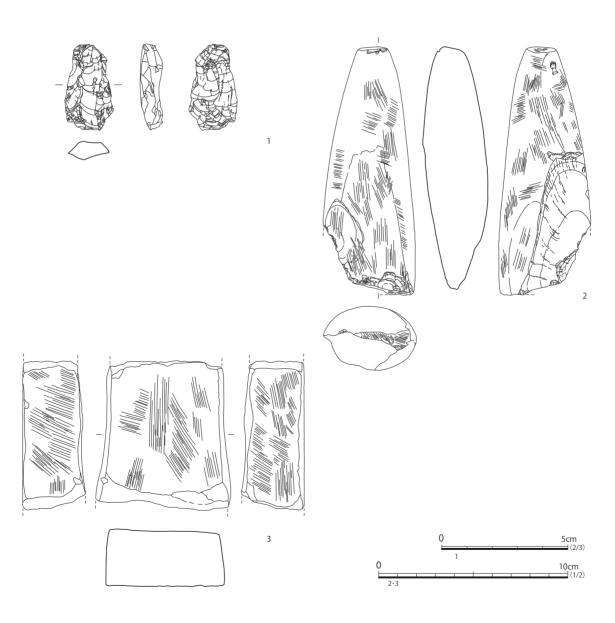
45 は剥片で、石材は黒曜石である。46 は磨製石斧で、石材は粘板岩と考えられる。47 は砥石である。石材は扮石と考えられ、全面に使用痕が確認される。



第36図 B区出土遺物実測図3(1/4)



第37図 B区出土遺物実測図4 (41~43:1/4、44:1/3)



第38図 B区出土遺物実測図5 (1:2/3、2·3:1/2)

(4) C区の遺構と遺物(第39図)

C区は標高 405 m前後に位置し、東西に細長い調査区で調査面積は 748.3㎡を測る。今回の調査区の中で最も広い。南東側は傾斜が緩やかで、そこを中心に遺構が展開している。基本層序は、表土及び耕作土の直下約 60 cm下から黄褐色土ローム層の遺構検出面を確認している。表土直下から遺構検出面を確認できることから、ここも B 区と同様に旧地形である緩斜面が削平されたものと考えられる。

調査では、掘立柱建物3棟、ピットが多数検出されている。また、北西側に向かうにつれて、傾斜がつきはじめ、 それと同時に遺構密度も薄くなる状況がみられた。

1号掘立柱建物(第40図、図版7)

1号掘立柱建物は、調査区北側に位置しており 2号建物を切る。梁間 1 間×桁行 4 間の東西棟で、身舎面積は約 50㎡である。その主軸方向は N - 77° - E をとる。北西隅の柱穴を 1 ヶ所欠いている。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 5.3 m、桁行は北側辺で 2.3 \sim 2.6 m、南側辺で 2.3 \sim 2.4 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 50 \sim 80cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴 P 3 より青磁碗口縁部片、P 7 より景徳鎮窯系青花碗口縁部片が出土している。

2号掘立柱建物 (第41図、図版7)

2号掘立柱建物は、調査区北側に位置しており 1号建物によって切られる。梁間 1間×桁行 3間の東西棟で、身舎面積は約 47.4㎡である。その主軸方向は N - 77° - E をとる。北西隅の柱穴を 1 ヶ所欠いている。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 5.1 m、桁行は北側辺で 2.6 \sim 3.6 m、南側辺で 3.0 \sim 3.2 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 30 \sim 75cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴 P 5より須恵器胴部片が出土している。

3号掘立柱建物(第42図、図版7)

3号掘立柱建物は、 $1 \cdot 2$ 号建物の西側に位置する。梁間 2 間×桁行 3 間の南北棟で、身舎面積は約 36.3 ㎡である。その主軸方向は N-21 $^{\circ}-W$ をとる。梁間の南側辺及び桁行の東側辺の柱穴をそれぞれ 1 ヶ所欠いている。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で 2.3 m、南側辺で 4.6 mを測る。桁行は東側辺で 2.5 ~ 5.4 m、西側辺で 2.5 ~ 2.7 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 25 ~ 60 cm を測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴から遺物は出土していない。

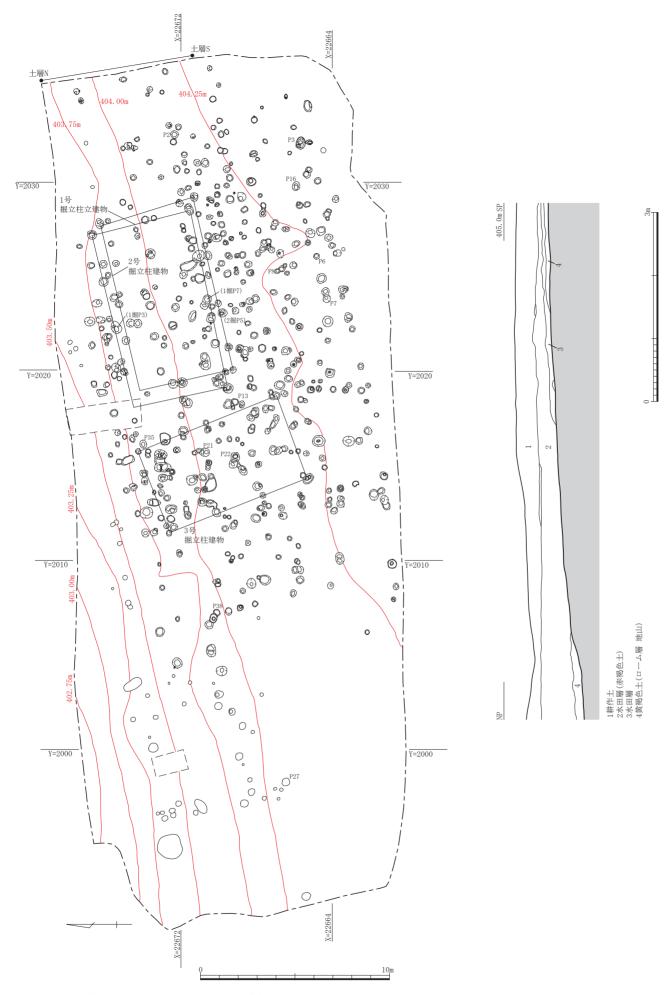
出土遺物 (第43図)

ここでは、C区で出土した遺物をまとめて報告する。なお、掘立柱建物より出土した遺物には図版番号横に括 弧書きで遺構名と柱穴番号を記している。その他の遺物については観察表を参照されたい。

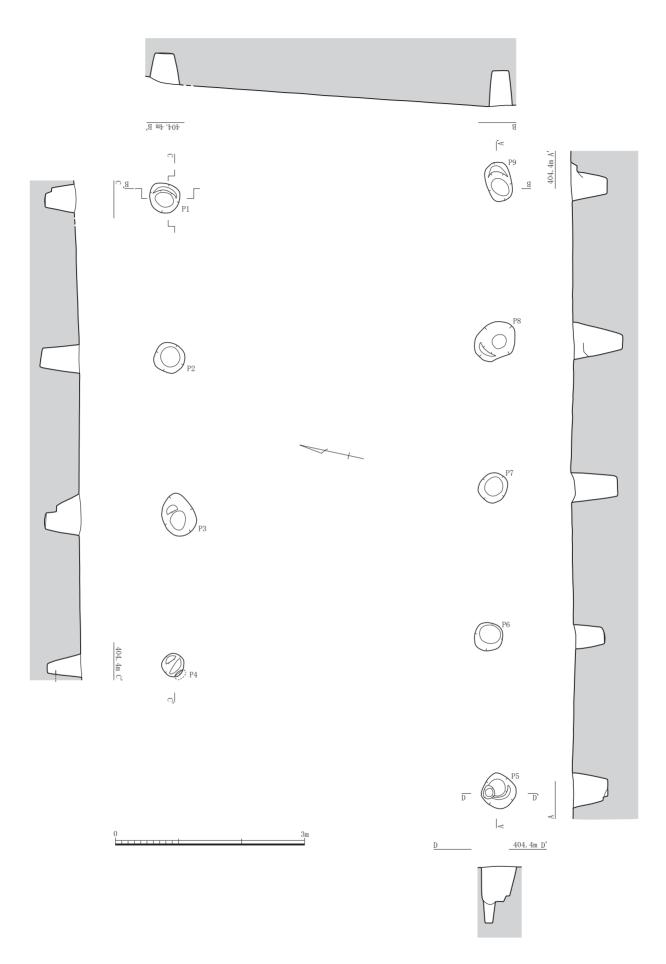
1・2は土師質土器の皿である。1は底部糸切り痕が残る。2の外面にはススが付着している。

3は陶器の甕または壷である。丹波または備前産と考えられる。4は陶器の袋物(壷・甕・瓶)である。北部 九州か朝鮮半島系と考えられる。5は土師質土器の火鉢である。6は2号掘立柱建物P5から出土した須恵器の 甕である。内面にタタキ痕が残る。7・8は青磁碗である。8は内面に貫入が入る。9は白磁碗である。

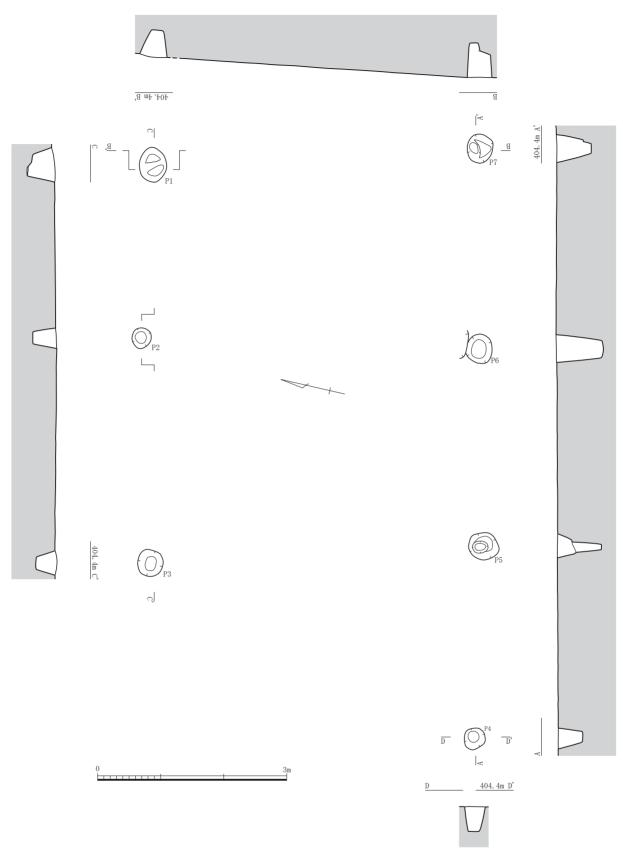
10 は 1 号掘立柱建物 P7 より出土した磁器碗である。景徳鎮系で内外面に薄い貫入が入る。釉厚は約 $0.2 \mathrm{mm}$ である。



第39図 C区遺構配置図及び土層断面図 (1/200・1/60)



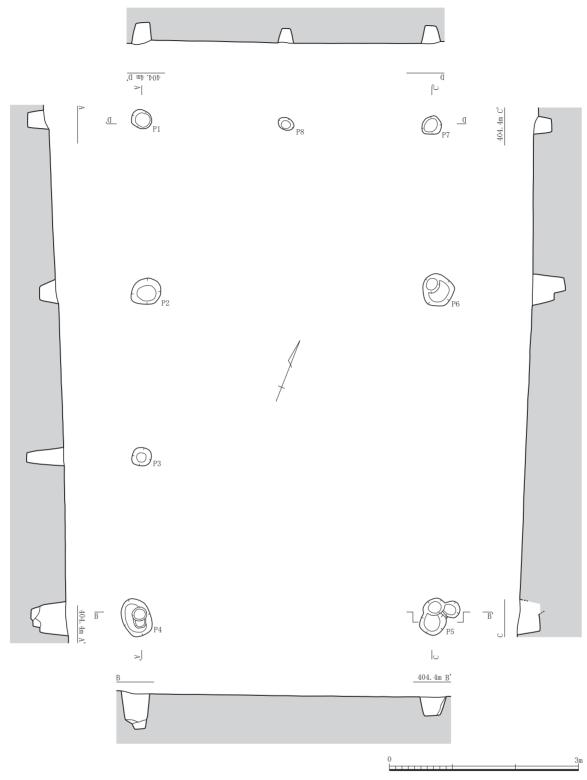
第40図 C区1号掘立柱建物実測図(1/60)



第41図 C区2号掘立柱建物実測図(1/60)

11 は青磁皿である。外面に沈線が巡る。12・13 は青磁碗で 12 は 1 号掘立柱建物 P3 より出土している。龍泉窯系と考えられる。

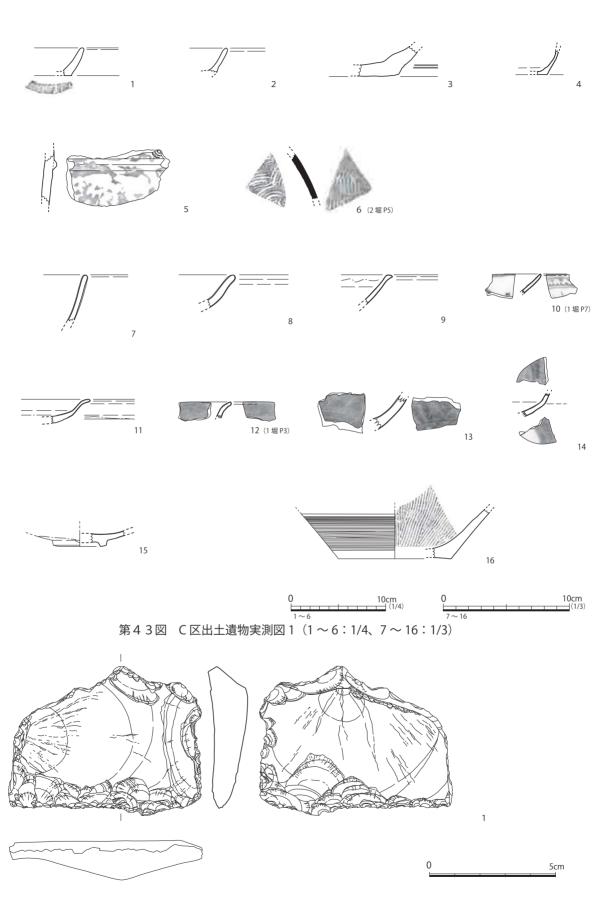
14 は青磁皿である。釉厚は非常に薄い。15 は白磁碗である。内外面に貫入が入る。16 は陶器の擂鉢である。福岡県小石原産の可能性があり、17 世紀の所産と考えられる。



第42図 C区3号掘立柱立建物実測図(1/60)

石器・石製品(第43図)

1は削器で、石材は安山岩と考えられる。



第44図 C区出土遺物実測図2(2/3)

(5) D区の遺構と遺物(第45図、図版8)

D区はC区の北側、標高約401m 前後に位置する。調査面積は731.3 ㎡でC区と同様に南側は傾斜が緩 やかで北側に向かって傾斜がつきは じめる。調査では、掘立柱建物2棟、 竪穴建物1軒、ピットが多数検出 されている。一部、規則的に並んで いるピット列が確認されるが、規 模・埋土の状況と地元住民の話から ビニールハウスの痕跡であると判断 した。

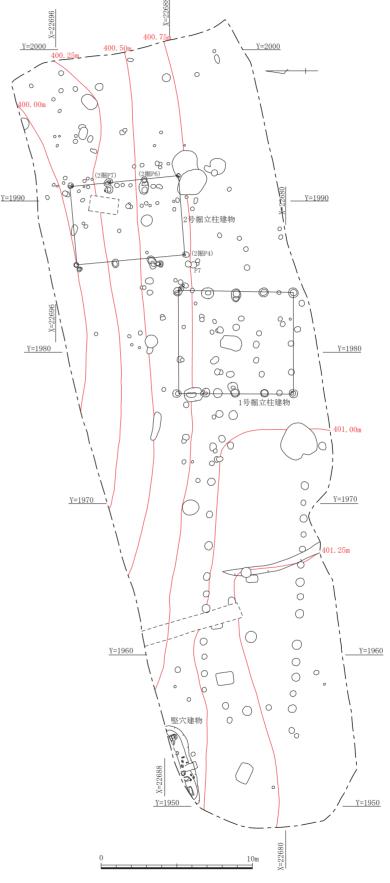
基本層序は、C区と同様であるが、C区に比べて傾斜が大きく北と南で検出面が大きく異なる。

また、ここで検出されている竪穴 建物については、写真撮影を失念し た為、実測図及び断面図の写真(図 版8の④)のみの掲載となってい る。

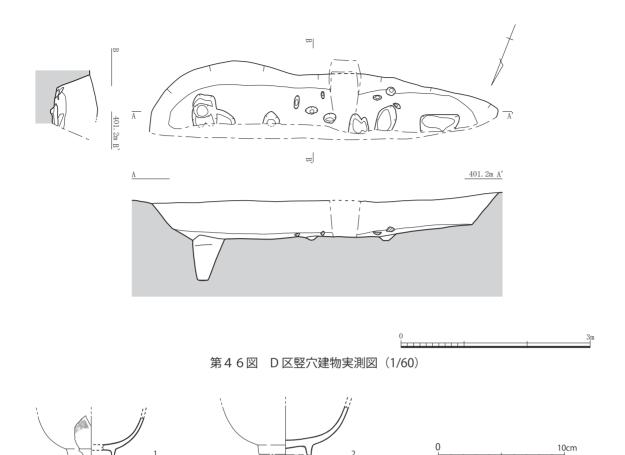
1. 竪穴建物

(第46図、図版8)

竪穴建物は、調査区の北西隅に位置しているが、その大半は北側の調査区外となる。平面形態は隅丸方形状を呈すると考えられ、主軸方位は N-22°-Wをとる。その規模は南側辺約5.5m×東側辺1.2m+α、深さは検出面より約60cmである。床面は平坦で、壁面は南側辺が急角度に、東・西側辺では緩やかに立ち上がる。南東隅に主柱穴が1ヶ所残るが、その深さは床面より約60cmである。遺物は近世染付碗及び磁器碗が出土している。



第45図 D区遺構配置図(1/250)



第47図 D区竪穴出土遺物実測図(1/4)

出土遺物 (第47図)

 $1\cdot 2$ は碗である。1 は磁器(染付)で内外面に貫入が入り、外面にコンニャク印判が施される。2 は磁器で福岡産か、焼成は不良である。

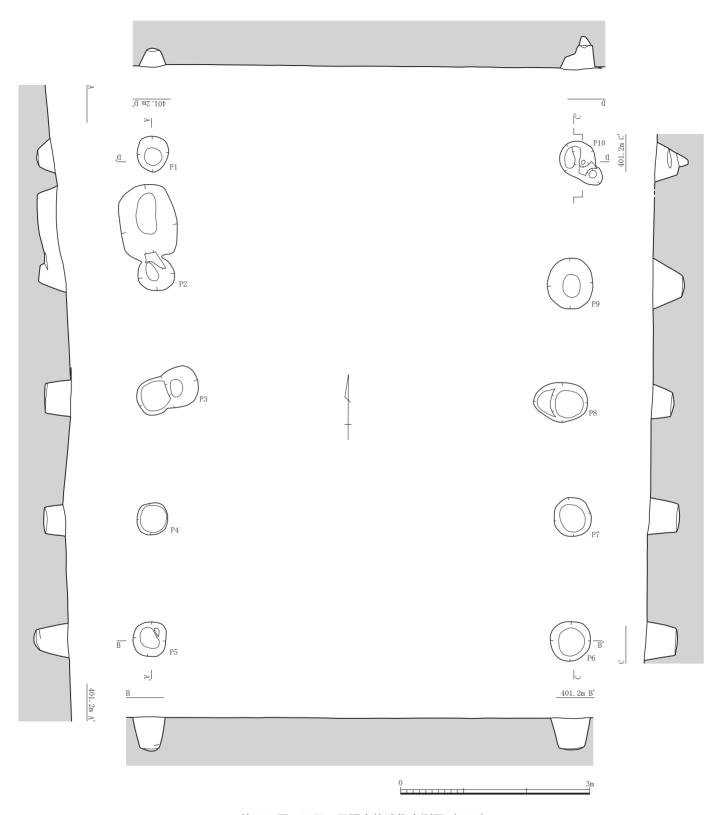
2. 掘立柱建物

1号掘立柱建物(第48図、図版8)

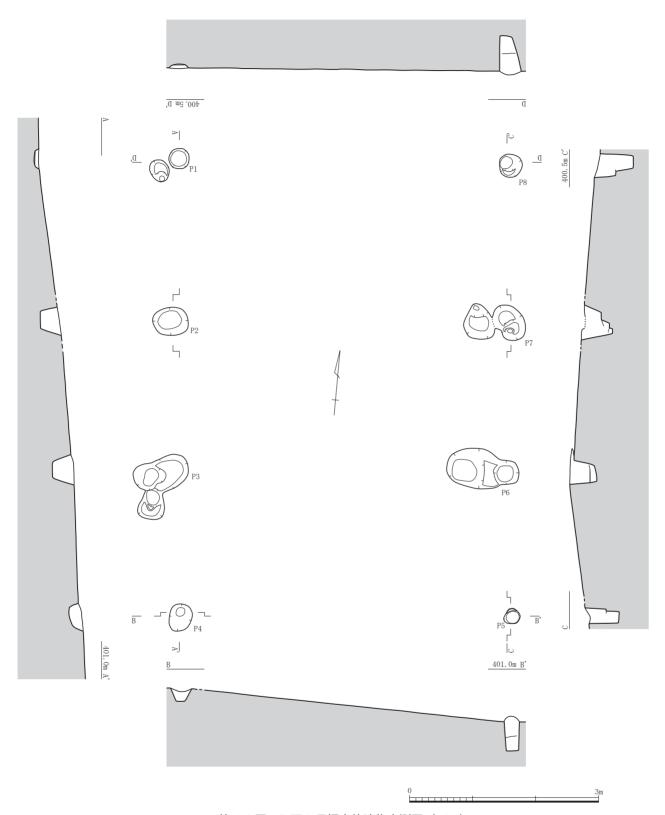
1号掘立柱建物は、調査区の中央に位置する。梁間 1 間×桁行 4 間の南北棟で、その身舎面積は約 52.4㎡である。その主軸方向は N - 1°- E をとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で 6.7 m、南側辺で 6.8 m、桁行は東側辺で 1.8 \sim 2.0 m、西側辺で 1.8 \sim 2.0 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 30 \sim 55cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は出土していない。

2号掘立柱建物(第49図、図版8)

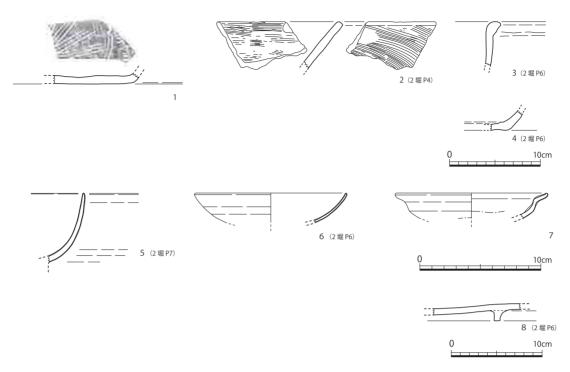
2号掘立柱建物は、1号掘立柱建物の北東側に位置する。梁間1間×桁行3間の南北棟で、身舎面積は約38.2㎡である。その主軸方向はN-4°-Wをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で5.2 m、南側辺で5.3 m、桁行は東側辺で2.2~2.7 m、西側辺で2.2~2.5 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約10~60cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。遺物は柱穴P4より瓦質土器鉢口縁部片、P6より土師質土器小皿底部片・瓦質土器甕口縁部片・盤底部片・陶器皿口縁部、P7より陶器碗口縁部片が出土している。



第48図 D区1号掘立柱建物実測図(1/60)



第49図 D区2号掘立柱建物実測図(1/60)



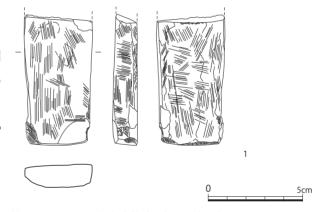
第50図 D区出土遺物実測図1(1/4)

出土遺物(第50図)

ここでは、D区で出土した遺物・石製品をまとめて報告する。なお、掘立柱建物より出土した遺物には図版番号横に括弧書きで遺構名と柱穴番号を記している。その他の遺物については観察表を参照されたい。

1 は瓦質土器の摺鉢である。2 は 2 号掘立柱建物 P 4 より出土した瓦質土器の鉢である。

3は瓦質土器の甕である。4は瓦質土器の皿である。 底部に糸切り痕が残る。また、3・4は2号掘立柱建物P6より出土している。



第51図 D区出土遺物実測図2(3/4)

5は2号掘立柱建物 P7より出土した陶器の碗である。内外面に貫入が入る。肥前か福岡産と考えられる。

6・7 は陶器の皿である。6 は 2 号掘立柱建物 P6 より出土している。内外面には貫入が入る。福岡県の小石原産と考えられる。7 は福岡産と考えられる。8 は 2 号掘立柱建物 P6 より出土した瓦質土器の盤である。

石器・石製品(第51図)

1は砥石である。石材は粘板岩と考えられる。

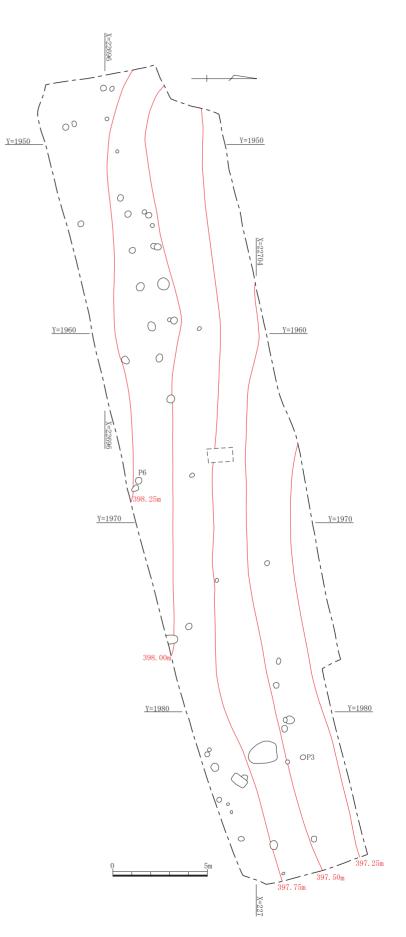
(6) E 区の遺構と遺物(第52図、図版8)

E区はD区の北側、標高約399m前後に位置する。調査面積は370㎡である。その他の調査区と異なり、ここではピット以外の遺構は検出されておらず、遺構密度も希薄な状況が確認された。

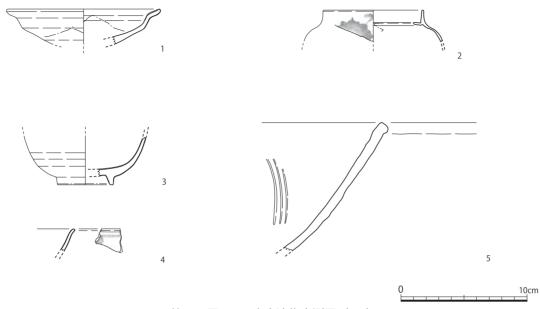
基本層序は、C・D区と同様で表土・耕作 土を約70cm除去したのちその下位から黄褐 色土の遺構検出面を確認している。検出面は、 南から北側に向かって検出面は緩やかに傾斜 している。

出土遺物 (第53図)

1 は陶器の皿である。福岡産と考えられる。 2 は磁器の土瓶である。3・4 は碗である。 3 は小石原産で内外面には貫入が入る。4 は 肥前産と考えられる。5 は瓦質土器の擂鉢で ある。



第52図 E区遺構配置図(1/200)



第53図 E区出土遺物実測図(1/4)

(7) F区の遺構と遺物(第54図、図版9)

F区はE区の北西、標高約396m前後に位置する。調査面積は735㎡である。B~E区に比べて検出面の傾斜がほとんどなく、緩斜面上でも比較的安定した場所であったと考えられる。基本層序はC区などと同様で表土・耕作土を30cm程度除去したのちに黄褐色土の遺構検出面を確認しているが、C~E区のように調査区内で検出面の違いはほとんどない。

遺構は、掘立柱建物2棟、ピットが多数検出されている。

1号掘立柱建物(第55図、図版9)

1号掘立柱建物は、調査区の西側に位置する。梁間 1 間×桁行 4 間の南北棟で、身舎面積は約 55.5㎡である。その主軸方向は N - 18° - W をとる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で 5.0 m、南側辺で 5.0 m、桁行は東側辺で 2.4 \sim 2.8 m、西側辺で 2.5 \sim 3.0 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 40 \sim 75cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

2号掘立柱建物(第56図、図版9)

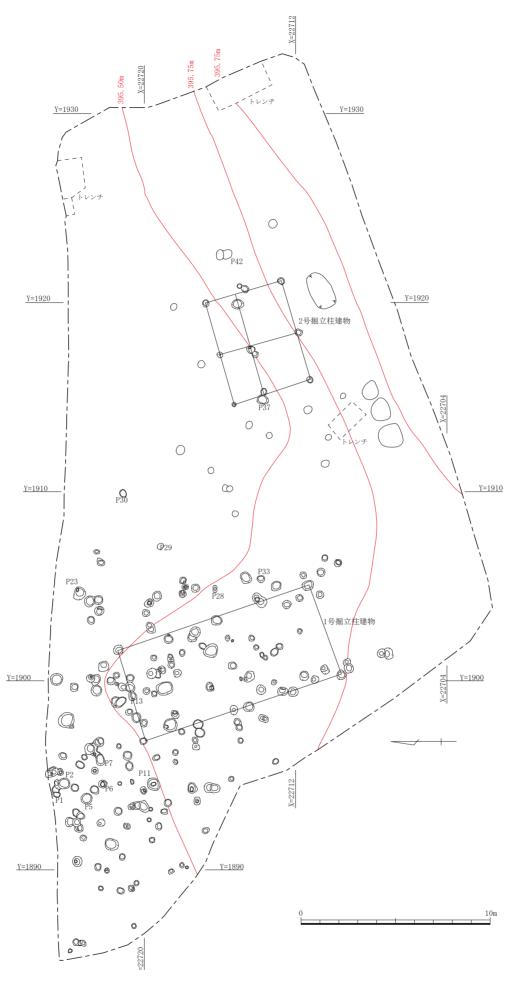
2号掘立柱建物は、調査区の東側に位置する。梁間 2 間×桁行 2 間の総柱建物で、身舎面積は約 24.1 ㎡である。その主軸方向は N - 73° - E をとる。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 1.7 \sim 2.6 m、西側辺で 1.6 \sim 2.6 m、桁行は北側辺で 2.8 m、南側辺で 2.6 \sim 2.8 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 10 \sim 45cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

出土遺物 (第57図)

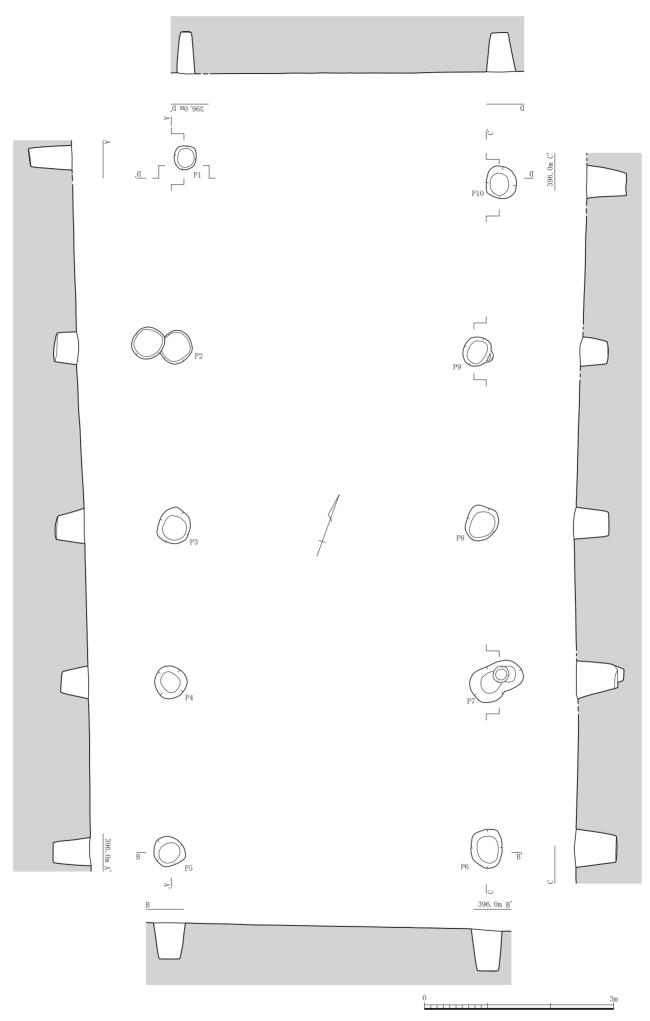
1 は土師質土器の皿で底部糸切り離しである。2 は青磁碗である。貫入が入る。外面に細い連弁文が施される。 3 は陶器の甕である。備前産と考えられる。

 $4 \sim 7$ は土師質土器の皿である。4 は脚が 1 ケ所残る。 $5 \sim 7$ の底部は糸切り離しである。

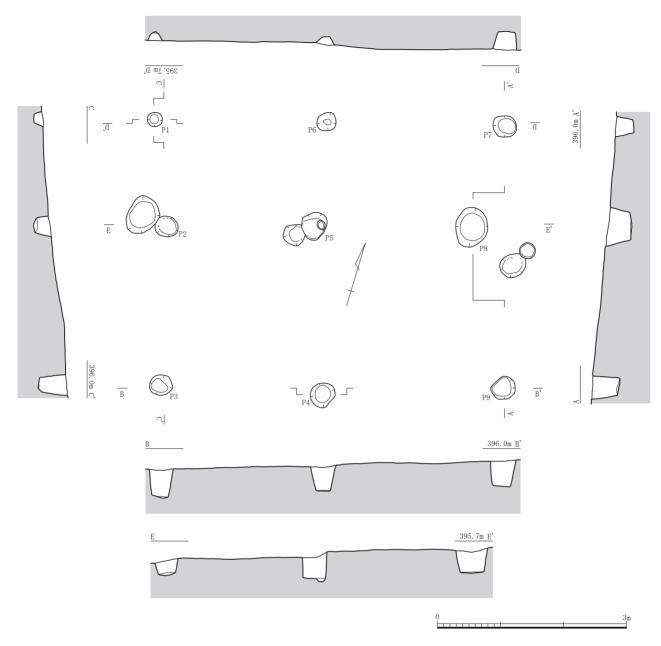
8は土師質土器の灯明皿である。口縁端部にススが付着する。9・10は土師質土器の甕である。ともに口縁部



第54図 F区遺構配置図 (1/200)



第55図 F区1号掘立柱建物実測図(1/60)



第56図 F区2号掘立柱建物実測図(1/60)

のみ残存しており、9は内外面に指オサエが残る。10は外面に赤色顔料が付着する。

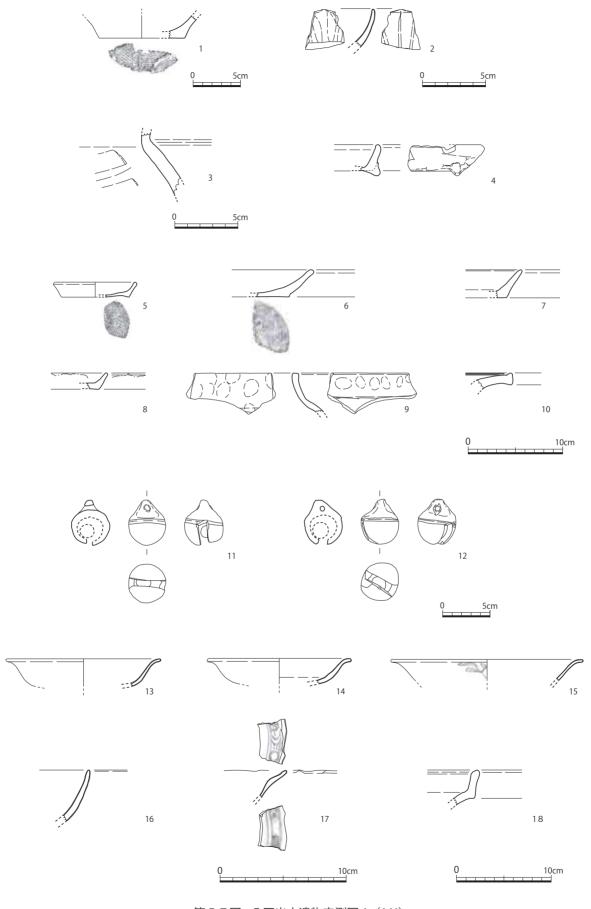
11・12 は土鈴である。13・14 は白磁の皿である。

15 は磁器(染付)の碗である。焼成はやや不良である。16 は陶器碗である。福岡産と考えられる。

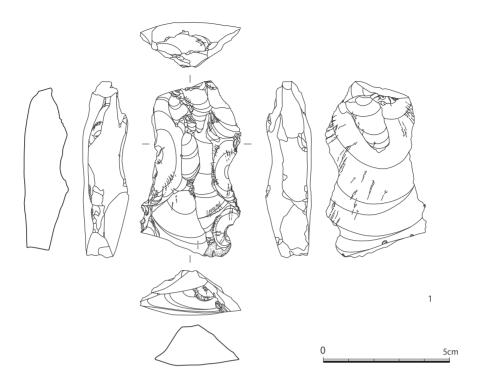
17 は磁器(染付)の皿である。口縁端部に文様が巡る。18 は陶器の擂鉢である。口唇部に工具痕が残る。

石器・石製品 (第59図)

1 は石核である。石材は流紋岩と考えられる。



第57図 F区出土遺物実測図1(1/4)



第58図 F区出土遺物実測図2(1/2)

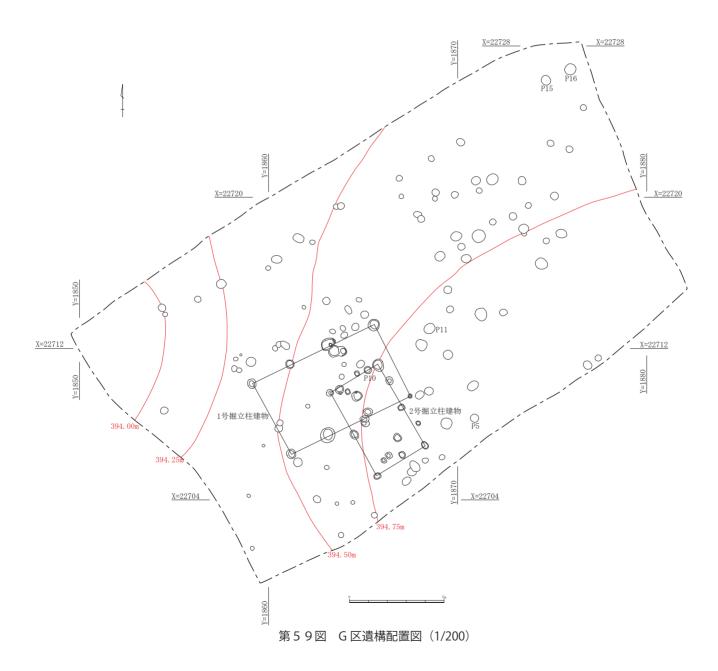
(8) G区の遺構と遺物 (第59図)

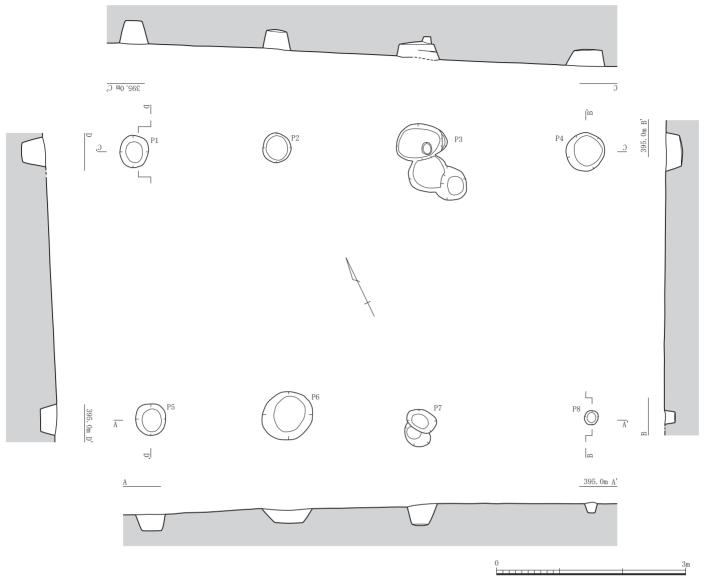
G区は F 区の西側、標高約 395m 前後に位置する。調査面積は 482.5㎡である。基本層序は C 区などの調査区 と同様で耕作土が約 20cm堆積しており、その直下で黄褐色土の検出面が確認される。 F 区と同様に調査区内での傾斜がほとんどないが、F 区と異なり検出面からは地盤に伴うと考えられる礫が多く出土していることから、旧地形が F 区に比べて高くなっていたと考えられる。

調査では、掘立柱建物2棟とピットが多数検出されている。

1号掘立柱建物(第60図・図版9)

1号掘立柱建物は、調査区の南西側に位置する。 2号建物と重複するが、その切り合い関係は不明である。梁間 1間×桁行 3間の東西棟で、その身舎面積は約 29.8㎡である。主軸方向はN-64°-Wをとる。柱間寸法は心心距離で梁間が東側辺で 4.2 m、西側辺で 4.2 m、桁行の柱間寸法は北側辺で 2.2 \sim 2.5 m、南側辺で 2.1 \sim





第60図 G区1号掘立柱建物実測図(1/60)

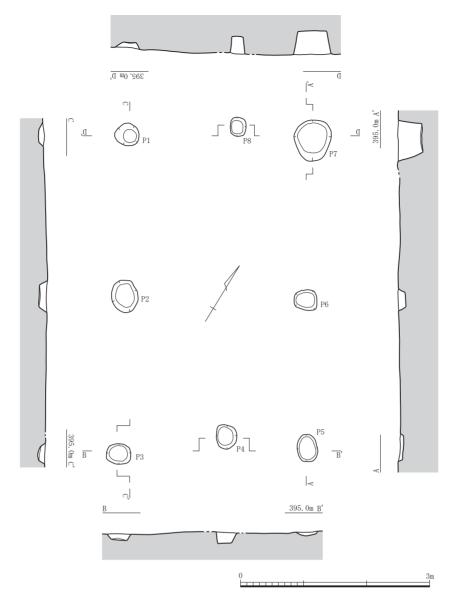
2.7 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 $15\sim40$ cmを測る。礎石や柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

2号掘立柱建物 (第61図)

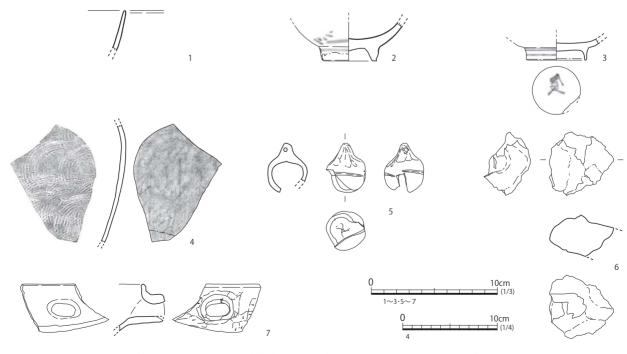
2号建物は、梁間 2 間×桁行 2 間の南北棟で、その身舎面積は約 14.5㎡である。主軸方向は N - 30° - W を とる。柱間寸法は心心距離で梁間が北側辺で $1.2\sim1.7$ m、南側辺で $1.2\sim1.7$ m、桁行は東側辺で $2.4\sim2.6$ m、 西側辺で 2.5 mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形で、深さは検出面より約 $10\sim40$ cmを測る。礎石や 柱痕は確認できない。柱穴より遺物は出土していない。

出土遺物 (第62図)

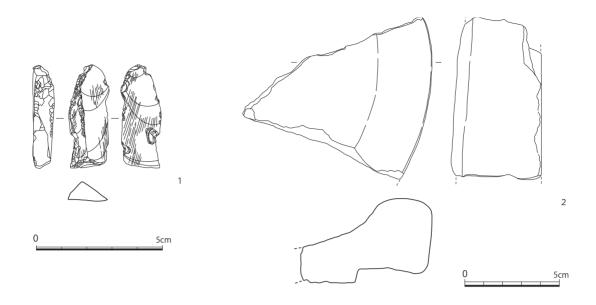
ここでは、G 区で出土した遺物の報告をおこなう。なお、IV 自然科学分析で後述する漆器椀もこの調査区より出土 (P-5) している。しかし、胎部が消失し塗膜部分しか残存していない状態で、実測に耐えることができないことから、IV 自然科学分析に調査結果と合わせて写真のみの掲載としている。残存している塗膜部分の計測結果は口径 (12.0cm)、器高 (2.5cm) となっている。



第61図 G区2号掘立柱建物実測図(1/60)



第62図 G区出土遺物実測図1 (1~3・5・6:1/3、4:1/4)



第63図 G区出土遺物実測図2(1:2/3、2:1/2)

 $1\sim3$ は磁器の碗である。 $2\cdot3$ は染付である。いずれも肥前産と考えられる。3 は高台内に変形文字が施される。 4 は陶器の甕または壷である。肥前・福岡産と考えられる。5 は土師質土器の土鈴である。6 は土製品のフイゴ羽口である。7 は土師質土器の水注である。注口のみ残存している。

石器・石製品(第63図)

1は縦長剥片である。石材は姫島産黒曜石と考えられる。2は石臼である。





写真 4 出口遺跡 G 区出土漆器椀

IV 自然科学分析

出口遺跡出土漆器椀の塗膜分析

株式会社パレオ・ラボ 竹原 弘展・藤根 久・米田 恭子

1. はじめに

出口遺跡より出土した漆器椀について、塗膜薄片を作製し、塗膜構造と材料について検討した。 なお、分析にあたって、藤根が赤外分光分析、米田・竹原が薄片作製、竹原が顕微鏡観察・X線分析を行い、竹原がまとめた。

2. 試料と方法

分析対象は、G 区のピット P-5 より伏せられた状態で出土した内外面赤色の漆器椀 1 点である。ピットは浅く、遺構の検出段階からすでに漆器椀が確認されていた。時期は、中世以降で近世までは下らないとみられている。胎部は残存しておらず、塗膜のみが残っている状況であった。漆器外面の一部とみられる小破片を、分析試料とした。

分析は、表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために薄片を作製して、 光学顕微鏡と走香型電子顕微鏡による観察、および X 線分析を行った。

赤外分光分析は、手術メスを用いて小破片から一部採取した試料を、厚さ 1mm 程度に裁断した臭化カリウム (KBr) 結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形し、測定試料とした。分析装置は日本分光 (株) 製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計 FT/IR-410、IRT-30-16を使用し、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して包埋し、薄片作製機および精密研磨フィルム(#1000)を用いて厚さ約 50μm 前後に仕上げ、まず走査型電子顕微鏡(日本電子株式会社製 JSM-5900LV)による反射電子像観察を行った。さらに、主に赤色塗膜層等を対象として、第2表生漆と赤外吸収位置とその強度

電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型 X 線分析装置(同IED-2200)による定性・簡易定量分析を行った。

その後、再度精密研磨フィルム(#1000)を用いて厚さ 約 20μm 前後に調整した後、生物顕微鏡を用いて塗膜構造 の観察を行った。

3. 結果および考察

以下に、塗膜分析結果について述べる。なお、表5に示す赤外吸収スペクトルは、縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber(cm-1);カイザー)を示す。また、各スペクトルはノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示

した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す(表 2)。実線が塗膜、点線が生漆の赤外吸収スペクトルを示す。 塗膜薄片からは、下地 b1~ b2 層と、透明漆層 c1

吸収 No.		生漆	
X X 110.	位置	強度	ウルシ成分
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

第3表 赤色塗膜層等のX線分析結果 (mass%)

塗膜層	С	Al ² O ³	SiO ²	SO ³	CaO	Fe ² O ³	HgO
b1 層	55.66	8.23	22.33	_	1.64	12.14	_
c3 層	64.78	_	2.52	9.77	_	_	22.93

 \sim c2 層、赤色漆層 c3 層の 5 層 が観察された (写真 5)。下地 b1 層は X 線分析結果でケイ素 (SiO2)、鉄 (Fe2O3)、アルミニ

第4表 塗膜分析結果

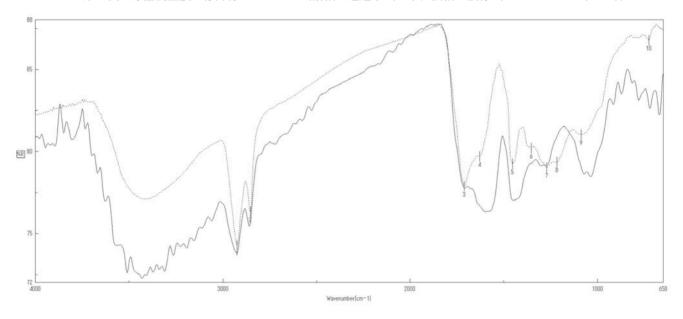
採取塗膜	下地		塗膜層	
赤色塗膜	土下地+炭粉漆下地	3層	透明漆層2層、	赤色漆層1層

ウム(Al2O3)などが検出されたため土の下地、下地 b2 層は顕微鏡観察より黄褐色の層に黒色物が混ざっている様子が観察され、炭粉漆下地と考えられる。塗膜層の赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収(吸収 No.1 および No.2)が明瞭に見られた。また、生漆を特徴づけるウルシオールの一部吸収(吸収 No.7)が明瞭に認められ、漆と同定された(表 2、5)。赤色漆層 c3 層からは、X 線分析で水銀(HgO)と硫黄(SO3)が検出され(表 3)、水銀朱の使用が確認された。塗膜の特徴を表 4 にまとめる。

4. おわりに

出口遺跡から出土した漆器椀について塗膜分析を行い、塗膜構造や材料について検討した。その結果、土の下 地の上に炭粉漆下地が観察され、さらにその上に透明漆層が2層、水銀朱を用いた赤色漆層が1層塗られていた。

第5表 漆器椀塗膜の赤外線スペクトル(縦軸が透過率(%R)、横軸が波線(Wavenumber (cm-1))



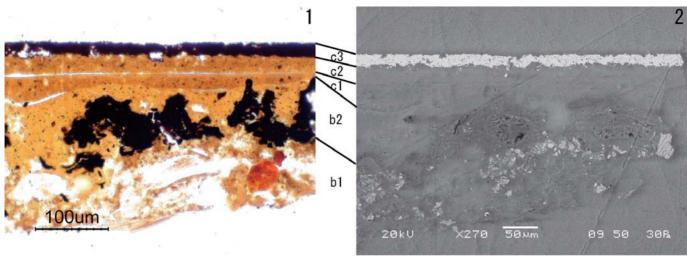




写真 5 漆器椀赤色塗膜断面 1. 塗膜構造 2.SEM 反射電子像 3. 剥片全体(スケールは I mm目盛)



写真6 塗膜分析資料(漆器椀)

V 総括

ここまで、出口遺跡の調査で確認された遺構・遺物の内容について述べてきた。本章では、前章までの報告を踏まえて、遺構の時期・性格について検討していく。また、本遺跡を含む出口地区の状況についても考えておきたい。

各遺構の時期・性格について

出口遺跡では、掘立柱建物 11 棟、竪穴建物 1 軒、土坑 1 基、包含層 1 面、ビットが多数検出されている。ここでは、各遺構の時期や性格について主な遺物や遺構の特徴から各時期区分を設定して個別に検討をおこなっていく。各時期区分について、縄文土器は水ノ江和同氏によって検討された編年(註1)を主に用い、土師器の編年は渡邉隆行氏によって検討された編年(註2)主に用いている。また、陶磁器等は註釈の文献(註3・5)等を参考にして設定を試みている。

[縄文時代後期前葉頃]

A区で検出された土坑や包含層がこの時期にあたる。7ヶ所ある調査区の中で唯一、縄文時代の遺構が確認されており、出土した縄文土器は、全部で300点以上にのぼる。出土した土器を有文と無文とに分けてみると、文様の有るものについては大きく磨消縄文を施したものと、凹線文を施したものに分けることができる。

前者は瀬戸内系の特徴を持つ土器群で、2条の沈線を単位として文様帯をつくり、そこに縄文を施し、それ以外を磨消す中津式の特徴を持つ土器(第 11 図 3 など)や口縁部を肥厚させ文様帯をつくり、3 本の沈線を器面にめぐらせ、その内側だけに縄文を施し、沈線内部に赤色顔料を塗る福田 K II 式の特徴を持つ土器(第 11 図 6・8、第 12 図 26・27 など)が出土している。

後者は中期から続く阿高式土器の系譜を引くと考えられる土器群で直線的な凹線文が施される南福寺式土器 (第13図68) やそれに続く出水式土器 (第13図79図) に加えて、阿高式土器の特徴の一つである滑石を含む土器 (第24図43など) も出土しており、水ノ江氏による分類 (社4) でいう中九州地域の特徴の特徴を持つ土器群と考えられる。このほか、同時期の遺物として西和田式 (第7図1~4など) コウゴー松式 (第11図12・13など)の特徴を持つ土器も出土している。これらの時期について、磨消縄文を持つ土器群は縄文時代後期前葉、凹線文を持つ土器群は縄文中期末から後期前葉頃の時期に充てられており、これら土器群が層位・平面的にまとまって出土していることから、これらの遺物は同時期性が高く、縄文時代後期前葉の比較的限られた期間に廃棄されていたと想定することができる。

無文土器については、その特徴を有文土器のように時期比定することが難しいが、有文土器と入り混じって出土することから時期差は大きくないものと考えられる。

以上の特徴から、縄文時代の包含層が形成された時期は、縄文時代後期前葉頃にほぼ収まるものと考えられよう。前章でも触れたように焼土や炭化物などは確認されないことや上面に生活遺構も確認されていないことから生活面そのものとは考え難く、また土器の多くが磨滅を受けていないことなどから土器の廃棄場であったと考えておきたい。包含層の下層で検出された土坑は包含層と埋土がほぼ同じであることから同時期の遺構で、生活面がこの周囲に移動して土器が廃棄されたと考えられる。

[中世(13世紀後半~14世紀)]

この時期の遺構としては、C区の掘立柱建物が挙げられる。1号掘立柱建物の柱穴からは龍泉窯系の青磁片(第

43 図 12)が出土していること、3 号掘立柱建物では上田編年 B-1 類と想定される青磁碗(第 43 図 13)や A-2 類と想定される青磁碗(第 43 図 7)や森田編年 A 群に見られるような白磁碗(第 4 3 図 9・15)が出土しているほか、土師器では渡邉編年 II 期と想定される坏(第 43 図 1)が出土していることから、13 世紀後半~ 14 世紀頃と想定した。2 号掘立柱建物については、古代の須恵器片が出土しているが、1 号掘立柱建物と軸がほぼ同じである点、柱穴の規模や深さが同規模であることから1号掘立柱建物と同時期の遺構と想定している。

「近世(17世紀後半~18世紀前半)」

この時期の遺構としては、B、D~G区の建物が対象となる。B区 $1 \cdot 2$ 号掘立柱建物の柱穴からは、近世の輸入磁器(第 34 図 1)や 17 世紀後半~ 18 世紀前半代と想定される福岡系・肥前産磁器(第 34 図 $8 \cdot 13$ 、第 35 図 $14 \cdot 17$)が出土している。1 号掘立柱建物出土遺物(第 3 4 図 2 など)より 2 号掘立柱建物出土遺物(第 3 4 図 $11 \cdot 13$ など)の方が若干新しい様相を呈しており、切り合い関係とも一致する。これら掘立柱建物の軸方向や柱穴の規模・深さが同程度であることやそれぞれの柱穴位置が近いことから本来同一の建物であった可能性がある。平面の切合いから 1 号⇒ 2 号の順番で建て替えが行われたものと想定され、2 号掘立柱建物自体もピットの状況から複数回の建て直しが行われたものと考えられる。

この他に D 区の竪穴建物からは 17 世紀後半~ 18 世紀前半代の肥前産磁器碗(第 47 図 1・2)が出土し、2 号掘立柱建物からは 17 世紀後半頃の小石原産陶器皿(第 50 図 6)が出土していることから、17 世紀後半~ 18 世紀前半頃とみて差し支えない。D 区 1 号掘立柱建物は遺物は出土していないものの、2 号掘立柱建物と建物軸がほぼそろっていることから、同時期と考えておきたい。

その他の近世遺構としては、F区とG区の掘立柱建物が該当する。いずれも遺物の出土はないものの、調査区 検出時などに出土した遺物がおおむね17世紀後半から18世紀前半頃の時期に収まっており、ほぼ同時期と想 定している。さらに、G区のピットから出土した赤色の漆器椀については、形が明確ではないが、自然科学分析 の結果、土と炭粉漆の下地に透明漆層2層、水銀朱1層の塗膜層が確認されている。漆技法(註5)や周辺から出 土した遺物の時期からD区と同様の時期と想定されよう。

遺跡の性格と特徴

以上のように、各遺構の時期とその性格について触れてきた。ここでは、本遺跡の性格とその特徴について考えてみたい。

出口遺跡では、以前(社6)から三稜尖頭器や剥片尖頭器など旧石器時代の遺物、縄文時代早期の山形押型文土器や石鏃、中期の阿高式土器や磨製石斧、後期後半頃の西平式土器や石匙などが表採されていた。しかし、今回の調査では旧石器時代や縄文時代早期~中期、後期後半頃の遺構は発見されず、調査区周辺以外の個所に集落などの活動痕跡が所在していたものと考えられた。特に、五馬台地周辺では縄文時代に入ると早期・中期・後期後半と幅広い時期の遺物が過去の表採資料で確認されている(社7)ことから、この時期は長期間にわたり多くの人々が台地の谷部を移動しながら生活していたと想定される。

今回の調査では、A 区からこれまで発見されている時期とは異なる後期前葉の遺構が検出され、縄文時代集落変遷などを検討する新たな資料を得ることができた。この A 区の調査では土坑と包含層しか検出され無かったものの、生活域が周辺に所在する可能性が高いことが明らかとなった。しかも、出口谷川の支流に近く、水の確保が比較的容易であることなどを考えると A 区からそう遠くない場所で、かつ今回の調査範囲外である試掘調査の及ばなかった場所に集落が営まれていた可能性が高いと想定される。出土遺物についても、これまで当該期前後の遺構が見つかったのは大山川流域の中川原遺跡などに限られており、貴重な知見を得ることができた。な

かでも、瀬戸内系の磨消縄文土器と九州在地の凹線土器が混在するなど当該期の特徴的な土器様相を示している。北部九州の中央にあたる日田盆地まで、東北九州沿岸部や中九州地域の土器様式が流入し、混在したセット関係を示すことは、日田の地域性を物語っている。

弥生時代以降、出口遺跡周辺では古墳時代・古代まで明確な遺構は確認されず、人々の活動の中心は宇土遺跡 や杉ソノ遺跡など、別の場所に移っていったものと考えられる。

再び、出口遺跡で人々の活動が確認されるのは中世(13世紀後半~14世紀)に入ってからで、出口谷川によって形成された緩斜面上を削平してできた平坦部に集落が営まれる。C区で検出された掘立柱建物2棟だけではあるが、その時期に谷部での開発と入植が始まり、未調査域に拡がっていた可能性が考えられる。こうした開発を受けた谷部では、近世(17世紀後半~18世紀前半頃)に入って再び緩斜面上を削平してできたと考えられる平坦部に集落が営まれる。この時期の掘立柱建物は出口谷川南側の緩斜面上に広く検出されており、中世以来の景観を変えて新たに開発を進めて集落域を移動する要因が発生したものと考えられるが、その後現在の建物域へと移動し、水田化していったものと想定される。

以上のような変遷を踏まえて、出口遺跡とその周辺遺跡及び谷部の関係を整理する。旧石器時代は、出口遺跡周辺では表採遺物が数点出土しているのみであるが、出口谷川の上流に位置する亀石山遺跡では後期旧石器時代終末頃の大規模な石器製作跡が確認されていることから出口周辺でも狩猟などが行われていたのであろう。縄文時代では、出口遺跡において前・中期の遺物が数点採取されているのみだが、西遺跡や出口谷川上流に所在する平草遺跡などで縄文早期・中期の土器や遺構が検出されている(註8)。この時期は、出口谷川の上流域を中心に集落域が形成されたものと考えられる。縄文時代後期前葉頃に本調査区で包含層などが検出され、中期の遺物も採取されることから、後期以降に出口遺跡周辺で本格的に生活域が形成されると考えられる。しかし、弥生時代以降は現在のところ生活遺構は確認されておらず、この地域での活動は少なくなったものと思われるが、今後の調査等を待って検討する必要がある。中世(13世紀~14世紀頃)以降になると出口谷川南岸の緩斜面を造成して集落が形成される。この地域では、五馬荘といわれる水田地帯が15~16世紀頃に登場するとされるが、それ以前から五馬地域の開発が盛んであったものと想定されよう。その後、近世に至ってその範囲は南側の緩斜面地全体に広がり、後に水田化して現在に近い集落景観を形成したものと考えられる。

以上のように、集落変遷を述べたが、今回の成果をまとめる。縄文時代後期前葉の包含層からは、中九州や瀬戸内などの各系統の土器が良好なセットで出土しており、北部九州のほぼ中心に位置する日田地域の地理的特徴を示す貴重な発見となった。また、中・近世集落については、緩斜面を切り開いて集落を展開する方法や時期等が山を挟んだ塚田地区の原ノ久保遺跡や平原遺跡(註9)と共通しており、出口谷川周辺でも五馬台地の他の遺跡と同じく、中世以降集落が営まれ、近世まで継続したものと考えられる。このように、今回の調査では、縄文時代、中・近世における出口遺跡周辺での人々の生活の様子や当時の集落景観を想定する上で貴重な成果があったと言える。

- 註1)水ノ江和同著『九州縄文文化の研究-九州からみた縄文文化の枠組み-』雄山閣 2012
- 註2)渡邉隆行編『慈眼山遺跡7』日田市教育委員会2010
- 註3)盛峰雄 「陶磁の編年」『九州陶磁の編年』九州陶磁器研究会 2000

日高正幸「小石原」『九州陶磁の編年』九州陶磁器研究会 2000

副島邦弘「上野・高取」『九州陶磁の編年』九州陶磁器研究会 2000

上田秀夫 「 $14\sim16$ 世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究 No.2』 1982 日本貿易陶磁研究会

森田勉 「 $14\sim16$ 世紀白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究 No.2』 1982 日本貿易陶磁研究会

- 註4) 註1と同じ
- 註5)四柳壽章「漆器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 1995
- 註6)『天瀬町誌 明日への礎』 天瀬町 1986
- 註7~8) 註6と同じ
- 註9) 今田秀樹 編 「西遺跡・平原遺跡・原ノ久保遺跡・山田遺跡」『塚田の遺跡(本文編)』天瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書 天瀬教育委員会 2002

参考文献

坂本嘉弘 編 『石原貝塚・西和田貝塚』大分県教育委員会・宇佐市教育委員会 1978

田中良之 著 「磨消縄文土器伝播のプロセス」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』 森貞次郎博士古希記念古文化論文集刊行会 1982

賀川光夫 著 「小池原土器の設定」『九州の黎明と東アジア』賀川光夫古希記念著作集 京都修学社 1996

山崎真治 著 『縁帯文土器の編年的研究』東京大学考古学研究室研究紀要 18 東京大学考古学研究室 2003

塩地潤一郎 編『横尾貝塚』大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第83集大分市教育委員会2008

川崎 保著 『文化としての縄文土器型式』雄山閣 2009

九州近世陶磁器研究会『九州陶器の編年』2000 中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』1995

第6表 出土土器観察表(1)

total (Ur-*						法量 (cm))	76	整		Left			色調		備考
図版 番号	No.	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	焼成	外面	Hue	内面	Hue	
	1	A 区土坑 1、土坑 東西トレ	縄文	深鉢	E	-	6.0+ α	ケズリナデ、オサ エナデ、接合痕	ナデ	B、C、金G.、 E	良	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	口縁端部線刻、波状口縁
	2	A区検出	縄文	深鉢	-	-	(4.5)	ナデ後植物茎によ る調整	沈線、沈線文	B, E	良	にぶい橙	7.5 Y R 6/4	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	内外面沈線(半截竹管)、 口縁端部に刻目
	3	A 区東西 トレ - 西 2下層 G17-13、 土坑 2	縄文	深鉢	-	-	5.4+ α	ナデ	ナデ、沈線3条、 ナナメ方向に2条	B, E	良	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	灰褐~にぶい赤褐、 明赤褐	5YR4/2 ~ 5YR4/3, 5YR5/6 ~ 5/8	波状口縁、沈線文
第7図	4	A区G16 土坑2	縄文	深鉢	-	-	4.4+ α	ミガキ	沈線	C、B、D	良	橙	5YR6/6	にぶい橙	7.5YR6/4	口縁端部波状文、外面に 沈線
	5	A 区土坑 4	縄文	深鉢	-	-	(6.0)	ナデ、条痕	ナデ、沈線	A、B、E	良	黒	5YR2/1 ~ 1.7/1	にぶい褐、黒	5YR5/4、 5YR2/1	放射状の沈線
	6	A区土坑	縄文	深鉢	-	-	2.4+ α	二枚貝による条痕	二枚貝による条痕	B、細H	良	橙	5 Y R 7/8	橙	5 Y R 7/6	
	7	A区土坑	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.2+ α	ナデ	ナデ	E、金G.、A	良	橙	7.5 Y R 6/6	褐灰	7.5 Y R 5/1	底部片
	8	A区土坑	縄文	深鉢	-	-	5.0+ α	ナデ	タテ方向ナデ、粘 土ハクリ	C、A、E	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	にぶい褐	7.5 Y R 5/3	底部ハクリ
	1	A⊠G12- 22	縄文	深鉢	-	-	14.6+ α	ナデ	ナデ、(二枚貝) 条 痕	C、B、D	良	浅黄	2.5Y7/4	灰白	2.5Y8/2	口縁部両端に刻目、外面 に沈線、黒斑あり
	2	A⊠G7- 20	縄文	深鉢・ 浅鉢	-	-	8.9+ α	ナデ	ナデ	A、C、E	良	灰黄	2.5Y6/2	灰黄	2.5Y7/2	波状口縁、沈線間に刻目
	3	A ⊠ G3- 13 • 14	縄文	深鉢・ 浅鉢	-	-	9.4+ α	ミガキ	縄目、ミガキ	A	良	褐灰	10YR4/1	黒褐	10YR3/1	一部に赤色顔料が残る
	4	A ⊠ G8- 19	縄文	深鉢	-	-	6.5+ α	条痕	ナデ、条痕が残る	A、C	良	にぶい黄橙	10YR7/3	褐灰	10YR4/1	沈線文
	5	A⊠G16- 16	縄文	深鉢	-	-	2.7+ α	ミガキ	ミガキ	C、金G.、E	良	灰褐	7.5YR4/2	橙	5YR6/6	粘土貼付による突起
	6	A区 G4-32検 出	縄文	深鉢	(32.6)	-	4.3+ α	ミガキ	縄目、ミガキ	B、白色砂岩、 赤色砂岩	良	灰黄	2.5Y7/2	灰黄	2.5Y6/2	沈線、反転復元 福田 K Ⅱ または宿毛式
	7	A⊠G17- 10	縄文	深鉢	-	-	5.5+ α	ミガキ、被熱によ る黒斑	ミガキ、刺突文、 沈線	A、C、E、橙 色粒子	良	明褐~褐	7.5YR5/6 ~ 7.5YR4/6	黒、明褐~褐	7.5YR2/1、 7.5YR5/6~ 7.5YR4/6	波状口縁磨消縄文、赤彩 痕あり
	8	A区G-11	縄文	深鉢	-	-	2.1+ α	ミガキ	縄目、沈線	C、B	良	橙	7.5YR6/6	灰褐	7.5YR5/2	□縁端部に刻目 磨消縄文、福田 K II
	9	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	3.5+ α	ナデ	刺突文	B、C	良	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/6	口縁端部に刻目、外面に 沈線 口縁部に文様帯
第11図	10	A区G 4-20、サ ブトレン チ	縄文	深鉢・ 浅鉢	(25.4)	-	7.0+ α	巻貝条痕後ナデ	ナデ、押圧による 刻目突帯、条痕	A、C、E	良	灰白	2.5 Y 8/2	浅黄橙	10YR8/3	隆帯刻目
	11	A ⊠ G1-6	縄文	深鉢	-	-	4.8+ α	ナデ	刺突、ナデ	C、BE	良	にぶい黄褐	10YR5/2	浅黄	2.5Y7/4	口縁部文様帯に縦長の刺 突
	12	A区	縄文	深鉢	-	-	3.7+ α	条痕	ナデ、沈線	C、B、E	良	にぶい黄橙	10YR6/4	褐灰	10YR5/1	口縁部に沈線間刺突連点 による区画 少し粗い
	13	A区G16- 18	縄文	深鉢	-	-	6.5+ α	条痕	沈線、刺突文、ナデ	B、白色砂岩	良	橙	7.5YR6/6	褐灰	7.5YR4/1	貼付突帯、沈線区画内に 刺突文
	14	A区	縄文	深鉢	-	-	2.8+ α	ナデ	ナデ	A、E、金 G.	良	にぶい橙	5YR6/4	橙	5YR6/6	口唇部をやや肥厚させて 区画し刺突連点を施す。 2段組み。
	15	A区G11	縄文	深鉢	-	-	2.4+ α	ナデ	ナデ、刺突文	B、C、E	良	灰褐	7.5YR5/2	橙	7.5YR6/6	刺突文が2段に配される
	16	A区G10- 27	縄文	深鉢	-	-	3.1+ α	ナデ	ナデ、刺突文	C、E、金G.	良	褐灰	7.5YR4/1	褐	7.5YR4/3	刺突文
	17	A⊠G 10	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ、刺突文	B、C	良	浅黄橙	10 Y R 8/3	にぶい橙	7.5 Y R 7/4	指頭による 2 段連点
	18	A区G11- 13	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	ナデ	ナデ、刺突文	A、B、C	良	橙	5YR6/4	橙	5YR6/6	口縁部指頭による刺突
	19	A ⊠ G7-7	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ、指頭痕	ナデ	C、B、D	良	灰褐	7.5YR5/2	橙	7.5YR6/6	波状文

第7表 出土土器観察表 (2)

図版						法量 (cm)	1	調	整		焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面(裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	20	A ⊠ G2-8	縄文	深鉢	-	-	4.0+ α	ナデ	ナデ	C、B、A、D	良	橙	7.5YR6/6	にぶい黄橙	10YR7/3	波状口縁
	21	A ⊠ G4- 16	縄文	深鉢	-	-	3.5+ α	ナデ、粘土貼る	ナデ	A、C、E、H	良	褐	7.5YR4/3	灰褐	7.5YR4/2	波状口縁、内面口縁部下 に粘土を付け足す
	22	A ⊠ G4- 30	縄文	深鉢	-	-	2.5+ α	ナデ	ナデ	C、B、E	良	にぶい黄橙	10YR6/3	黄橙	10YR8/6	波状文
第11図	23	A区G 9	縄文	深鉢	-	-	5.0+ α	ヨコナデ、ミガキ、 ナデ	ナデ、ヨコナデ、 刺突文、沈線	C、B、E	良	明褐	7.5 Y R 5/6 ~ 5/8	明褐	7.5 Y R 5/6 ~ 5/8	隆起線文、沈線、刺突文
	24	A⊠G 17-15	縄文	深鉢	-	-	5.0+ α	ナデ	凹線、隆帯	A、C、B、G.、 E	良	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	明赤褐	5 Y R 5/6	波状口縁、逆くの字刺突、 下半横方向に凹線
	25	A 区 G16 土坑検出	縄文	深鉢	-	-	5.2+ α	ナデ	ナデ、沈線	A、C、E、橙 色粒子	良	黒褐	5YR2/1 ~ 2/2	赤褐、黒褐	5YR4/6 ~ 4/8、5YR2/2	口縁端部、刻目、口縁端 部〜外面スス付着、沈線
	26	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	ミガキ	縄目、ミガキ	C、B、D	良	にぶい黄橙	10YR7/3	灰黄褐	10YR6/2	沈線、外面に赤色顔料が わずかに残る
	27	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ミガキ	縄目、ミガキ	C、B	良	黄灰	2.5Y6/1	灰黄	2.5Y7/2	外面に赤色顔料がわずか に残る
	28	A 区検出	縄文	鉢	-	-	3.2+ α	ミガキ	縄目、ナデ	B、D	良	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR7/4	沈線、磨消縄文
	29	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	4.2+ α	ナデ	ナデ	B, D	良	にぶい黄橙	10YR7/2	浅黄橙	10YR8/3	口縁端部刺突文、外面に 沈線
	30	A区検出	縄文	深鉢	-	-	2.7+ α	ナデ	ナデ、隆起線文、刺突文	C、A、E	良	明褐	7.5 Y R 5/6 ~ 5/8	明褐	7.5 Y R 5/6 ~ 5/8	波状口縁、隆起線文、外 面刻目、口縁端部に列点
	31	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	1.4+ α	ミガキ	ミガキ	C、E	良	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	文 口縁部上面に施文 紐帯文
	32	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ	ナデ	C, E	良	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい橙	7.5YR6/4	沈線
	33	A区検出	縄文	深鉢	-	-	6.7+ α	ミガキ	ミガキ	B, E	良	灰褐	7.5 Y R 5/2	にぶい橙	7.5YR6/4	口縁端部に刺突文
	34	A区検出	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ、刺突文	A、B、C、E	良	橙	5 Y R 6/6	にぶい褐	7.5 Y R 5/3	口縁部肥厚させて文様帯 をつくる。
	35	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ		C, B, D	良	明褐	7.5YR5/6	にぶい褐	7.5YR5/4	刺突文 口縁端部に巻貝による刻 目、外面に斜方向に並行
	36	A区検出	縄文	深鉢	-	-	7.3+ α	条痕、ナデ	ナデ、刺突文、沈線	A, C, B	ややお	浅黄	2.5Y8/4	浅黄	2.5Y8/4	する線刻 刺突文、沈線 2 条、沈線 を切るナナメ方向の線刻
	37	A区検出	縄文	浅鉢か	-	-	4.5+ α	工具によるナデ、 ナデ	指オサエ後ナデ、ナデ	A, E, C	弱良	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	明黄褐	10 Y R 4/6	
	38	A区検出	縄文	深鉢	-	-	6.5+ α	条痕調整のちナデ	ナデ	G. 片、 φ 1 mm以下の H を多量に	良	黒褐	7.5 Y R 3/2	赤褐	5 Y R 4/8	
第12図	39	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	5.8+ α	工具ナデ	工具ナデ	含む 金 G.、細 H、 E	良	暗褐	10YR3/3	褐	10YR4/4	
	40	A 区 G16 土坑検出	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	ていねいなナデ	ていねいなナデ、 凹線	A、C、E、橙 色粒子	良	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	赤褐、黒褐	5YR4/8、 5YR3/1	口縁端部刻目、凹線
	41	A ⊠ G14- 11	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ	A, C, B	良	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR6/4	微隆起線文
	42	A ⊠ G-12	縄文	深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ	ナデ、刺突文	B、白色砂岩	良	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	刺突文
	43	A区G19、 G11-10	縄文	深鉢	-	-	8.0+ α	ナデ	ナデ	A、B、C、D	良	にぶい橙	7.5YR7/4	灰褐	7.5YR4/2	口縁端部波状、外面に沈 線
	44	A区G 11-9	縄文	深鉢	-	-	4.7+ α	条痕、ナデ	ナデ	B, C, E	良	橙	5 Y R 7/7	橙	5 Y R 7/6	刻目による波状口縁
	45	A区G 11-1	縄文	深鉢	-	-	3.8+ α	ナデ	沈線、ミガキ	C、B、E	良	にぶい黄橙	10 Y R 7/3	褐灰	10YR4/1	沈線、波状□縁
	46	A区 G13- 5・G16 土 坑検出	縄文	深鉢	-	-	4.3+ α	ナデ	ナデ、沈線	C、B	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3	沈線
	47	A区G16- 13	縄文	深鉢	-	-	4.6+ α	ナデ	沈線、ナデ	C、B、E	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR7/3	外面に沈線
	48	A ⊠ G20-	縄文	深鉢	-	-	4.0+ α	オサエ、ナデ	ナデ、沈線	C、A、E	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	黒褐	5YR2/1 ~ 2/2	波状口縁、内面被熱?口 縁~全体が黒く変色する、 外面沈線文
	49	A区G 9-10	縄文	深鉢	-	-	3.9+ a	ナデ	入組同心円状凹線	C、B	良	褐灰	10 Y R 4/1	灰褐	7.5 Y R 5/2	外面入組同心円文
	50	A ⊠ G14- 20	縄文	深鉢	-	-	4.9+ α	条痕、ナデ	渦巻文	B、C	良	橙	5YR6/6	灰褐	5YR5/2	波状口縁、端部に刺突文、 頸部沈線による入組文
	51	A区G12- 39	縄文	深鉢	-	-	5.5+ α	ナデ	凹線、ナデ	A、C、B、赤 色砂岩	良	浅黄橙	7.5YR8/6	灰黄褐	10YR6/2	口縁折曲げによる肥厚
	52	A⊠	縄文	深鉢	-	-	8.4+ α	ナデ	ナデ	A., G., E	良	橙	5YR6/6 ~ 7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	口縁部片
	53	A ⊠ G-7	縄文	深鉢	-	-	5.3+ α	ナデ	沈線、ナデ	C、B、E	や や 弱	にぶい黄褐	10YR5/4	灰黄褐	10YR4/2	口縁端部に刻目、沈線
	54	A 区 G3- 16	縄文	深鉢	-	-	2.9+ α	ナデ	沈線	B, E		灰黄褐	10YR5/2	浅黄橙	10YR8/4	沈線
	55	A ⊠ G11	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ	Н	良	灰褐	5YR6/2	灰褐	5YR5/2	内面巻貝による沈線
第12図	56	A 区東西 トレ - 東 上層 G6-1	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ	A、B	良	暗赤灰	2.5YR3/1	橙	5YR6/6	刺突連点、口縁部肥厚 口縁部粘土紐装飾
	57	A ⊠ G4- 65	縄文	深鉢	-	-	5.6+ α	ナデ	刺突文、ナデ	C、B	良	にぶい黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐	10YR5/3	刺突文
	58	A 区 G7- 12	縄文	深鉢	-	-	5.9+ α	ナデ	線刻、沈線、ナデ	C、B、E	良	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	沈線
					L								1		l	

第8表 出土土器観察表(3)

図版	.,	11. 1 NB 666	9600	00.06		法量 (cm)		311	整	n/. 1	焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	59	A⊠ G7- 16	縄文	深鉢	-	-	2.9+ α	ナデ	刺突文、ナデ	B、C	良	にぶい褐	7.5YR6/3	にぶい褐	7.5YR6/3	口縁端部波状文、刺突文
	60	A⊠G 7-5	縄文	深鉢	-	-	2.4+ α	ナデ	刺突文、接合痕、ナデ	C、B	良	にぶい赤褐	5 Y R 5/4	明赤褐	5 Y R 5/6	口縁端部刻目、刺突文
	61	A区G 19	縄文	深鉢	-	-	3.7+ α	ミガキ、ナデ、接 合痕、ナデオサエ	瓜形文、ナデオサ エ、条痕	B、E、C、橙 色粒子	良	黒褐~暗赤 褐	5 Y R 3/1 ~ 5 Y R 3/2	赤褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8	外面瓜形文、沈線、波状 口縁
	62	A⊠G16- 22	縄文	深鉢	-	-	3.8+ α	ナデ	ナデ	C、B、E	良	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい黄橙	10YR7/2	波状口縁、口縁端部外面 に刺突連点
	63	A⊠G9- 15	縄文	深鉢	-	-	5.0+ α	ナデ	ナデ	C、金 G.、白 色砂岩	良	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい黄橙	10YR6/4	口縁端部波状文
	64	A ⊠ G-9	縄文	深鉢	-	-	2.2+ α	ナデ	ナデ、沈線	細H	良	浅黄橙	7.5YR8/6	橙	7.5YR7/6	波状文、沈線
	65	A⊠G11	縄文	深鉢	-	-	4.8+ α	ナデ	ナデ	C、 E	良	黒褐	5YR2/1 ~ 2/2	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	波状口縁?内面全面被熱 で黒色
	66	A ⊠ G4-1	縄文	深鉢	-	-	2.4+ α	ナデ	沈線	C、B	良	明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	刻目、沈線
	67	A ⊠ G20	縄文	深鉢	-	-	3.1+ α	ナデ、接合痕	刺突文の突帯	C、B、A、E	良	褐	7.5YR4/4 ~ 4/6	褐	7.5YR4/4 ~ 4/6	外面隆起状線文か?
	68	A区G16- 21	縄文	深鉢	-	-	4.7+ α	ナデ	線刻、ミガキ	C、B、E	良	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄橙	10YR6/3	
	69	A⊠G 19-1	縄文	深鉢	-	-	12.3+ α	ナデ	線刻、粗いミガキ	C、E、金 G.	良	褐灰	10YR4/1	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	
	70	A ⊠ G8-2	縄文	深鉢	-	-	9.5+ α	ナデオサエ、接合 痕	ナデミガキ?接合 痕	C、B、A、E、	良	暗赤褐	5YR3/4 ~ 3/6	橙~明赤褐	5YR6/8 ∼ 5YR5/8	波状口縁
	71	A⊠G14- 1	縄文	深鉢	-	-	4.5+ α	ナデ	ナデ	B、金G.、E	良	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	黒褐	5YR2/1	波状口縁、口縁端部刻目
第13図	72	A⊠G8- 27	縄文	深鉢	-	-	4.5+ α	ナデ、接合痕、ケ ズリナデ	ナデ	C、B、G.、E	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	口縁端部刻目(粘土紐を 蛇腹に折って貼付)
	73	A⊠G14	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	ナデ	ナデ	C、B	良	にぶい橙	5YR6/3	にぶい橙	5YR6/3	口縁、粘土による装飾 口縁部肥厚
	74	A区	縄文	深鉢	-	-	6.8+ α	ヨコナデ	粗いナデ	A, C, B, E, H,	良	赤褐	5 Y R 4/8	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	口縁端部貼付隆帯、 平口縁に粘土貼付
	75	A⊠G16- 18	縄文	深鉢	-	-	9.1+ α	ナデ	沈線、ナデ	B、細H	良	橙	7.5YR6/6	浅黄	2.5Y7/4	口縁端部刻目、沈線
	76	A ⊠ G3-4	縄文	深鉢	-	-	5.1+ α	ナデ	ナデ、沈線	C、B、E、G.	良	にぶい褐	7.5YR6/3	にぶい橙	7.5YR6/4	沈線、口縁部文様帯
	77	A ⊠ G-12	縄文	深鉢	-	-	5.6+ α	ミガキ	条痕	C、B、D	良	にぶい橙	7.5YR7/4	明赤褐	5YR5/6	口縁端部波状文
	78	A ⊠ G5-7	縄文	深鉢	-	-	5.2+ α	オサエ、ナデ	オサエ、ナデ	C、A、E、H	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	黒褐	5YR3/1 ∼ 2/1	内面被熱?黒変、波状口 縁、口縁端部肥厚
	79	A区G 12-31、 G 16-5・ 17	縄文	深鉢・ 浅鉢	-	-	8.0+ α	ナデ	ナデ	A、B、C、白 色砂岩	良	にぶい黄橙	10 Y R 6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	口縁端部肥厚、沈線
	80	A区G 12-37、 東西トレ- 西1下層	縄文	深鉢	-	-	6.0+ a	ケズリ後ナデ	ナデ	A、C、B、E、 石粒	良	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	赤褐、黒褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8、5 Y R 2/1	内面被熱による黒斑とス ス付着
	81	A⊠G 11-18	縄文	深鉢	-	-	4.2+ α	ナデ	ていねいなナデ	G., C, E	良	褐灰~灰褐	5 Y R 4/1 ~ 5 Y R 4/2	黒褐	5 Y R 2/2	
	82	A区G 9-5	縄文	深鉢	-	-	4.1+ α	ていねいなナデ、 ミガキ、接合痕	ミガキ、接合痕、 ていねいなナデ、 ミガキ	G., E	良	赤褐~明赤褐	5 Y R 4/8 ~ 5 Y R 5/8	赤褐~明赤褐	5 Y R 4/8 ~ 5 Y R 5/8	
	83	A区 G7- 10・11・ 21・23 サブトレ 6	縄文	深鉢	(28.0)	-	9.6+ α	ナデ、条痕	ナデ、条痕(二枚貝)	A、C	弱	淡黄	2.5Y8/4	淡黄	2.5Y8/3	口唇部に刻目
*** 1.4 \(\overline{\pi}\)	84	A 区 G8-6 南北トレ 3 上層	縄文	深鉢	-	-	12.0+ α	ナデ	ナデ	A、B、C、赤 色砂岩	良	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄橙	10YR7/4	波状口縁、指オサエによる刻目、口縁端部(外面) にタテ方向の短い沈線が 走る。
第 14 図	85	A区G 8-5・6・ 17	縄文	深鉢	-	-	13.1+ α	ナデ、オサエ、接合痕	オサエナデ、ナデ	B、C、E、H	良	橙	5 Y R 6/8 ~ 7/8	橙、黄橙	5 Y R 6/8、 7.5 Y R 7/8	粗製品
	86	A 🗷 G -11 • 23 • 40 • 41 • 44 • 46	縄文	深鉢	-	-	14.5+ α	ミガキ、ケズリ、ナデ	ナデ	A, C, B, G., E	良	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	明赤褐、黒褐	5 Y R 5/8、 5 Y R 2/1	波状□縁、内外ともスス 付着

第9表 出土土器観察表(4)

図版 番号	No.	出土遺構	種別	器種		法量 (cm)		調		胎土	焼成		T	色調		備考
	87	A区G 19・G	縄文	深鉢	口径 -	器高	底径 10.0+ α	内面 スス付着、ナデ	外面ナデ	C、A、Hを		内面 (裏)	Hue 2.5 Y R 4/6	外面(表)	Hue 5 Y R 3/1	
		20 A⊠ G7-								多量に含む A、G、細 H、						
	88	10 • 11	縄文	深鉢	-	-	8.8+ α	ナデ	ナデ	E E	良	明褐	7.5YR5/6	黒褐	10YR5/6	口縁部片、少し粗い
	89	A⊠ G7- 22	縄文	深鉢	-	-	2.8+ α	ナデか	ナデか	A, G., E	良	橙	5YR6/8	にぶい褐	7.5YR5/4	口縁部片、少し粗い
	90	A⊠G 20-2	縄文	深鉢	-	-	4.9+ α	ナデか	ナデか	G.、E	良	浅黄橙	10 Y R 8/3	黒褐	10 Y R 3/2	口縁部片、調整不明瞭
	91	A ⊠ G3-2	縄文	深鉢	-	-	3.8+ α	ナデ	ナデ	A., G., E	良	黒褐	7.5YR3/1	褐~灰褐	7.5YR4/4 ~ 4/2	口縁部片、内面端部付近 に稜線が入る(積み痕か)
	92	A区G 9	縄文	深鉢	-	-	2.9+ α	ナデ(ミガキ風ナ デ?)	ナデ (ミガキ風ナ デ?)	E, G., A	良	橙~褐灰	7.5 Y R 6/6 ~ 7.5 Y R 4/1	にぶい黄橙〜褐灰	10 Y R 6/4 ~ 10 Y R 4/1	口縁部片
	93	A ⊠ G20	縄文	深鉢	-	-	4.3+ α	ナデ、ミガキ風ナ デ	ミガキ風ナデ	E、金G.	良	にぶい褐〜 灰褐	7.5YR5/4 ~ 4/2	橙	7.5YR6/6	口縁部片、端部線刻
第14図	94	A区G 14-6	縄文	深鉢	-	-	3.9+ α	強いナデ	強いナデ	金 G.、E	良	橙	7.5 Y R 6/6	橙~黒褐	5 Y R 6/6 ~ 7.5 Y R 3/1	口縁部片
	95	A区14- 16	縄文	深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ	ナデ	E、金G.、B	良	褐灰~黒	5 Y R 5/1 ~ 7.5 Y R 2/1	橙	5 Y R 6/6	口縁部片、端部肥厚
	96	A⊠	縄文	深鉢	-	-	4.3+ α	ナデ	ナデ	E、A	良	褐灰~黒褐	7.5YR4/3 ~ 10YR3/1	褐	7.5YR4/3	口縁部片、施文(沈線か) 外面剥離
	97	A⊠G 14-25	縄文	深鉢	-	-	2.4+ α	ナデ、ミガキ	ミガキ	金 G.、E、B	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	口縁部片
	98	A⊠G 9	縄文	深鉢	-	-	2.3+ α	強いナデ	強いナデ、沈線	E、金G.、B	良	褐	7.5 Y R 4/6	褐	7.5 Y R 4/6	口縁部片
	99	A 区 G-16 土坑検出	縄文	深鉢	-	-	2.8+ α	ナデ	ナデ、瓜形文	B、金G.、E、 H	良	明赤褐	5YR5/8	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	外面瓜形文
	100	A区G17- 14	縄文	深鉢	-	-	3.7+ α	ナデ	ミガキ風ナデ	E、金G.、B	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	口縁部片
	101	A区G 7-32	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	指ナデ	ナデ	A、E、C	良	橙	5 Y R 6/6	橙	7.5 Y R 6/6	こぶ状突帯?
	102	A区G 12-7、サ ブトレ6、 検出	縄文	深鉢	(26.6)	-	16.5+ α	ヨコナデ	ヨコ方向ナデ	G.、B、E、 石粒	良	橙~明褐	7.5 Y R 6/8 ~ 7.5 Y R 5/8	橙~明褐	7.5 Y R 6/8 ~ 7.5 Y R 5/8	内外面うすく小さい黒斑 あり
	103	A ⊠ G8- 33	縄文	深鉢	-	-	4.6+ α	ナデ	ミガキ	E、金 G.	良	橙	7.5YR6/6	にぶい黄橙	10YR5/4	口縁部片、精製品か
	104	A⊠G 4-31	縄文	深鉢	-	-	4.5+ α	ナデ	ナデ	E、G.、A	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	明褐	7.5 Y R 5/6	口縁部片
	105	A区G 9	縄文	深鉢	-	-	4.5+ α	ていねいなヨコナ デ、条痕	ていねいなヨコナ デ、連続する沈線、 刺突文	C、A、E、橙 色粒子、H	良	赤褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8	黒褐	5 Y R 2/1	列状に施文(雑)、刺突文 (雑)、模倣品
	106	A⊠G9- 17	縄文	深鉢	-	-	4.1+ α	ナデ	ナデ	E、G.、細H	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR7/6	口縁部片、端部肥厚
	107	A ⊠ G20	縄文	深鉢	-	-	2.7+ α	ナデ	ナデ	G., F	良	褐灰	10YR4/1	にぶい黄褐	10YR7/4	口縁部片、内面端部付近 に稜線が入る (積み痕か)
	108	A⊠G 9-22	縄文	浅鉢	-	-	2.1+ α	ていねいなナデ、 ミガキ	ていねいなナデ	G.、E	良	にぶい黄橙 ~にぶい黄 褐	10YR6/3 ~ 10 Y R 5/3	にぶい黄橙~にぶい 黄褐	10YR6/3 ~ 10 Y R 5/3	
	109	A⊠G21-	縄文	深鉢	-	-	8.4+ α	ナデ	ナデ、刺突	C、B、E	良	橙	5YR6/6	橙	5YR7/6	粘土紐刺突連点、口唇端 部刻目
第15図	110	A⊠G 8-12、G 14-32	縄文	深鉢	-	-	5.5+ α	植物等を用いたナ デ	指オサエによる隆 帯、ナデ	G.、φ1 m m程の砂礫 を多量に含 む	良	明赤褐	5 Y R 5/6	暗褐	7.5YR3/3	波状文
	111	A⊠G 8-20	縄文	深鉢	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ、沈線	滑石	良	橙	7.5 Y R 6/8	褐灰、橙	5 Y R 4/1, 5 Y R 6/6	沈線、No. 172 と同一個体か
	112	A ⊠ G8- 39	縄文	深鉢	-	-	(4.8)	ナデ	ナデ、沈線	C、E、H	良	明赤褐~赤 褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	沈線
	113	A区G 7-3	縄文	深鉢	-	-	(3.2)	ナデ	ナデ、突帯はりつけ	C、A、E、H	良	にぶい黄褐	10 Y R 7/4 ~ 6/4	にぶい黄褐	10 Y R 7/4 ~ 6/4	沈線、突帯はりつけ
	114	A区G 16- 土坑 検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	5.3+ α	条痕後ナデ?	条痕	A, C	良	橙	7.5 Y R 6/6	黒褐	7.5 Y R 3/1	内面スス付着
	115	A区 G11- 北上層	縄文	深鉢	-	-	(5.1)	ナデ	沈線、渦巻文	C、A、E	良	明褐~褐	7.5YR5/6 ~ 7.5YR4/6	明褐~橙	7.5YR5/8 ~ 7.5YR6/8	外面沈線・渦巻文
	116	A⊠G 7-19	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.2+ α	ナデ	赤色塗彩、文様か、 ナデ後ミガキ?、 沈線か	滑石 (多量)、 A、E	良	赤褐	5 Y R 4/6	褐灰	5 Y R 4/1	外面赤色塗彩
	117	A区G 2-9	縄文	深鉢	-	-	3.8+ α	ナデ	沈線、ミガキ	A、B、E	良	灰褐	7.5 Y R 4/2	黒褐	7.5 Y R 3/1	沈線
	118	A区C 7-22	縄文	深鉢	-	-	(3.2)	ナデ	沈線、ナデ	B、C、E、H	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	褐	7.5 Y R 4/6	沈線(半裁竹管)

第10表 出土土器観察表 (5)

図版	.,	.1. 1 349 546	6600	00.06		法量 (cm)		清明	整	1.30	焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面(裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	119	A ⊠ G4-9	縄文	深鉢	-	-	(6.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	C、B、E	良	にぶい橙	7.5 Y R 6/4	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	貼付
	120	A区G 12-1	縄文	深鉢	-	-	3.5+ α	ナデ	沈線、刺突文、ナ デ	D、細H	良	淡黄	2.5 Y 8/3	灰白	2.5Y8/2	沈線、刺突文
	121	A⊠G17- 1	縄文	深鉢	-	-	(4.2)	条痕、接合痕	ナデ、沈線	C、A、E	良	にぶい黄橙	10YR7/4 ~ 6/4	にぶい黄橙	10YR7/4 ~ 6/4	沈線
第 15 図	122	A区土坑 - 東西トレ	縄文	深鉢	-	-	(5.7)	条痕	ナデ、沈線	C、A、E	良	橙~明褐	7.5 Y R 6/8 ~ 7.5 Y R 5/8	黒褐~暗赤褐	5 Y R 3/1 ~ 5 Y R 3/2	外面線刻か?
	123	A⊠G 11	縄文	深鉢	-	-	2.6+ α	ナデ	ナデ、沈線	C、A、E、H	良	灰褐	7.5 Y R 5/2 ~ 4/2	灰褐	7.5 Y R 5/2 ~ 4/2	胴部?、沈線
	124	A⊠G11	縄文	深鉢	-	-	(2.8)	ナデ	ナデ、沈線	C、A、B、E	良	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	黒~黒褐	7.5YR2/17 5YR2/2	外面沈線 3 条
	125	A⊠G 4	縄文	深鉢	-	-	(3.4)	ナデ	沈線、ミガキ	C, B, E	良	明赤褐	5 Y R 5/6	明褐	7.5 Y R 5/	外面沈線
	126	A⊠	縄文	深鉢	-	-	3.8	オサエ、ナデ	沈線	B, C, E, H	良	(地) にぶい 黄橙、(顔料) 赤	(地) 10YR7/2 (顔 料) 10R5/8	にぶい黄橙	10YR6/4	(外) 赤色顔料か? 沈線
	127	A⊠G 8-18	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.2+ α	ハケ目、ナデ	ナデ	C、A、E	良	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	
	128	A ⊠ G3- 15	縄文	深鉢	-	-	(2.4)	ナデ	ナデ	B、C、A、E、 H、滑石	良	赤褐	2.5YR4/6 ~ 4/8	赤褐	2.5YR4/6 ~ 4/8	頸部付近か?滑石含む
	129	A⊠	縄文	深鉢	-	-	(8.5)	ヨコナデ	沈線文、刺突文、 刻目突帯貼付、条 痕	C、A、E	良	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	赤褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8	(外) 刻目突帯、沈線
	130	A区 G11 北上層	縄文	深鉢	-	-	(2.9)	ナデ	沈線、突帯はりつ け、条痕	C、B、E、橙 色粒子	良	黒褐	5YR2/1 ∼ 2/2	赤褐	2.5YR4/6 ~ 4/8	隆起線文、沈線
	131	A区	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	ミガキ	ミガキ、刺突文	C、B	良	にぶい褐	7.5YR5/4	灰黄褐	10YR5/2	刺突文
	132	A⊠G8- 13	縄文	深鉢	-	-	(3.8)	ていねいなミガキ	ていねいなミガキ	C、A、G.、E	良	黒褐	5YR3/1	黒褐	5YR3/1	磨消縄文、ミガキ丁寧、 ハクリ、№ 208 に近い、 内面ハクリは焼成時のハ クリか?
	133	A⊠G13- 42	縄文	深鉢	-	-	(4.6)	ナデ	タテナデ、沈線、 貝殻条痕	C、B、A、E	良	黄橙~橙	10YR7/8 ~ 10YR6/8	浅黄橙~黄橙	10YR8/4 ~ 10YR8/6	磨消縄文、沈線、貝殻条 痕
	134	A⊠G11- 44,G12-51	縄文	深鉢	-	-	(8.3)	ミガキナデ、ナデ	ミガキナデ、沈線、刺突文	C、B、E、橙 色粒子、H	良	橙	7.5YR7/6 ~ 4/6	赤褐	5YR4/8	磨消縄文、やや粗いつく り
第 16 図	135	A ⊠ G3- 27	縄文	浅鉢	-	-	(3.7)	ミガキ	ミガキ、刺突文、 沈線	C、A、E	良	褐	7.5YR4/3 ~ 4/4	黒褐	7.5YR3/2 ~ 2/2	磨消縄文、沈線、刺突文
	136	A区G12- 45、G9	縄文	深鉢	-	-	(5.0)	ミガキ、ナデ	ミガキ、沈線、刺突文	C、E	良	橙	7.5YR6/6 ~ 6/8	橙~明褐	7.5YR6/6 ~ 7.5YR5/6	磨消縄文
	137	A ⊠ G1-4	縄文	浅鉢	-	-	(2.1)	ナデ	ナデ、沈線、縄文	B、A、E、H	良	明褐~褐	7.5YR5/6 ~ 7.5YR4/6	橙~明褐	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	磨消縄文、沈線 縄目が細かい
	138	A区G 13-29	縄文	深鉢	=	-	(3.5)	ミガキ	ミガキ、沈線、縄文	C、E、橙色 粒子	良	明褐	5 Y R 5/6 ~ 5/8	黒褐	5 Y R 2/2	磨消縄文、ミガキは丁寧、 No. 209 と同一個体か
	139	A区G 12-10	縄文		-	-	(4.9)	コゲ付着、ナデ	沈線、貝殻擬縄文	C、A、E	良	にぶい褐〜 明褐	7.5 Y R 5/4 ~ 7.5 Y R 5/6	黒褐	7.5 Y r 3/1	磨消貝殻擬縄文、沈線、 内面全面スス付着、外面 わずかにスス付着
	140	A⊠G 9、 G 10	縄文	深鉢	-	-	(8.4)	ていねいなミガキ、 ミガキ、ナデ	ていねいなミガキ、 刺突文、沈線	C、E、H	良	黒褐	7.5 Y R 3/2	赤褐、黒褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8, 5 Y R 2/1 ~ 2/2	磨消縄文 福田 K II 、宿毛式
	141	A⊠G 8-15	縄文	深鉢	-	-	(4.9)	ミガキ	ミガキ、磨消縄文	C、E	良	にぶい褐〜	7.5 Y R 5/4 ~ 7.5 Y R 54/5	にぶい褐〜褐	7.5 Y R 5/4 ~ 7.5 Y R 54/5	磨消縄文、縄文が粗い、 ミガキが丁寧、沈線内に 赤色顔料が残る
	142	A⊠G12- 27	縄文	深鉢	-	-	(3.9)	ナデ	ミガキ、沈線、刺 突文	C、A、E、橙 色粒子	良	暗褐	7.5YR3/4	明赤褐	2.5YR5/8	磨消縄文、沈線、刺突文、 No. 259
	143	確認調査 2010901、25 トレ検出	縄文	深鉢	-	-	(24.5)	ナデ、うすい黒斑	条痕、ていねいな ナデ、黒斑 2 ケ所	B、C、G.、H	良	赤褐	2.5 Y R 4/6 ~ 4/8	赤灰~灰赤	2.5 Y R 4/1 ~ 2.5 Y R 4/2	内面被熱による黒変あり、 外面スス付着
	144	A区G 13-20	縄文	深鉢	-	-	(3.3)	ミガキ	ミガキ、沈線、刺突文	В, Е, Н	良	黒褐	7.5 Y R 2/2	黒褐	7.5 Y R 2/2	磨消縄文 福田 K II 、宿毛式
	145	A⊠G 3-2-3	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	5.0+ α	ていねいなナデ、 ミガキ、ナデ	ミガキ、強いナデ	C、E、金G.	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	にぶい褐	7.5 Y R 5/3	
	146	A ⊠ G4- 14	縄文	深鉢・ 浅鉢	-	-	(3.5)	タテ方向のナデ	タテ方向のナデ	E, H	良	赤褐	5YR4/6	赤褐	5YR4/6	底部付近か、タテ方向の ナデ
第17図	147	A区G 14-19	縄文	深鉢	-	-	(4.3)	ていねいなナデ、 接合痕	ていねいなナデ	G., C. E. H	良	明赤褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8	明赤褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8	丁寧、やや精製品か、頸 部付近か
	148	A区G 9	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.9+ α	ミガキ	ミガキ	C、E、A	良	灰褐	7.5 Y R 4/2	にぶい橙	7.5 Y R 5/4	
	149	A⊠G 8-40	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.1+ α	ナデ	ミガキ	B, E, C, A	良	橙	7.5 Y R 6/6	橙	7.5 Y R 6/6	
	150	A⊠	縄文	深鉢	-	-	(3.1)	ナデ	渦巻文貼付	E、橙色粒子、 H		黄橙~明黄 褐	10YR7/8 ~ 10YR6/8	にぶい黄橙	10YR7/4	沈線、渦巻文、粗い

第11表 出土土器観察表 (6)

図版		.1. 1 3/0.14	6571	mer		法量 (cm)		311	整	n	焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面(裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	151	A区検出	縄文	深鉢	-	-	(4.6)	ナデ	沈線、ナデ	滑石	良	橙~明赤褐	5 Y R 6/8 ~ 5 Y R 5/8	橙~明赤褐	5 Y R 6/8 ~ 5 Y R 5/8	沈線
	152	A区検出	縄文	深鉢	-	-	(3.3)	ナデ	沈線、ナデ	C、B、A、E、 橙色粒子	良	橙	5 Y R 6/6	にぶい黄橙	10 Y R 6/3	沈線
	153	A 区検出	縄文	深鉢	-	-	(6.3)	ケズリ、条痕	ヨコナデ、沈線 (ハ イガイ)	C、A、B、E	良	灰褐~黒褐	7.5YR4/2 ~ 7.5YR3/2	灰褐~黒褐	7.5YR4/2 ~ 7.5YR3/2	磨消縄文、擬縄文 (入組 文もどき)、縄文粗い
	154	A区検出	縄文	深鉢	-	-	(3.1)	ミガキ	ミガキ、刺突文、 沈線	C、E	良	暗赤褐	5 Y R 3/3 ~ 3/4	黒褐	5 Y R 3/1	磨消縄文、沈線、刺突文
	155	A区検出	縄文	深鉢	-	-	(2.3)	ナデ	沈線文	C, A, G., E	良	暗赤褐	5 Y R 3/2	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	沈線
	156	A区検出	縄文	深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ	刺突文、ナデ	A、B、E	良	灰褐	7.5 Y R 4/2	にぶい橙	7.5YR6/4	刺突文
	157	A区検出	縄文	深鉢	-	-	3.8+ α	条痕(二枚貝)	条痕(二枚貝)	A, B, E	良	にぶい橙	5 Y R 7/4	にぶい橙	5 Y R 6/4	
	158	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.6+ α	ハケ目	ミガキ	A、C、E	良	褐灰	10 Y R 5/1	灰黄褐	10YR5/2	上下傾不明
	159	A区G 21-下層、 検出	縄文	深鉢	-	-	(11.8)	ていねいなナデ	条痕ナデ	C、A、E、H	良	明赤褐~赤 褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	明赤褐~明褐	5 Y R 5/8 ~ 7.5 Y R 5/8	
	160	A⊠G 13-15	縄文	深鉢	-	-	6.4+ α	ナデ	ナデ後ミガキ	B, C, E	良	明赤褐	5 Y R 5/6	にぶい褐	7.5YR6/3	
	161	A区検出	縄文	深鉢	=	-	3.7+ α	条痕(二枚貝)	沈線、刺突文、ナデ	C、B	良	淡黄橙	10 Y R 8/4	黒褐	10 Y R 3/1	沈線、刺突文
第17図	162	A区G 9	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.5+ α	ナデ(工具使用)	ヨコ方向ケズリ風 ナデ (強いナデ)	C、滑石(多量)	良	褐灰	5 Y R 4/1	にぶい赤褐	5 Y R 5/4	
	163	A区G 10-16	縄文	浅鉢・ 深鉢	=	-	(5.0)	ヨコナデ	ヨコナデ、隆起線 文	A、B、E、橙 色粒子	良	暗赤褐	2.5 Y R 3/6	暗赤褐	2.5 Y R 3/6	隆起線文
	164	A⊠G 4-12	縄文	不明	=	-	1.9+ α	顔料塗付	器面ハクリ	E、A	良	にぶい赤褐	5 Y R 5/4	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	外面ハクリ、内面赤色塗 彩、小片のため詳細不明
ı	165	A区G 17-11	縄文	深鉢	-	-	(5.7)	スス付着調整不明	ナデ	C、A、E	良	橙	7.5 Y R 6/8	黒	7.5 Y R 2/1	内面炭化物多量に付着す る
	166	A⊠G 6-12	縄文	深鉢	-	-	4.7+ α	ナデ	ヨコ方向強いナデ	C、金G.、A	良	にぶい赤褐	5YR4/3 ∼ 4/4	明赤褐	5 Y r 5/6	
	167	A区G 10-24	縄文	深鉢	-	-	(3.8)	ナデ、接合痕	ナデ、磨滅顕著	C、A、H	良	黒褐	5 Y R 3/1 ~ 3/2	橙~黄橙	7.5 Y R 7/6 ~ 7.5 Y R 7/8	外面スス付着、内面輪積 み痕か?
	168	A⊠G 6-14	縄文	深鉢	-	-	5.3+ α	炭化物付着	タテ方向強いナデ	A、C、E	良	にぶい橙	7.5 Y r 6/4	褐灰~褐	7.5 Y R 4/1 ~ 7.5 Y R 4/3	内面炭化物付着
	169	A区G 11-6	縄文	深鉢	-	-	(5.8)	ていねいなナデ、 よこ方向	ていねいなナデ、 ナナメ方向	C、E	良	褐灰	10YR4/1	褐灰	10YR4/1	精製品
	170	A⊠G 4-51	縄文	深鉢	-	-	3.6+ α	ナナメ方向のナデ (工具使用)	タテ方向の強いナ デ	A、C、E	良	橙	5 Y R 6/6	褐	7.5 Y R 4/3	
ı	171	A⊠G 9	縄文	浅鉢・ 深鉢	=	-	2.5+ α	ナデ(ヨコ方向)	ナデ(ヨコ方向)	金 G.、A、E	良	灰黄褐	10YR4/3	にぶい黄橙	10 Y R 5/3	外面粘土接合痕
	172	A区G 11-40・ 41、G 10、サブ トレ2	縄文	深鉢	-	-	(12.5)	ナデ、スス付着黒 斑、合成	ナデ、合成	A、C、E、橙 色粒子	良	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/2	褐灰~灰褐	7.5 Y R 4/1 ~ 7.5 Y R 4/2	内面スス付着、黒斑
i İ	173	A⊠G 4、 G 8-9 · 31	縄文	深鉢	-	-	(10.5)	ていねいなナデ	ナデ	B, E, H	良	明褐~褐	7.5 Y R 5/6 ~ 7.5 Y R 4/6	にぶい褐〜明褐	7.5 Y R 5/4 ~ 7.5 Y R 5/6	外面黒斑複数ヶ所
	174	A区 G-16- 34・36、 G 20-6 他	縄文	深鉢	-	-	(11.2)	ハケ後ヨコ方向の ナデ、	ナデ	A, E, H	良	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	黒褐、橙~明赤褐	5 Y R 2/1, 5 Y R 6/8 ~ 5 Y R 5/8	内面ほぼ全面にスス付着
	175	A区G 13-1・8、 南北トレ -1 上層他	縄文	深鉢	-	-	(16.9)	条痕ナデ	ナデ	C、B、E、H	良	橙~明褐	7.5 Y R 6/8 ~ 10 Y R 7/6	にぶい黄橙〜明黄褐	10 Y R 7/4 ~ 10 Y R 7/6	外面上半スス付着
ı	176	A区G 9、 G 3-23	縄文	深鉢	-	-	(12.8)	ていねいなナデ、 スス多量に付着	ていねいなナデ	C、A、B、E、 橙色粒子	良	明赤褐	5 Y R 5/8	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	内面スス付着
第 18 図	177	A⊠ G -12- 34 • 56	縄文	深鉢	-	-	(10.8)	ほとんど黒斑、ナ デ、合成	ナデ、合成	C、B、橙色 粒子、H	やや弱	明赤褐~赤褐	5 Y R 5/8 ~ 5 Y R 4/8	明黄褐、黒褐	10 Y R 7/6 ~ 10 Y R 3/1	内面黒斑あり
	178	A⊠G 13-39	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	6.7+ α	ナデ(工具使用)	強いナデか、風化 のため調整不明瞭	C、A	良	橙	7.5 Y R 7/6	にぶい黄褐	10 Y R 5/4	
	179	A ⊠ G7-8	縄文	深鉢	-	-	(5.4)	ナデ	ヨコ方向のナデ	C、 A、 E	良	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	
	180	A⊠G12- 4·5·6	縄文	深鉢	-	-	(13.4)	ナデ	タテ方向のナデ	G., E, H	良	明赤褐	5YR5/8	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	
	181	A⊠G16- 28	縄文	深鉢	=	-	(10.3)	ヨコ方向のナデ	タテ方向のナデ	C、E、H	良	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	暗褐	7.5YR3/3	

第12表 出土土器観察表 (7)

図版			*****		法量 (cm)	1	- THE	整	n/ /	焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径 器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	182	A ⊠ 12- 29	縄文	深鉢		(9.3)	ナデ	ケズリ後 ナデ	B、 C、 E	良	灰褐~褐	7.5YR4/2 ~ 7.5YR4/3	橙	7.5YR6/8	
	183	A⊠G7- 38	縄文	深鉢		(6.7)	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	C、E、H	良	黒褐、褐	7.5YR3/2 ~ 2/2, 7.5YR4/4 ~ 4/6	黒褐	7.5YR3/1 ~ 3/2	内面全面被熱による黒色
	184	A区G12- 52・G9	縄文	深鉢		(7.2)	ハケ目残る、ナデ	ナデ	A、C、B	良	赤褐	7.5YR4/8	黒褐	7.5YR3/1 ~ 3/2	内面全面黒斑
	185	A ⊠ G12- 35	縄文	深鉢		(5.6)	ナデ	ナデ	C、B、E	良	橙~黄橙	7.5YR6/8 ~ 7.5YR7/8	橙	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	
第 18 図	186	A区 G11- 北上層	縄文	深鉢		(6.2)	ナデ	ナデ、条痕	A、C、H、 橙色粒子	良	明赤褐~赤 褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	黒褐	7.5YR3/1	内面少し粗い、被熱で黒 い
	187	A ⊠ G8- 36	縄文	深鉢		(5.0)	ていねいなナデ	ナデ	G.、 C、 E、H	良	黒褐	5YR3/1 ∼ 3/2	明赤褐	5YR5/8	
	188	A区G17- 2	縄文	深鉢	-	(9.3)	ていねいナデ	ヨコ方向 ナデ、 粗いナデ	B, C, E, H	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	にぶい赤褐	5YR4/5	
	189	A区 G11- 北上層	縄文	深鉢		(5.8)	ていねいなナデ	ハケ後 ナデ	C、 A、 E、橙色粒子	良	明赤褐	5YR5/8	暗赤褐	5YR3/4 ~ 3/6	精製品か
	190	A ⊠ G9- 24	縄文	深鉢	-	(5.7)	ていねいなナデ	タテ方向のナデ	G.、 C、 E	良	黒褐	7.5YR3/1	橙	7.5YR6/8	
	191	A ⊠ G9-6	縄文	深鉢	-	(6.6)	ヨコ方向のナデ	ナデ、わずかに沈 線 残る	C、A、E、H	良	褐	7.5YR4/4 ~ 4/6	褐、黒褐	7.5YR4/4 ~ 4/6, 7.5YR3/1	外面一部沈線残る、内外 面部分的に黒斑あり
	192	A区G16- 15	縄文	深鉢		(5.5)	ヨコナデ	条痕後 ナデ	C、E、H	良	橙	7.5YR6/8	にぶい黄橙	10YR7/4 ~ 6/4	内外面黒斑あり
	193	A⊠G16- 34	縄文	深鉢		(5.6)	ハケ後ヨコ方向の ナデ	ハケ後ヨコ〜ナナ メ方向のナデ	G., E	良	橙	7.5YR7/6 ~ 6/6	橙	7.5YR7/6 ~ 6/6	精製品か 巻貝による条痕
	194	A区G14- 21	縄文	深鉢		(5.2)	ヨコ方向のナデ	タテ方向のナデ	C、 A、 E、H	良	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	黒褐	5YR2/1	内面全面被熱による黒色
	195	A⊠G10- 17	縄文	深鉢		(6.2)	ていねいなナデ	ナデ?磨滅で不明 瞭	A, C, E, H	良	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	にぶい黄橙、黒褐	10YR7/4 ~ 6/4, 10YR3/1	
	196	A⊠G10- 22	縄文	深鉢・ 浅鉢		(5.4)	ていねいなナデ	ケズリ後 ナデ	C, B, E, H	良	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/3 ~ 5/4	
	197	A区G12	縄文	深鉢・ 浅鉢		(5.1)	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	C、E	良	明赤褐~赤 褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	
	198	A⊠G16- 26	縄文	深鉢	- -	(4.2)	ていねいなナデ	タテ方向 ナデ	A、 G.、 E	良	黒褐	10YR3/1 ~ 3/2	黒褐	10YR3/1 ~ 3/2	
	199	A ⊠ G4- 61	縄文	深鉢		(5.2)	ヨコ方向のナデ	ハケ後 ナデ	C、 A、 E	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	橙~明褐	7.5YR6/6 ~ 7.5YR5/6	内面うすく黒斑あり(一 部)
	200	A⊠G10- 17	縄文	深鉢		(6.0)	ていねいなナデ	ていねいなナデ	C、 B、H	良	黒褐、にぶい 赤褐	5YR3/1 ~ 2/1, 5YR4/4	橙、明赤褐	5YR6/8、 5YR5/8	
	201	A ⊠ G8-8	縄文	深鉢		(4.5)	ナデ?	ナデ?	B, E, H	良	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	橙	7.5YR6/6 ~ 6/8	
第 19 図	202	A ⊠ G16- 33	縄文	深鉢		(4.8)	タテ方向の条痕後 ナデ	ナデ	B, C, E	良	明黄褐〜に ぶい黄褐	10YR6/6 ~ 10YR6/4	灰黄褐、にぶい黄褐 〜明黄褐	10YR4/2、 10YR6/4 ~ 10YR6/6	
	203	A ⊠ G12- 36	縄文	深鉢		(4.9)	ナデ	粗いナデ	C, B, A, H	良	明褐	7.5YR5/8	橙	7.5YR6/8	粗製品
	204	A ⊠ G12- 54	縄文	深鉢		(5.2)	ハケ後 ナデ	ハケ後 ナデ	C, E	良	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	赤褐	5YR4/6 ~ 4/8	やや精製品
	205	A ⊠ G14-	縄文	深鉢		(4.3)	ナデ	条痕	B, C, E	良	橙~明褐	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	褐~明褐	7.5YR4/3 ~ 7.5YR3/3	器壁がうすい
	206	A区G17- 8	縄文	深鉢		(4.3)	ヨコ方向ハケ後ナ デ、ほぼ全面黒斑	タテ方向 ハケ後ナデ	C、E	良	橙~明褐	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	橙、黒褐~黒	7.5YR6/8, 7.5YR43/1 ~ 7.5YR2/1	
	207	A⊠G17- 5	縄文	深鉢		(4.8)	ナデ	ナデ	C、H	良	明赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	黒褐	5YR3/1 ~ 5YR2/1	(内) 全面スス付着
	208	A区G15- 16	縄文	深鉢	-	(4.1)	ヨコ方向 ナデ	ナデ	A, C, E	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	にぶい褐、黒褐	7.5YR7/3 ~ 5/4, 7.5YR3/1	黒斑あり
	209	A⊠G20- 9	縄文	深鉢		(4.9)	ていねいなナデ、 ほぼ全面に黒斑	ナデ	B, E, H	良	橙	5YR6/8	橙、黒褐	5YR6/8、 5YR2/1	
	210	A⊠G11- 38	縄文	深鉢	- -	(4.0)	ナデ	ヨコ方向のナデ	C、 A、 E、H	良	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	橙~明褐	7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	外面やや磨滅、粗製品が
	211	A区G10- 18	縄文	深鉢	-	(6.5)	ナデ	ナデ、条痕	A、 H	良	褐、黒	7.5YR4/4、 7.5YR2/1	橙、褐灰~灰褐	7.5YR6/8、 7.5YR4/1 ~ 7.5YR4/2	
	212	A ⊠ G18- 1	縄文	深鉢		(6.1)	ヨコ方向 ナデ、全面スス付 着	ナデ	A、 B、 H、 E	良	明赤褐~赤褐	5YR5/8	黒褐	5YR2/1	内面スス付着
	213	A区G17-	縄文	深鉢		(3.2)	条痕、ナデ	ナデ	C, E, H	良	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	

第13表 出土土器観察表(8)

₩.						法量 (cm)	1	THE STATE OF THE S	整		桩			色調		備考
図版 番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	焼成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	214	A⊠G16- 25	縄文	深鉢	-	-	(4.0)	ヨコ方向のナデ	ヨコ方向〜ナナメ 方向ナデ	G.、 E	良	にぶい赤褐	5YR4/3 ~ 4/4	明赤褐	5YR5/6 ~ 5/8	
	215	A ⊠ G19	縄文	深鉢	-	-	(4.1)	ていねいなナデ、 ナデ	ていねいなナデ、 ナデ	C, B, E, H	良	橙~明褐	7.5YR6/6 ~ 7.5YR5/6	黄橙~橙、明褐	7.5YR7/8 ~ 7.5YR6/8, 7.5YR5/6	胴部中央付近か
	216	A区G10- 19	縄文	深鉢	-	-	(4.5)	ナデ	ナデ、 ケズリ後 ナデ	C、 G.、E、H	良	にぶい褐~ 明褐	7.5YR5/4 ~ 7.5YR5/6	橙	7.5YR6/6	胴部中央付近か
第 19 図	217	A ⊠ G19	縄文	深鉢	-	-	(5.4)	ナデ、接合痕	ナデ	B, E, H	良	暗赤褐、赤褐	5YR3/3,5YR4/8	にぶい赤褐〜暗赤褐	5YR4/4 ~ 5YR3/4	
77 TO EM	218	A ⊠ G10- 20	縄文	深鉢	-	-	(3.9)	ていねいなナデ	ナデ、ケズリ後ナ デ	B, E, H	良	にぶい橙~ 橙	7.5YR6/4 ~ 7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6 ~ 6/8	
	219	A⊠G11- 34	縄文	深鉢	-	-	(3.0)	ナデ、条痕	ナデ、 条痕、 沈線か	C、 A、 E	良	橙~明褐	2.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	黄橙~橙	7.5YR7/8 ~ 7.5YR6/8	外面沈線わずかに残る
	220	A 区土坑 - 東西トレ	縄文	深鉢	-	-	(3.8)	ナデ	タテ方向のナデ	A、 B、 E	良	明黄褐	10YR7/6 ~ 6/6	黒褐	10YR3/1	内面被熱による黒色
	221	A ⊠ G4- 14	縄文	深鉢 × 浅鉢	=	-	(3.5)	タテ方向のナデ	タテ方向のナデ	E, H	良	赤褐	5YR4/6	赤褐	5YR4/6	底部付近か
	222	A区G 13-2	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	(6.8)	ヨコナデ、ナデ、 接合痕	ナデ	A、C、E、H	良	橙~明褐	7.5 Y R 6/8 ~ 7.5 Y R 5/8	黒褐	7.5 Y R 3/1	内面スス付着(全体)、5 面一部にうすい黒斑、底 部付近か
	223	A⊠ 14- 15	縄文	深鉢	-	-	5.5+ α	ナデ、スス?	ミガキ	A、C、E	良	暗褐	7.5 Y R 3.3	にぶい褐	7.5 Y R 5/3	
	224	A区G 15-12	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	(4.7)	ナデ、接合痕	ナデ、オサエ列に なる	A、C、E	良	赤褐	5 Y R 4/6 ~ 4/8	黒褐~黒	5 Y R 2/1 ~ 5 Y R 1.7/1	外面指頭痕が残る
	225	A区 G 2-9、 G -6	縄文	深鉢	-	-	6.5+ α	タテ方向ナデ、ヨ コ方向のナデ	強いナデ (ケズリ か)	A、E、C	良	明赤褐	5 Y R 5/6	明赤褐	5 Y R 5/6	底部ハクリ
	226	A区G 11-北下 層	縄文	鉢	-	-	(3.6)	底部付近か		C、B、E	良	褐	7.5 Y R 4/6	黒褐、明褐	7.5 Y R 2/1,7.5 Y R 5/8	底部付近か
	227	A区G 12-44・ 47・48	縄文	深鉢	-	-	7.2+ α	接合痕	ナデ、接合痕、ス ス付着	E, A	良	明赤褐	5 Y R 5/6 ~ 5/8	明赤褐、褐灰	5 Y R 5/8、 10 Y R 4/1	粘土輪積痕残る、外面下 部にスス付着、底部〜立 ち上がり(胴部)1/2 弱 残存
	228	A区G 12-41・ 42	縄文	深鉢	-	-	5.8+ α	ナデ	強いナデ(縦方向)	E、金G.、B	良	にぶい橙~ 橙	7.5 Y R 6/4 ~ 7.5 Y R 6/6	灰黄褐	10YR6/2	底部片
	229	A区土坑 - 東西トレ	縄文	深鉢	-	-	4.0+ α	ナデ	指頭痕ナデ、ナデ	B、E、G.	良	橙	5 Y R 6/8	にぶい黄褐	10 Y R 5/3	底部片、粗製品
	230	A⊠G 12	縄文	深鉢	-	(10.0)	2.6+ α	ナデ	ナデ	E., G., A	良	にぶい橙	7.5 Y R 7/4	褐灰、一部灰褐	7.5 Y R 4/1、 7.5 Y R 4/2	底部
	231	A ⊠ G12- 32	縄文	深鉢	-	-	3.6+ α	ナデ	ナデ	E、B、C	良	にぶい黄橙	10YR5/4	にぶい黄橙	10YR4/3	低部片、外面底部に施文か
	232	A区G 12-26	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.8+ α	ナデ	強いナデ	E、金 G.	良	褐	7.5 Y R 4/3	黒褐	5 Y R 2/1	内面スス、外底面に籾痕 か
	233	A⊠G 13-18	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.3+ α	ナデ	ナデ (ミガキ風ナ デか)	E、A	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	灰黄褐	10 Y R 4/2	底部片
第 20 図	234	A⊠G 4-25	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	1.8+ α	ナデ	ナデ	A、E	良	にぶい赤褐	5 Y R 5/3	褐灰	5 Y R 4/1	底部片
	235	A区G 14-5	縄文	深鉢	-	-	2.4+ α	ナデ	ナデ (指頭痕か)、 ナデ	E、金G.、B	良	灰褐	5 Y R 5/2	灰赤	10 R 5/2	底部片、粗製品
	236	A区G 8-1	縄文	深鉢	-	-	1.6+ α	ナデ	ナデ、指頭痕か	E、G.、細 H	良	明赤褐	5 Y R 5/6 ~ 5/8	灰黄褐	10 Y R 4/2	底部片
	237	A区G 11-北下 層	縄文	深鉢	-	-	1.8+ α	ナデ	ナデ指頭痕、ナデ	A、B	良	橙	5YR7/6	橙	5 Y R 6/6	底部片
	238	A区G 6-7	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.6+ α	ハクリ	強いナデ、ナデ	E、B、細 H	良	明赤褐	5 Y R 5/6	明赤褐	5 Y R 5/6	底部片、内面ハクリ
	239	A区G 7-39	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.2+ α	ナデ	ナデか、底面ハク リ	E、A	良	明赤褐	5 Y R 5/6 ~ 5/8	灰黄褐	10 Y R 4/2	底部片、粗製品、底面ハ クリ
	240	A ⊠ G19	縄文	深鉢	-	-	3.5+ α	ナデ	ナデ	A、E、B、G.		褐	7.5YR4/4	暗褐	10YR3/3	底部片
	241	A⊠G 4-34	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	6.3+ α	ナデ	強いナデ、ナデ	B、E、G.	良	にぶい橙	7.5 Y R 6/4	にぶい橙	5 Y R 6/4	底部片、粗製品
	242	A⊠G 8-15	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.7+ α	指頭痕ナデ	ナデ	E, A, B	良	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	にぶい黄橙	10 Y R 6/3	底部片
	243	A⊠G 4-57	縄文	深鉢	-	-	2.8+ α	ナデ	指頭痕、ナデ	E、A、G.	良	灰褐	5 Y R 5/6	明赤褐、一部灰褐	5 Y R 5/6、 5 Y R 4/2	底部片、粗製品
	244	A⊠G 3-3	縄文	深鉢	-	-	4.2+ α	ナデ	ナデか? ハクリ	E、細H、B、A	良	にぶい黄褐	10 Y R 7/4	灰黄褐	10YR5/2	底部片、底部ハクリ
	245	A⊠G 7-34	縄文	深鉢	-	(12.4)	5.5+ α	ナデ、指頭痕	ケズリ風ナデ (タ テ方向)、指頭痕、 ナデ	E, A, C	良	橙	5 Y R 6/8	橙、にぶい黄褐	5 Y R 6/6, 10 Y R 7/4	底部 1/2 残存
	246	A区G 8-10	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	6.2+ α	ナデ	ナデ	E、A	良	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい橙	7.5YR6/4	底部片

第14表 出土土器観察表 (9)

図版	N.	III I NALIH	\$60u	00.06		法量 (cm)		調	整	B/s 1.	焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	247	A⊠ G-31 ∕ 33 • 34	縄文	深鉢	-	(12.4)	2.3+ α	ナデ	ナデ	E、A	良	赤、黒褐	10 R 4/6, 10 Y R 3/1	赤	10 R 4/6	粗製品、底部 1/2 残存
	248	A⊠G 12-28	縄文	深鉢	-	-	4.8+ α	ナデ	ナデ	E、A	良	赤褐	5 Y R 4/6	黒	7.5 Y R 2/1	粗製品、底部片
	249	A区G 2-3	縄文	深鉢	-	-	3.9+ α	ナデ	ナデ	E、B、G.、 細 H	良	明赤褐	5 Y R 5/6	にぶい赤褐	5 Y R 5/4	底部片、粗製品
	250	A区G 11-28	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデか	E、A	良	橙	5 Y R 6/6	橙	7.5 Y R 7/6	底部片
	251	A区G 12-56	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.2+ α	ナデ	ナデ指頭痕、ナデ	E、細H、A	良	橙	5 Y R 6/6	灰褐	7.5 Y R 5/2	底部片、粗製品
	252	A区G 10-19	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.3+ α	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ、ナデ	C、A、E	良	橙	7.5 Y R 6/6 ~ 6/8	橙	7.5 Y R 6/6 ~ 6/8	上げ底か?
	253	A⊠G 4-11	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	1.7+ α	ナデ	ナデ	E、G.	良	灰黄褐	10 Y R 6/2	灰黄褐	10YR5/2	底部片、上げ底状
	254	A⊠G 4	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	1.6+ α	ナデ	ナデ	E、A、B	良	にぶい褐	7.5 Y R 6/3	にぶい黄橙	10 Y R 6/4	底部片
	255	A区G 9	縄文	深鉢	-	-	3.3+ α	ナデ	ナデ	E, A	良	暗灰黄、明赤 褐	2.5 Y 4/2, 5 Y R 5/6	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	底部片
* 0.1 M	256	A区G 5-6	縄文	深鉢	-	-	2.1+ α	ナデ	ナデ	E、A、G.	良	灰褐	7.5 Y R 5/2	褐	7.5 Y R 4/4	底部片、粗製品
第21図	257	A区G 8-17	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ	E、A、B	良	橙、明赤褐	7.5 Y R 6/6、5 Y R 5/6	褐灰	7.5 Y R 4/1	粗製品、底部片
	258	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデか	E、A	良	橙	7.5 Y R 6/6	橙	7.5 Y R 7/6	底部片、調整不明瞭、粗い
	259	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ	ナデ	A、E、G.	良	橙	7.5 Y R 6/6	灰黄褐	10YR5/2	底部片、粗製品
	260	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.5+ α	ナデ	ナデ	E、G.	良	橙	5 Y R 6/6	にぶい橙	7.5YR7/3 ~ 7/4	底部片、粗製品
	261	A区検出	縄文	浅鉢· 深鉢	-	-	2.2+ α	ナデ	ナデか	B、E、G.	良	明褐	7.5 Y R 5/6	にぶい褐、一部褐灰	7.5 Y R 5/4、 7.5 Y R 4/1	底部片、粗製品
	262	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.1+ α	ナデ	ナデ	B, G., A	良	赤褐	5 Y R 4/8	灰褐	5YR5/2	底部片
	263	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.0+ α	ナデ	ナデ	E、G.	良	にぶい赤褐	5 Y R 5/4	明赤褐	5 Y R 5/6	底部片、粗製品
	264	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ	ナデ	E、A、G.	良	にぶい赤褐	5 Y R 5/4	にぶい黄褐	10 Y R 6/4	底部片、底部裏面ハクリ、 上げ底か
	265	A区検出	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	2.0+ α	ナデ	ナデ (指頭痕か)、 ハクリ	E、金 G.	良	にぶい褐	7.5YR/4	褐	7.5 Y R 4/3	底部裏面ハクリが激しい
	266	A区	縄文	深鉢	8.2 (最大 長)	8.1 (最大幅)	1.5 (最大厚)	ナデ	ナデ	A、C		明赤褐	5YR5/6	橙	5YR6/6	施文が一部に残る
	267	A区検出	縄文	鉢	5.4	4.1	2.7	ナデ、一部に線刻 あり、沈線、刺突 文(列点文)		B, E, H	良	黄橙~橙	7.5YR7/8 ~ 7.5YR6/8	黄橙~橙	7.5 Y R 7/8 ~ 7.5 Y r 6/8	口縁の突帯部か?、土偶 片の可能性あり
	1	A 区南北 トレ-1 上 層	縄文	深鉢	-	-	5.8+ α	ナデ	ナデ?磨滅顕著	A、C、B、E、 H	良	明赤褐~赤褐	2.5YR5/8 ~ 2.5YR4/8	黄橙~橙、黒	7.5YR7/8 ~ 7.5YR6/8、 7.8YR2/1	内面 1/2 程度被熱による 黒斑、並状口縁、粗製品
	2	A区南北 トレ-1 上 層	縄文	深鉢	-	-	1.4+ α	ヨコナデ、オサエ	凹線、ナデ	B、C、E、橙 色粒子	良	黄橙	7.5 Y R 7/8	明黄褐	10 Y R 7/6	波状口縁、口縁端部刺突 文
	3	A 区南北 トレ-1 上 層	縄文	深鉢	-	-	3.3 + a	ナデ	ナデ、沈線	A、C、E、H、 滑石含む	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	褐灰~灰褐、橙~明 赤褐	5YR4/1 ~ 5YR4/2, 5YR6/8 ~ 5YR5/8	タテ方向に沈線(ケズリ)、 やや精製品
	4	A 区南北 トレ-1 上 層	縄文	深鉢	-	-	4.9+ α	ナデ	ナデ	A, E	良	にぶい赤褐 〜褐灰	5YR5/4 ~ 4/1	褐灰	5YR4/1	口縁部片、端部薄い
	5	A 区南北 トレ-1 上 層	縄文	深鉢	-	-	4.7+ α	ナデ	ナデ	A、C、Eを 多く含む	良	にぶい橙	5YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3	口縁端部に沈線 1 条、外 面に鋸歯文状に線刻
第 22 図	6	A 区南北 トレ-2 上 層	縄文	深鉢	-	-	6.1+ α	ナデ	沈線	B, C, E, A, H		黒褐~極暗 褐	7.5YR2/2 ~ 7.5YR2/3	にぶい褐〜明褐	7.5YR5/4 ~ 7.5YR5/6	粗製品、外面スス付着
	7	A区南北 トレ2上 層	縄文	深鉢	-	-	5.4+ α	ナデ	赤色塗彩、隆起線 文、沈線、ナデ	C、B、E	良	赤褐	2.5 Y R 4/6 ~ 4/8	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	波状口縁、隆起線文、外 面赤色塗彩
	8	A区南北 トレ-2 上 層	縄文	深鉢	-	-	3.4+ α	ナデ、接合痕	瓜形文、ケズリ、 ナデ	B、A、G.、E、 H	良	灰褐~褐	7.5 Y R 4/2 ~ 7.5 Y R 4/3	明赤褐、橙	5 Y R 5/8, 7.5 Y R 6/6	瓜形状刺突文
	9	A 区南北 トレ-2 上 層	縄文	深鉢	-	-	4.7+ α	ナデ	ナデ	金 G.、E	良	橙	5YR7/6	橙	7.5YR7/6	口縁部片
	10	居 A区南北 トレ-2上 層	縄文	深鉢	-	-	2.7+ α	ナデ	ナデ	Е	良	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	浅黄橙	10 Y R 8/4	口縁部片
	11	A区南北 トレ2、 南北トレ 2-上層	縄文	深鉢	-	-	(10.8)	ナデ	沈線、ミガキ、縄目	C., G., E	良	にぶい赤褐	5YR4/3 ~ 4/4	赤褐	2.5 Y R 4/6 ~ 4/8	磨消縄文、沈線、縄目 赤色顔料あり
	12	A区南北 トレ-2 上 層	縄文	深鉢	-	-	3.2+ α	ミガキ	ミガキ、沈線、刺突文	B、細H	良	灰褐	5 Y R 4/2	橙	5 Y R 6/6	沈線、刺突文

第15表 出土土器観察表 (10)

図版		.1. 1 3/01/46	******			法量 (cm)		調用	整		焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面(裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	13	A区南北 トレ-2 上 層	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	7.0+ α	ナデ	指オサエ後ナデ、 ナデ(ヨコ方向)	B, C, A	良	橙	7.5 Y R 7/6	浅黄橙~褐灰	7.5 Y R 8/6 ~ 10 Y R 4/1	
	14	A区南北 トレ-2 上 層	縄文	深鉢	-	-	(11.7)	ナデ?磨滅のため 調整不明、わずか に黒斑	ナデ?磨滅のため 調整不明、ほぼ全 体スス付着	В、Н	良	にぶい赤褐	5 Y R 4/4	橙	7.5 Y R 6/8	内外面調整不明瞭、黒斑あり
	15	A 区南北 トレ-2、 サブトレ 2	縄文	深鉢	-	-	10.7+ α	ナデ、接合痕	ナデ、オサエナデ、 粗いミガキ	C、B、G.、E、 橙色粒子	良	にぶい赤褐	5YR4/3 ~ 4/4	橙	5YR6/6 ~ 6/8	口縁部粘土紐貼付後に刻 目による波状口縁、内面 黒斑複数ケ所あり
	16	A区南北 トレ-2 上 層	縄文	深鉢	-	-	5.6+ α	ナデ	ナデ	E、A、細 H、 C、G.	良	橙	5 Y R 6/8	にぶい黄橙	10 Y R 6/3	少し粗い、底部片
第 22 図	17	A区南北 トレ-3 上 層	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.3+ α	ナデ	ナデ	E, A	良	橙	7.5 Y R 7/6	黒褐	7.5 Y R 3/1	底部片
	18	A区東西 トレ-東	縄文	深鉢	-	-	3.0+ α	ナデ	ナデ	白色砂岩	良	にぶい橙	7.5 Y R 6/4	にぶい褐	7.5YR6/3	沈線
	19	A 区東西 トレ - 東	縄文	深鉢	-	-	2.7+ α	ナデ	ナデ	B, E	良	橙	5YR6/6	橙	5YR7/6	口縁部に文様帯 口唇端部に押引き連点
	20	上層 A区東西 トレ - 東	縄文	深鉢	-	-	3.3+ α	ナデ	ナデ、刻目	В	良	灰黄	2.5Y6/2	淡黄	2.5Y8/3	刻目
	21	A 区東西 トレ - 東 上層	縄文	深鉢	-	-	(4.5)	ナデ	ナデ、沈線	A, C, B, G., E	良	灰褐~黒褐	7.5 Y R 4/2 ~ 7.5 Y R 3/2	明褐	7.5YR5/6 ~ 5/8	沈線、磨消か? 穿孔あり
	22	A 区東西 トレ - 東 上層	縄文	深鉢	-	-	(2.9)	ナデ、ミガキ?	ナデ、沈線、刺突文	C、B、E、橙 色粒子	良	明褐	7.5 Y R 5/8	明褐	7.5 Y R 5/8	外面赤色塗彩、磨消縄文、 刺突文、沈線
	23	A 区東西 トレ-東 上層、サ プトレ5	縄文	深鉢	(23.8)	-	17.3+ α	ナデ、ミガキ、全 面スス付着	粗いミガキ	A、C、B、E	良	明赤褐~赤褐	2.5YR5/8 ~ 2.5YR4/8	黒褐	5 Y R 2/1	内面全体にスス付着、外 面黒斑 1 ケ所
	24	A 区東西 トレ - 東 上層	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	5.9+ α	ナデ	不明瞭、ナデ	E、A、G.	良	橙、一部灰褐	7.5 Y R 7/6、7.5 Y R 4/2	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	底部片、調整不明瞭
	25	A 区東西 トレ - 東 上層	縄文	補修 孔紡 錘車	-	-	(4.5)	ヨコナデ	ナデ	C、A、B、E	良	橙~明赤褐	5 Y R 6/8 ~ 5 Y R 5/8	橙~明赤褐	5 Y R 6/8 ~ 5 Y R 5/8	穿孔
	26	A 区東西 トレ - 西 1 上層	縄文	深鉢	-	-	2.3+ α	ナデ	ナデ	A、B、C	良	褐	7.5YR4/3	にぶい褐	7.5YR5/3	波状口縁
	27	A 区東西 トレ - 西	縄文	深鉢	-	-	4.1+ α	ミガキ風ナデ	ミガキ風ナデ	A、金G.、E	良	灰黄褐	10YR4/2	にぶい黄橙	10YR6/4	口縁部片
	28	A 区東西 トレ - 西	縄文	深鉢	-	-	3.5+ α	ナデ、ミガキ風ナ デ	ナデ、ミガキ風ナ デ	G.、A、E	良	橙~にぶい 赤褐	5YR6/8 ~ 5/3	橙	5YR7/8	口縁部片、端部貼付か?
	29	A区東西 トレ-西	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.0+ α	ナデ	ナデ	E、A	良	橙	5 Y R 6/6	橙	5 Y R 7/6	底部片、粗製品
	30	A 区東西 トレ - 西 1 上層	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	1.7+ α	ナデ	ナデ	E、C、G.		橙	5YR6/6	黒褐	5 Y R 2/1	底部片、粗製品
第 23 図	31	A 区東西 トレ - 西 1 下層	縄文	深鉢	-	-	2.6+ α	ナデ	ナデ	A、B、E	良	橙	5YR6/6	にぶい赤褐	5YR5/4	口縁部肥厚 口唇端部刻目
	32	A区東西 トレ - 西 2 上層	縄文	深鉢	-	-	5.4+ α	オサエナデ	オサエナデ	A、C、B、E	良	橙~明赤褐	5 Y R 6/8 ~ 5 Y R 5/8	明褐	7.5 Y R 5/6	口縁部刺突文、波状口縁、 粗製品
	33	A 区東西 トレ - 西 2 下層	縄文	深鉢	-	-	7.1+ α	沈線	ナデ	A、B、C	良	橙	7.5Yr7/6	灰黄褐	10YR5/2	波状口縁、口唇部刻目外 面に沈線
	34	A 区東西 トレ - 西 2 上層	縄文	深鉢	-	-	5.2+ α	オサエ、ナデ	ナデ、ケズリナデ	B, C, G., E	良	橙~明褐	7.5YR6/6 ~ 7.5YR5/6	橙~明褐	7.5YR6/6 ~ 7.5YR5/6	□縁端部刺突文
	35	A 区東西 トレ - 西 2 上層	縄文	深鉢	-	-	7.3+ α	ナデ	ナデ	A, G., E, F	良	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄橙	10YR6/4	口縁部片
	36	A 区東西 トレ - 西 2 上層	縄文	深鉢	-	-	10.4+ α	ナデ	ナデ	E, B	良	橙	7.5YR6/6 ~ 5YR6/8	にぶい黄橙	10YR6/4	口縁部片、粗い
	37	A 区東西 トレ - 西 2 上層	縄文	深鉢	-	-	2.6+ α	ナデ (接合痕)	ナデ(接合痕)	A、E	良	黒褐	7.5 Y R 3/1	黒褐	7.5 Y R 3/2	口縁部片
	38	A区東西 トレ-西 2上層	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	4.7+ α	条痕	条痕、ナデ	E., G., A	良	にぶい橙	7.5 Y r 6/4	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	底部片
	39	A 区東西 トレ - 西 2 上層	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.1+ α	ナデ、接合痕	ナデ	E、A	良	橙	5 Y R 6/6	黒褐	5 Y R 3/1	底部片、内面に輪積み、 接合痕残る
	40	A 区 サブ トレ 1 検 出	縄文	深鉢	-	-	9.0+ α	ナデ、接合痕	ナデ、沈線、接合痕、 1ケ所刻目、条痕	A、C、E、H	良	褐		橙、褐~灰褐	~ 4/2	隆起線文(1 ケ所刻目)
	41	A区サブ トレ1	縄文	浅鉢	-	-	(2.5)	ナデ、オサエ	ナデ、沈線	滑石、B、E	良	赤褐	2.5 Y R 4/6 ~ 4/8	赤褐	2.5 Y R 4/6 ~ 4/8	沈線
第 24 図	42	A区サブ トレ2	縄文	深鉢	-	-	2.3+ α	ヨコナデ	ヨコナデ	C、B、E	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	波状口縁、口縁部肥厚、 内外面突帯貼付
	43	A区サブ トレ2	縄文	深鉢	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ、沈線(凹線)	滑石、G.片 多量	良	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	黒褐	5YR2/1	沈線(凹線)、内面もみ殻 痕跡(植物)
	44	A区サブ トレ2	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.3+ α	ナデ、強いナデ	ナデ	A、G.	良	明褐	7.5 Y R 5/6	橙	7.5 Y R 6/6	底部片、上げ底状

第16表 出土土器観察表 (11)

図版 番号 Na 45 46 46 47 48 49 50 50 51 51 51 51 51 51 51 51 51 51 51 51 51	7 88 9	出土遺構 A 区サブトレ2 A 区サブトレ4 A 区 A 区 D A 区 D A 区 D D A 区 D D D B B B B B B B B B B B B B B B B B	縄文縄文	器種 浅鉢・ 深鉢 深鉢	口径	器高	底径 3.3+ α	内面	外面	胎土	焼成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
46 47 48 49 50	6 7 8 9	トレ2 A 区サブ トレ4 A 区		深鉢	-	-	3 3± a									
47 48 49 50	7 8 9	トレ4 A区 A区サブ	縄文	淫汰			5.51 u	ナデ	ナデ	E、A、G.	良	明黄褐	5 Y R 5/6	褐灰	5 R 4/1	底部片
48 49 50	8	A 区サブ		DIVET	=	-	4.9+ α	ヨコナデ	ヨコナデ	A, E	良	橙、灰褐~褐	7.5YR6/6 ~ 6/8, 7.5YR4/2 ~ 7.5YR4/3	浅黄橙~黄橙	10YR8/4 ~ 10YR8/6	波状口縁、外面突帯文
49 50	9		縄文	深鉢	-	-	6.0+ α	丁寧なナデ	ナデ、沈線、文様	A、C、E、H	良		2.5YR5/8 ~ 2.5YR4/8	褐灰~黒褐	5YR4/1 ~ 5YR3/1	口縁端部刻目
50	9		縄文	深鉢	-	-	4.0+ α	ナデ	ナデ、刺突文	A、C、B、橙 色粒子、E、 H	良		5YR6/8 ~ 5YR5/8	橙~明赤褐	5YR6/8 ~ 5YR5/8	口縁端部に刺突文
		A 区サブ トレ 6	縄文	深鉢	-	-	1.6+ α	ミガキ	ミガキ、刺突文	A、C、E	良	明赤褐~赤 褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	磨消縄文、口縁部内傾 宿毛式
MY 0 4 500 5.1	0 .	A 区サブ トレ 6	縄文	深鉢	-	-	0.7+ α	ヨコナデ	ヨコナデ、刻目突 帯、条線	A、C、B、E、 H	良	褐~暗褐	7.5YR4/4 ~ 7.5YR3/4	橙	7.5YR7/6 ~ 6/6	波状口縁
第24図 51	1	A区サブ トレ6、 G 10-30	縄文	深鉢	-	-	(15.4)	ていねいなナデ	ナデ	A, B, E, H	良	橙	7.5 Y R 6/6 ~ 7.5 Y R 6/8	明褐~褐	7.5 Y R 5/6 ~ 7.5 Y R 4/6	外面黒斑ごくわずかに残 る、内面帯状にうすく黒 斑
52	2	A区サブ トレ6	縄文	浅鉢・ 深鉢	-	-	3.3+ α	ナデ	ナデか	E., G., C	良	にぶい褐	7.5 Y R 5/4	黒褐	7.5 Y R 3/1	底部片
53	3	A区サブ トレ7	縄文	深鉢	=	-	3.1+ α	ミガキ	ミガキ	G., E	良	にぶい黄橙 〜にぶい黄 褐	10YR6/4 ~ 10 Y R 5/4	にぶい黄橙〜明黄褐	10YR6/4 ~ 10 Y R 6/6	波状口縁、ミガキ
54	4	A区サブ トレ7	縄文	深鉢	-	-	3.7+ α	条痕(2 枚貝)	刺突文、条痕か	A、B、C	良	灰黄褐	10 Y R 4/2	灰黄	2.5Y7/2	刺突文
55	5	A区サブ トレ8	縄文	深鉢	-	-	6.0+ α	ナデ	沈線、縄目	A、B、C、E	やや弱	にぶい黄橙	10 Y R 7/4	淡黄	2.5 Y 8/4	波状文
56	6	A 区サブ トレ8	縄文	深鉢	-	-	5.9+ α	ナデ	ナデ	金 G.、B、E	良		10YR5/4 ~ 5/2	明黄褐	10YR7/6	口縁部片、貼付突帯
57	7	A 区サブ トレ8	縄文	深鉢	-	-	(6.3)	ナデ?全面スス付 着	条痕、ナデ、沈線	C、B、E、橙 色粒子	良		7.5YR6/8 ~ 7.5YR5/8	黒	7.5YR2/1	ハイガイによる擬条痕、 沈線、内面全面スス付着
58	8	A⊠ G 12-53	土師器	壷	-	-	5.6+ α	ミガキ、ナデ	ミガキ	A、C、金G.、 E	良	黄橙	10 Y R 8/4	浅黄橙	10YR8/3	
59	9	A⊠ G 11-29	土師器	壷	-	-	2.2+ α	指オサエ後ていね いなナデ	ナデ後ミガキ	B, C, A, E	良	灰白	2.5 Y R 8/2	灰白	2.5 Y R 8/2	
第 25 図 60	0	A区 検出	青磁	खिं	-	-	5.7+ α	施釉	施釉、鎬蓮弁	精良、ごく 小さい F	良	(釉) うすい青み がかった緑 色	-	(胎) 灰白	7.5 Y 7/1	釉厚 0.2 mm程度、龍泉 系青磁碗 II・b (大宰府)、 № 294 と同様
61	1	A区 カクラン	縄文	深鉢	-	-	4.1+ α	ナデ	ナデ、沈線	C. G., E	良	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	明赤褐~赤褐	5YR5/8 ~ 5YR4/8	口縁部波状口縁か?沈線、 刺突か?
62	2	A区 カクラン	縄文	深鉢	-	-	(4.5)	ナデ、ミガキ	ミガキ、沈線	A、C、E、橙 色粒子			5YR3/6	暗赤褐	5YR3/4 ~ 3/6	磨消縄文、沈線
1	ı	B区 1 掘 P17	染付	碗	12.5	-	4.3+ α	施釉	施釉	精良 微細な黒色 粒	良	(釉) フロスティ グレー	3G7.5/1.0	(胎) パールホワイト イエローオーカー	N85 8YR6.0/6.5	
2	2	B区 1掘P17	青磁	火入	(9.8)	-	1.7+ α	施釉 ロクロナデ	施釉	精良	良	(釉) 裏葉色	3G7.0/2.0	(胎) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0	外面口縁に貫入
3	3	B区 1掘P17	染付	ш	-	(7.0) (高台 径)	1.4+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) わすれなぐ さ色 藍白	3PB6.5/5.5 3PB3.5/5.5	(胎) スノウホワイト	N9.5	内外面貫入
4	1	B区 1掘P17	土師質 土器	盤	-	(21.7) (高台 径)	1.9+ α	ミガキ	回転ナデ	微細粒	良	浅黄色	10 Y R 8/3	浅黄橙	7.5YR8/6	内面一部にスス付着
5	5	B区 1掘P17	瓦器	盤	-	-		回転ナデ後 回転ミガキ	ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	微細粒	良	灰	N4/1	灰	N4/1	
第34図 6	6	B区 1掘P17	瓦器	盤	-	-	9.6+ α	回転ナデ後 回転ミガキ	回転ケズリ	精良 微細粒	良	灰	N4/1	灰	N4/1	
7	7	B区 2掘P2	陶器	擂鉢	(28.5)	-	11.2+ α	施釉	施釉	白色粒	良	赤灰	2.5YR5/1	赤灰	2.5YR5/1	擂り目
8	3	B区 2掘P3	染付	₽ĕ	14.9	4.7	6.6	施釉	施釉	精良 黒色粒	良	(釉) スノウホワ イト	N9.5	(胎) 藍白	5B8.5/2.0	貫入, 文様紺色 (6PB2.0/5.0)
9	9	B区 2掘P3	磁器	Ш	(11.2)	-	4.9+ α	施釉	施釉	精良	やや不良	(釉) リリーホワ イト	3G9.0/1.0	(胎) パールホワイト	N85	
10	0	B区 2捆P3	青磁	碗	18.2	-	4.7+ α	施釉	施釉	精良	やや不良	(釉) ミストグ リーン	3GY7.5/2.0	(胎) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0	
11	1	B区 2掘P3	染付	碗	-	-	5.3+ α	施釉	施釉 染付	精良	良	(釉) 藍白	5B8.5/2.0	(胎) スノウホワイト	N9.5	
第34図	2	B区 2掘P3	陶器	瓶	-	-	5.2+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) ブロンズ	5Y4.0/5.5	(胎) 灰	5Y5/1	文様アイボリホワイト (5Y9.0/1.0) 白化粧土による文様
13	3	B区 2掘P4	青磁	碗	10.7	-	4.5+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 白緑	3G8.5/2.0	(胎) スノウホワイト	N9.5	

第17表 出土土器観察表 (12)

図版	N.	III L NRUM	\$60d	00.56		法量 (cm)	1	調用	整	B/- L	焼			色調		備考
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	14	B区 2掘P5	染付	碗	10.0	3.9	5.05	施釉	施釉	精良	良	-	-	-	-	
	15	B区 2掘P5	染付	碗	-	(3.8) (高台 径)	3.2+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 藍白	5B8.5/2.0	(胎) パールホワイト	N85	文様 藍色(3PB3.5/5.5)
第 35 図 -	16	B区 2掘P5	土師質 土器	火鉢	-	-	6.9+ α	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ 印判	微細 H 赤褐色粒 G.	良	褐灰	10YR5/1	灰白	10YR7/1	
N 00 IN	17	B区 2掘P7	陶器	碗	-	(3.2) (高台 径)	3.2+ α	施釉	施釉	精良	やや不良	灰白	10YR7/1	灰白	10YR7/1	内面付着物あり
	18	B⊠ P47	染付	Ш	-	-	1.7+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 藍白	5B8.5/2.0	(胎) スノウホワイト	N9.5	文様わすれなぐさ色 (3PB6.5/5.5)、紺青色 (6PB2.5/9.5)
	19	B⊠ P47	土師質 土器	Ⅲ?	-	-	1.9+ α	ナデ 文様	ナデ	H G.	良	にぶい黄橙	10YR7/4	浅黄橙	10YR8/3	
	20	B⊠ P8	陶器	Ш	(8.9)	-	2.0+ α	施釉 赤絵	施釉	精良 微細な黒色 粒	良	(釉) 灰汁色	Y5.0/1.0	(胎) オイスター	5Y7.5/1.0	
	21	B⊠ P40	陶器	碗	-	-	4.1+ α	施釉	施釉	精良	良	" (釉) 浅黄橙"	10YR8/4	" (胎) 浅黄橙 "	10YR8/4	内外面貫入
	22	B⊠ P33	磁器	碗	-	-	3.9+ a	施釉	施釉	" 精良 細 H"	良	" (釉) 浅黄 "	2.5Y8/3	"(胎) 浅黄"	2.5Y8/3	内外面貫入
	23	B⊠ P7	陶器	碗× Ⅲ	-	-	3.9+ α	施釉	*施釉 ロクロナデ*	" 精良 細 H"	良	" (釉) モスグリー ン サロー"	"3GY5.5/8.8 5Y7.5/2.0"	" (胎) クリーム色 "	2Y9.0/2.0	内外面貫入
	24	B⊠ P2	陶器	Ш	-	-	2.3+ α	施釉	施釉	"精良 微細な黒色 粒"	良	" (釉) シルバーグ レイ "	N7.5	" (胎) 灰汁色 "	N7.5	内外面貫入
	25	B区 P20	陶器	किंग्रं	-	2.4+ α	2.2	施釉	施釉	" 精良 細 H"	良	" (釉) ミストグ リーン "	3GY7.5/2.0	" (胎) 蔦色 "	4YR4.0/2.0	
-	26	B区 P47	陶器	m	-	" 4 . 9 (高 台 径) "		施釉	施釉	" 精良 橙の H"	"やや不良"	" (釉) 灰白 "	10YR7/1	" (胎) 浅黄 にぶい橙 黄橙"	"2.5Y7/3 7.5YR6/4 10YR8/6"	
	27	B区 2掘P16	陶器	碗	-	"(4.7) (高台 径)"	1.6+ α	施釉	施釉	"精良 微細な白色 粒、褐色粒"	良	" (釉) 灰汁色 とくさ色"	"5Y5.0/1.0 9G4.5/5.0"	" (胎) サロー "	5Y7.5/2.0	内面に貫入
	28	B区 P6	陶器	片口 小鉢	-	-	3.45+ α	施釉	" ナデ ロクロナデ "	施釉	良	" (釉) オリーブド ラグ"	5Y4.5/2.0	" (胎) ねずみ色 "	N5.5	
第 36 図	29	B区 1掘P27	陶器	香炉	11.4	-	2.1+ α	[®] 施釉 ロクロナデ [®]	"施釉 櫛描波状文"	"精良 微細な黒色 粒"	良	" (釉) ボトルグ リーン "	3G3.0/4.5	" (胎) キャメル "	4YR5.5/6.5	内外面貫入
_	30	B区 2掘P10	染付	IIII	-	-	2.7+ α	施釉	施釉	精良	良	" (釉) 藍白 "	5B8.5/2.0	*(胎) アイボリホワイト*	5Y9.0/1.0	文様 藍色(3PB3.5/5.5)
-	31	B⊠ P21	染付	碗	-	-	4.4+ α	施釉	施釉	精良	良	"(釉) 藍白"	5B8.5/2.0	"(胎) スノウホワイト "	N9.5	文様 藍色(3PB3.5/5.5)
	32	B区 検出	染付	碗	9.9	3.8	5.8	施釉	施釉	精良	良	*(釉) リリーホワ イト*	3G9.0/1.0	" (胎) スノウホワイト "	N9.5	" 貫入,文様紺色 (3PB3.5/5.5) 畳付に砂付着 "
	33	B⊠ P19	磁器	Ш	12.8	-	2.3+ α	施釉	施釉	"精良 微細な黒色 粒"	良	" (釉) オリーブド ラグ"	5Y4.0/2.0	" (胎) 灰汁色 "	Y5.0/1.0	
	34	B区 2掘P1	染付	磓	-	" (3.8) (高 台 径) "	2.0+ α	施釉	施釉	精良	良	" (釉) パールホワ イト"	N8.5	" (胎) アイボリホワイト"	5Y9.0/1.0	" 文様 藍色(3PB3.5/5.5) 内外面に貫入 "
_	35	B区 検出	陶器	III	-	"3.9 (高台 径)"	3.4+ α	施釉	施釉	精良	良	" 褐 灰黄 "	"10YR4/4 2.5Y6/2"	にぶい黄橙	10YR7/4	" 内外面貫入 外面胴部に重ね焼痕 "
	36	B区 検出	陶器	壺	-	-	7.85+ α	" 回転ナデ、 ユビオサエ "	" 回転ナデ、 沈線、 自然釉 "	精良	良	" 灰褐 暗褐 "	"7.5YR4/2 7.5YR3/4"	灰褐	7.5Y/R	耳部貼付け
	37	B区 検出	陶器	碗	-	"4.0 (高台 径)"	3.9+ α	施釉	施釉	" 微細な白粒 砂 F"	良	灰黄	2.5Y7/2	黒褐	10YR2/2	
	38	" B区 検出 P47"	陶器	油差し	-	" (5.0) (高 台 径) "	8.7+ α	施釉	施釉	精良	良	* (釉) オリーブ褐 *	5.5Y4/4	"(胎)にぶい黄橙"	"10YR7/3 ~ 6/3"	注口有り
	39	B区 検出	陶器	" 火入 × 灰落 "	-	"5.95 (高台 径)"	6.5+ α	ロクロナデ	施釉	" 精良 細 H, 褐色粒	良	" (釉) サロー"	5Y7.5/2.0	* (胎) アイボリホワイト*	5Y9.0/1.0	文様 オリーブグリーン (3GY3.5/5.0)
	40	B区 検出	" 瓦質 土器 "	擂鉢	(25.8)	-	7.1+ α	" ナデ 回転ナデ "	" 回転ナデ ナデ "	H、G.	良	黄灰	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y6/1	擂り目
第 37 図	41	B区 P13	" 土師質 土器 "	鉢	(25.4)	-	7.3+ α	回転ナデ	" ハケ後ナデ ハケ、ナデ "	H、赤褐色 粒、G.	良	" にぶい黄 橙 灰黄褐 "	"10YR6/3 10YR5/2"	にぶい黄橙	"10YR7/3 ~ 6/3"	
	42	B区 P16	" 土師質 土器 "	甕	-	-	4.8+ α	不明	" ヨコナデ 回転ケズリ "	微細 H	良	-	-	-	-	
ANY	43	B⊠ P23	" 土師質 土器 "	擂鉢	-	-	2.9+ α	-	ハケ目?	精良	良	浅黄色	7.5YR/8/4	" 浅黄橙 橙 "	"7.5YR8/3 5YR7/6"	擂り目
第 37 図 -	44	B区 P1	土師質 土器	土鈴	3.35 (高さ)	2.6	2.05 (厚み)	-	-	微細な H	良	浅黄橙	10YR8/4	-	-	

第18表 出土土器観察表 (13)

						法量 (cm)			整		焼			色調		備考
図版 番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面(裏)	Hue	外面 (表)	Hue	
	1	C 区 P35	土師質 土器	m	_	_	2.9	回転ナデ	回転ナデ 底部糸切り離し	H 赤褐色粒	良	浅黄橙	7.5YR8/4	橙	7.5YR7/6	
	2	C ⊠ P38	土師質 土器	m	_	_	2.6+ α	回転ナデ	回転ナデ	H 赤褐色粒	良	浅黄橙	7.5YR8/4	にぶい橙	7.5YR7/4	外面スス付着
	3	C⊠ P6	陶器	甕 × 壺	-	_	3.1	工具ナデ 自然釉	回転ナデナデ	Н	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙 オリーブ黒	10YR6/3 7.5Y3/1	焼締め
	4	C⊠ P16	陶器	袋物	_	_	2.7+ α	施釉	施釉 底部掻取り	Н	良	(釉) オリーブ黒	7.5YR3/1	(胎) 灰褐	7.5YR4/1	
	5	C区 2掘P5	土師質 土器	火鉢	_	-	5.9+ α	ナデ	ナデ ヨコナデ 赤彩?	H., G.,	良	浅黄橙橙	10YR8/4 5YR7/6	浅黄橙	10YR8/4	
	6	C⊠ P10	須恵器	甕	_	_	5.0+ α	当て具痕	タタキ後 カキ目	精良	良	灰褐	10YR5/2	褐灰	10YR5/1	
	7	C⊠ P7	青磁	碗	-	-	3.8+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) モスグリー ン	3GY5.5/5.5	(胎) パールホワイト	N85	
	8	C⊠ P22	青磁	碗	-	-	2.6+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) モスグリー ン	3GY5.5/5.5	(胎) オイスター	5Y7.5/1.0	内面貫入入る
第 43 図	9	C⊠ P13	白磁	碗	-	-	2.4+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) オイスター	5Y7.5/1.0	(胎) オイスター	5 Y 8 / 1	
_	10	C 区 1 掘 P7	陶磁器	碗	-	-	1.6+ α	施釉	施釉	精良	良	(胎) 灰白	5 Y 8/1 ~ 8/2	(釉) 灰白	10 Y 7/1 ~ 7/2	景徳鎮窯系、(内外面うすい買入、釉厚 0.2 mm程 度
	11	C⊠ P8	青磁	m	-	-	1.9+ α	施釉 ロクロナデ	施釉 ロクロナデ 沈線	F	良	(釉) ミストグ リーン	3GY7.5/2.0	(胎) オイスター	5 Y 8 / 1	
	12	C区 1掘P3	青磁	碗	-	-	1.3+ α	施釉	施釉	精良	良	(胎) 灰白	5 Y 7/1 ~ 7/2	(釉) 灰白~オリー ブ灰	10 Y 7/2 ~ 10 Y 6/2	釉厚 0.1 mm程度、№ 294 と同様
	13	C区P 21	青磁	碗	-	-	(2.7)	施釉	施釉、しのぎ蓮弁	精良	良	(釉) オリー ブ灰	10 Y 5/2 ~ 4/2	(胎) 灰白	10 Y 7/1 ~ 7/2	龍泉窯系青磁碗Ⅱ・b、 13世紀(大宰府編年)内 外に貫入入る、外面しの ぎ連弁文、内面圏線、釉 厚 0.2 mm程度
	14	C⊠P3	青磁	ш	-	-	(2.3)	施釉	施釉、露胎	精良	良	(胎) 灰白	5 Y 7/1 ~ 7/2	(釉) 灰白~オリー ブ灰	10 Y 7/2 ~ 10 Y 6/2	龍泉窯系青磁皿(大宰府) 釉厚ごくうすい
	15	C区 P27	白磁	Rie	-	-	1.4+ α	施釉	施釉、 ケズリ	精良	良	(釉) リリーホワ イト	3G9.0/1.0	(胎) クリーム色	2Y9.0/2.0	内外面に貫入
	16	C区 検出	陶器	擂鉢	-	(12.0)	5.2+ α	擂り目	カキ目、 ナデ	精良 白色粒	良	(胎) 褐灰	7.5YR4/1	(胎) 灰	N6/	
第 47 図	1	D区 1竪	染付	碗	_	(3.4)(高台	3.2+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 藍白	5B8.5/2.0	(胎) スノウホワイト	N9.5	文様 浅はなだ (3PB5.0/5.5) 内外面貫入、外面コンニャ ク印判
35 47 [2]	2	D区 1竪	磁器	碗	_	3.95(高台径)	3.95+ α	施釉	施釉	白色粒、 黒色粒	良	(釉) にぶい赤褐 灰白	5YR4/4 5Y8/1	(胎) にぶい黄橙	10YR6/3	Z H413
	1	D区 検出	瓦質 土器	擂鉢	_	_	0.9+ α	擂り目	ナデ	精良 微細流	良	灰	7.5Y6/1	灰	N5/	
	2	D区 2掘P4	瓦質 土器	鉢	_	_	5.25+ α	ハケ目	ハケ目	H,G.	良	黄灰	2.5Y5/1	黄灰	2.5Y4/1	
	3	D区 2掘P6	瓦質 土器	甕	_	_	4.95+ α	不明	回転ナデ 回転ケズリ	H,G.	良	灰	10Y5/1	黄灰	2.5Y5/1	
	4	D区 2掘P6	土師質 土器	ш	_	_	2.2+ α	回転ナデ	回転ナデ 底部糸切り離し	H、赤褐色粒、 G.、A	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	
第 50 図 -	5	D区 2掘P7	陶器	碗	_	_	5.8+ α	施釉	施釉	微細 H F	良	(釉) 灰白	2.5Y8/2	(胎) 灰白	2.5Y8/2	内外面貫入
	6	D区 2掘P6	陶器	m	(12.4)	_	2.4+ α	施釉	施釉	黒色粒	ь	(釉) 灰	7.5Y6/1	(胎) 黄灰	2.5Y6/1	内外面貫入
	7	D区 P7	陶器	m	(12.3)	_	2.1+ α	施釉 ロクロナデ	施釉	細H	良	(釉) 灰オリーブ	5Y6/2	(胎) 灰黄	2.5Y7/2	
	8	D区 2掘P6	瓦質 土器	盤	-	_	1.4+ α	ミガキ	ナデ回転ナデ	微細粒		暗灰黄	2.5Y5/2	黄灰	2.5Y5/1	
	1	E区 P3 検出	陶器	ш	(12.0)	_	2.8+ α	ロクロナデ 施釉	施釉 ロクロナデ	細H	良	(釉) 灰オリーブ 黄褐	5Y6/2 2.5Y8/4	(胎) 灰黄	2.5Y7/2	
	2	E 区 検出	磁器	土瓶	(7.8)	_	2.5+ α	施釉 ロクロナデ	施釉	精良	良	(釉) 灰汁色 れんが色	5Y5.0/1.0 4YR4.0/6.0	(胎) オイスター	5Y7.5/1.0	文様 アイボリホワイト (5Y9.0/1.0)
第 53 図	3	E⊠ P6	磁器	砂	_	(4.4) (高台 径)	3.9+ α	施釉	施釉	精良 細 H	良	(釉) 灰黄	2.5Y7/2	(胎) 灰白	2.5Y8/2	内外面貫入
	4	E区 P14	磁器	秘	_	_	1.8+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 藍白	5B8.5/2.0	(胎) スノウホワイト	N9.5	文様 藍色(3PB3.5/5.5)
	5	E区 P14	瓦質 土器	擂鉢	_	_	10.2+ α	ケズリ後ナデ	不明	Н	やや不良	黒褐	2.5Y3/1	灰白	2.5Y8/2	
	1	F区 検出	土師質 土器	ш	_	(9.1)	2.4	回転ナデ後ナデ	回転ナデ、 底部糸切り離し	H、赤褐色粒、 G.		浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙、橙	7.5YR8/4、 5YR7/6	
第 57 図	2	F区 検出	青磁	69ë	-	-	3.0+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) ミストグ リーン	3GY7.5/2.0	(胎) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0	貫入入る
	3	F区 P11	陶器	甕	_	_	(6.7)	回転ナデ、 工具ナデ、 自然釉	自然釉	H、 赤褐色粒	良	黒褐	2.5YR4/2	灰赤	2.5YR3/2	頸部~体部

第19表 出土土器観察表 (14)

図版	No. 出土遺構 種別 器種 法量 (cm) 調整 口径 器高 底径 内面 外面		ppm	20.00		法量 (cm)	1	調	整	U/- 1	焼			色調		備考	
番号	No.	出土遺構	種別	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	成	内面 (裏)	Hue	外面 (表)	Hue		
	4	F区 P33	土師質 土器	ш	_	-	3.3+ α	ヨコナデ	ョコナデ、 ナデ、 工具痕、 底部糸切り離し	H、赤褐色粒、 G.	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3	脚一ヶ残る	
	5	F⊠ P5	土師質 土器	m	(8.4)	(7.1)	1.6	回転ナデ	回転ナデ 底部糸切り離し	H、赤褐色粒、 G.	良	浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙 橙	7.5YR8/4 5YR7/6		
	6	F区 P23	土師質 土器	ш	-	_	2.85	ナデ	ナデ 底部糸切り離し	微細粒	良	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4		
	7	F区 P2	土師質 土器	m	_	_	2.9+ α	回転ナデ	回転ナデ, 底部糸切り離し	H、 赤褐色粒	良	橙	5YR7/6	橙	5YR7/6		
	8	F区 P7	土師質 土器	灯明皿	_	_	1.7	回転ナデ	回転ナデ, 底部糸切り離し	H、G. A	良	浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙	10YR8/4	口縁端部にスス付着	
	9	F区 P1	土師質 土器	甕	_	_	4.2+ α	回転ナデ、 ユビオサエ	回転ナデ、 ユビオサエ	H、A、 G., 赤褐色粒	良	浅黄橙	10YR8/3	灰、 灰白	5Y6/1 5Y7/1		
	10	F⊠ P6	土師質 土器	甕	-	_	1.8+ α	沈線、ミガキ	回転ナデ、 ナデ、 赤色塗彩	Н	良	灰白 にぶい赤褐	2.5Y8/1 5YR5/4	褐灰	7.5YR4/1		
***	11	F区 P29	土師質 土器	土鈴	3 . 6 (高さ)	2.95 (幅)	3 . 0 (厚)	ナデ	ナデ	H を 含まない	良	灰白	5Y8/1	-	-	完形	
第 57 図	12	F区 P28	土師質 土器	土鈴	3 . 6 (高さ)	3 . 0 (幅)	3 . 0 (厚)	ナデ	ナデ	Hを 含まない	良	灰白	2.5Y7/1	-	-	一部欠損	
	13	F⊠ P1	白磁	m	(11.9)	-	2.0+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) パールホワ イト	N85	(胎) スノウホワイト	N9.5		
	14	F区 P37	白磁	m	(11.2)	-	2.0+ α	施釉	施釉	精良	やや不良	(釉) オイスター	5Y7.5/1.0	(胎) クリーム色	2Y9.0/2.0		
	15	F区 P13	染付	78 ^{ti}	(15.1)	-	1.7+ α	施釉	施釉	精良	やや不良	(釉) オイスター	5Y7.5/1.0	(胎) シルバーグレイ	N7.5		
	16	F 区 P30	陶器	Rie	-	-	4.1+ α	施釉	施釉	H を少量 含む	良	(釉) ゴールデン コーン	8YR8.5/6.5	(胎) ラセットゴールド 油色	2Y4.0/5.5 5Y6.0/6.0	貫入入る	
	17	F ⊠ P42	染付	m	-	-	2.2+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 利休ねずみ	3G5.0/1.0	(胎) パールホワイト	N85	文様 鉄紺(5B2.5/4.5)	
	18	F区 ハ イド	陶器	擂鉢	_	_	3.7+ α	回転ナデ	回転ナデ	Н	良	灰	N5/	灰	N5/	口唇部に工具痕	
	1	G⊠ P15	磁器	碗	-	-	3.25+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) 白ゆり色	8Y9.0/2.0	(胎) クリーム色	2Y9.0/2.0		
	2	G 区 検出	染付	碗	-	4 . 2 (高台 径)	3.1+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) ブルー ウォッシュ	3PB8.5/1.1	(胎) スノウホワイト	N9.5	文様 藍色(3PB3.5/5.5)	
	3	G 区 検出	染付	碗	-	4 . 6 (高台 径)	1.7+ α	施釉	施釉	精良	良	(釉) スノウホワ イト	N9.5	(胎) アイボリホワイト	5Y9.0/1.0		
第 62 図	4	G⊠ P16	陶器	甕	-	-	(12.5)	当て具痕ナデ	施釉	E	良	(釉) シダグリー ン 油色	5Y2.5/1.5 5Y6.0/6.0	(胎) オリーブドラグ	5Y4.5/2.0		
	5	G区 P11	土師 質 土器	土鈴	3 . 9 (高さ)	3.1(幅)	3.1	ナデ しぼり痕	ナデ 底部回転糸切り離 し	精良	良	灰	N6/	灰	N6/		
	6	G 区 検出	土製品	フイ ゴ 羽口	5.1 (高さ)	5.0 (幅)	-	_	_	Н	良	黒褐~ 褐灰~ 灰黄褐	10YR3/1 ~ 10YR5/1 ~ 10YR5/2	_	-	炉壁に装着部分に溶解痕 が残る	
	7	検出	土師 質 土器	水注	-	-	5.1+ α	ナデ	ナデ ケズリ	精良 微細粒	良	にぶい黄橙	10YR7/4	浅黄橙	7.5YR8/6		

^() は残存と復元を表す。

胎土:A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂粒

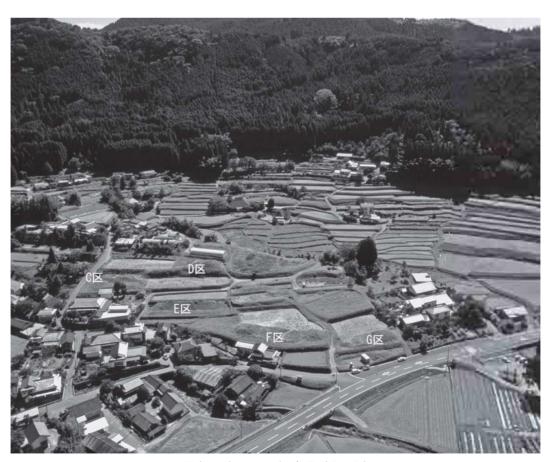
第20表 出土石器・石製品観察表

					法量 (c m)						
図版番号	No.	出土遺構	種別	最大長	法量(c m) 最大幅	最大厚	重さ (g)	材質	備考		
	1	A区G -16 土坑検出	剥片	5.8	6.6	1.7	55.16	サヌカイト	二次加工あり		
	2	A区サブトレンチ	削器	4.1	6.1	1.1	21.15	サヌカイト	先端部に微細ハクリあり		
	3	A区サブトレ2	剥片	1.9	2.8	0.4	1.98	姫島産黒曜石	二次加工なし		
第 26 図	4	A区南北い-2 上層	剥片	4.2	2.2	0.3	5.47	サヌカイト	二次加工なし		
,,, <u>-</u>	5	A区南北い 2	縦長剥片	4.4	1.9	0.5	6.54	サヌカイト			
	6	A区南北ル-2 上層	剥片	3.1	2	0.4	1.9	姫島産黒曜石	二次加工なし		
	7	A区東西比-西1下層	磨製石斧	6.2	2.9	2.1	135.68	砂岩か?			
	8	A区南北トレ	石核	4.5	8.5	1.8	66.01	安山岩			
	9	A区検出		3.9	2.5	0.8	5.93	黒曜石			
	10	A区検出	石鏃	2.4	1.4	0.4	0.96	姫島産黒曜石	先端部使用時の欠損か?		
	11	A区検出	石鏃	2.1	1.5	0.8	1.72	小国産黒曜石か?	刃部は鋸歯状に加工		
	12	A区G 2	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.44	西部九州産黒曜石			
第 27 図	13	A⊠G -17-17	削器	2.8	4.4	0.8	7.76	サヌカイト			
	14	A⊠G 12-49	削器	2.7	4.5	0.5	7.09	サヌカイト	二次加工のある剥片		
	15	A⊠G-9	削器	3.8	3.5	1.0	9.51	サヌカイト	石匙?		
	16	A⊠G -15-11	石匙	4.2	5.0	0.9	20.43	サヌカイト			
	17	A⊠G -16-10	石錘	4.3	3.8	0.8	10.11	サヌカイト			
	18	A⊠ G-14-4	削器	5.0	7.5	1.5	66.35	安山岩			
	19	A⊠ G4-64	石核	3.4	4.7	1.6	26.66	安山岩			
	20	A区検出	剥片	3.1	3.2	0.5	3.65	サヌカイト	二次加工あり		
	21	A区検出	剥片	1.9	2.2	0.2	0.80	姫島産黒曜石	二次加工あり		
第 28 図	22	A⊠G -11	剥片	2.2	2.1	0.4	1.63	姫島産黒曜石	微細ハクリあり		
	23	A区検出	剥片	1.8	3.2	0.5	2.87	サヌカイト			
	24	A⊠G -17	剥片	2.7	2.5	0.5	4.03	サヌカイト			
	25	A⊠G 2	剥片	2.3	0.8	0.2	0.50	姫島産黒曜石	二次加工なし		
	26	A⊠G -4-58	横長剥片	3.1	6.3	1.1	24.00	安山岩			
	27	A区 - 検出	磨製石斧	9.5	5.1	2.0	134.94	蛇紋岩			
	28	A⊠ G10-32	磨製石斧	12.5	5.1	3.6	318.5	砂岩か?			
	29	A⊠ G14-35	磨製石斧	11.4	5.9	1.7	143.07	蛇紋岩			
第 29 図	30	A⊠ G13-30	磨製石斧	2.2	5.5	2.1	22.41	砂岩か?			
	31	A⊠ G16-7	磨製石斧	8.3	4.8	1.9	95.65	蛇紋岩			
	32	A⊠G 2	磨製石斧	10.0	4.7	1.7	109.77	蛇紋岩			
	33	A⊠ G8-14	磨製石斧	11.3	5.4	3.6	312.7	砂岩か?			
第 30 図	34	A⊠ G16-6	磨製石斧	10.6	4.7	2.2	159.52	安山岩			
	35	A⊠ G8-11	磨製石斧	15.4	6.5	4.1	-	角閃石安山岩			
MAY	36	A⊠	石斧	14.5	5.5	4.7	-	-			
第 31 図	37	表採(A 区付近)	磨製石斧	13.1	4.6	2.4	173.1	蛇紋岩か?			
	1	B⊠ P37	剥片	3.4	1.9	0.7	4.99	黒曜石			
第 38 図	2	B⊠ P27	石斧	13.1	4.9	3.4	-	粘板岩か?			
	3	B⊠ P23	砥石	7.9	7.1	3	309.99	扮石か?			
第 44 図	1	C 区 検出	削器	5.9	7.6	1.6	65.59	安山岩			
第 51 図	1	D⊠ P7	砥石	6.9	3.6	1.2	57.67	粘板岩か?			
第 58 図	1	F⊠ P5	石核	7.0	4	1.7	48.57	流紋岩	二次加工剥片		
Mr. c = T	1	G区 検出	剥片	4.1	1.6	0.8	5.43	姫島産黒曜石			
第 63 図	2	G⊠ P10	石臼	15.0	12.9	7.2	-	-			
	-	1	1	1	1	1	1	1	I.		

^()は残存、もしくは復元を表す。



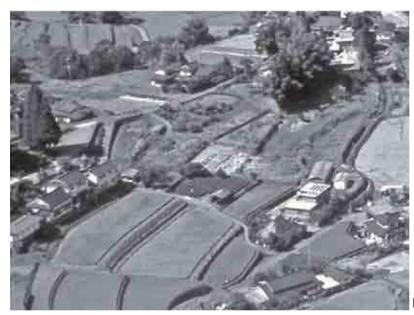
調査地全景(東から)



調査区 (C~G区) 全景 (北から)



A 区空中写真(南から)



B 区空中写真(東から)



C~G区空中写真(南から)



A 区包含層検出状況(北から)



A 区包含層検出状況(南から)



A 区発掘状況(北から)



A区1号土坑土層断面(東から)



A区1号土坑土層断面(北から)



■ A 区 1 号土坑完堀状況(西から)



① A 区包含層 (G-2) 発掘状況 1 (西から)



② A 区包含層 (G-4) 発掘状況 2 (西から)



③ A 区包含層 (G-5) 発掘状況 3 (西から)



④ A 区包含層 (G-8) 発掘状況 4 (西から)



⑤ A 区包含層 (G-8) 発掘状況 5 (西から)



⑥ A 区包含層 (G-10) 発掘状況 6 (西から)



⑦ A 区包含層 (G-11) 発掘状況 7 (西から)



⑧ A 区包含層 (G-16) 発掘状況 8 (西から)



① A 区南北土層(北側)



② A 区南北土層(南側)



③ A 区東西土層(東側)



④ A 区東西土層 (西側)



⑤ B 区検出状況(西から)



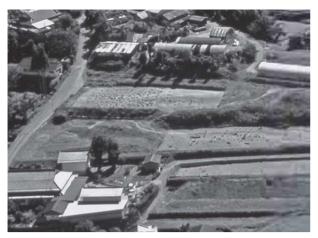
⑥ B 区発掘状況(西から)



⑦ B 区発掘状況(南から)



⑧ B 区 1 ・ 2 号掘立柱建物発掘状況(西から)



① C 区空中写真(北から)



③ C 区発掘状況 (西から)



⑤ C 区 3 号掘立柱建物発掘状況(南から)



⑦ C 区土層断面(南から)



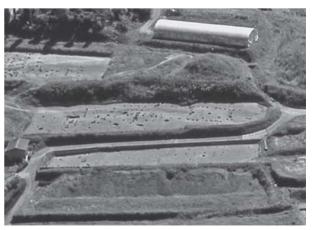
② C 区発掘状況 (東から)



④ C 区 1 ・ 2 号掘立柱建物発掘状況(東から)



⑥ C 区土層断面(東から)



⑧ D・E 区空中写真(北から)



① D 区発掘状況(東から)



② D 区東側検出状況(東から)



③ D 区発掘状況(西から)



④ D 区竪穴建物土層断面(東から)



⑤ D 区 1 号掘立柱建物発掘状況(北から)



⑥ D 区 2 号掘立柱建物発掘状況(南から)



⑦ E 区発掘状況 (西から)



⑧ E 区発掘状況(西から)



① F 区空中写真 1 (南から)



② F 区空中写真 2 (北から)



③ F 区発掘状況発掘状況(西から)



④ F 区 2 号掘立柱建物発掘状況(西から)



⑤ G 区空中写真(北から)



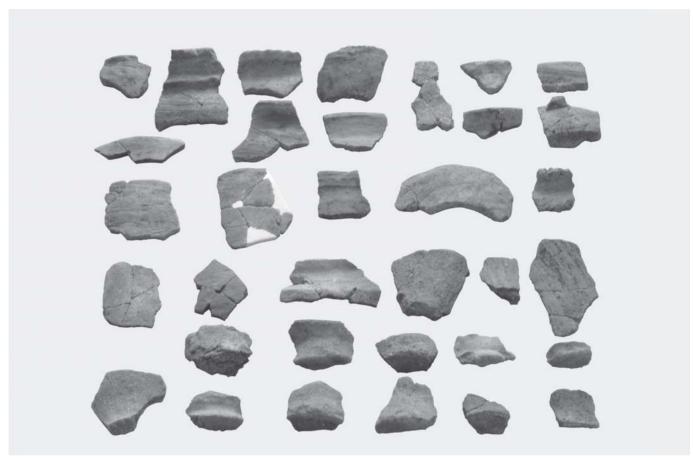
⑥ G 区発掘状況(東から)



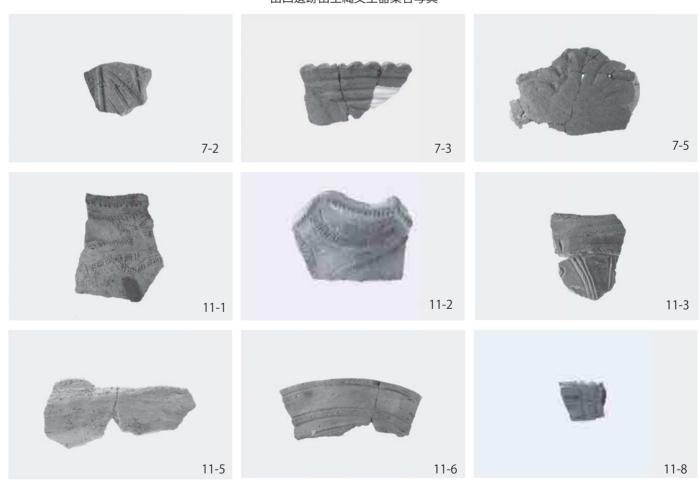
⑦ G 区発掘状況(西から)

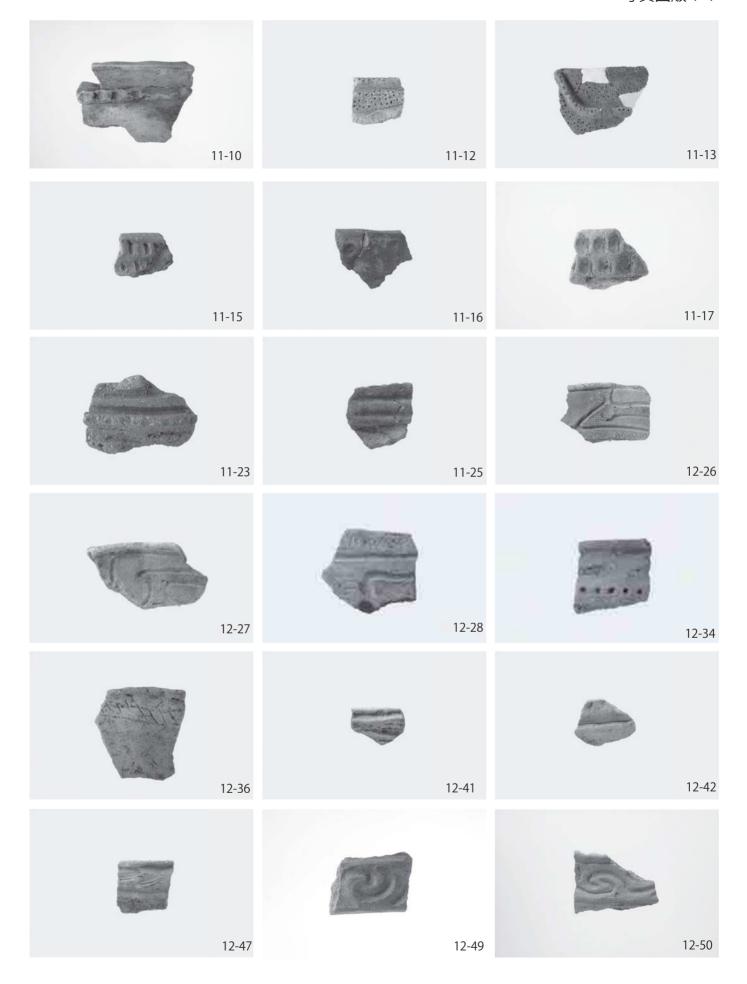


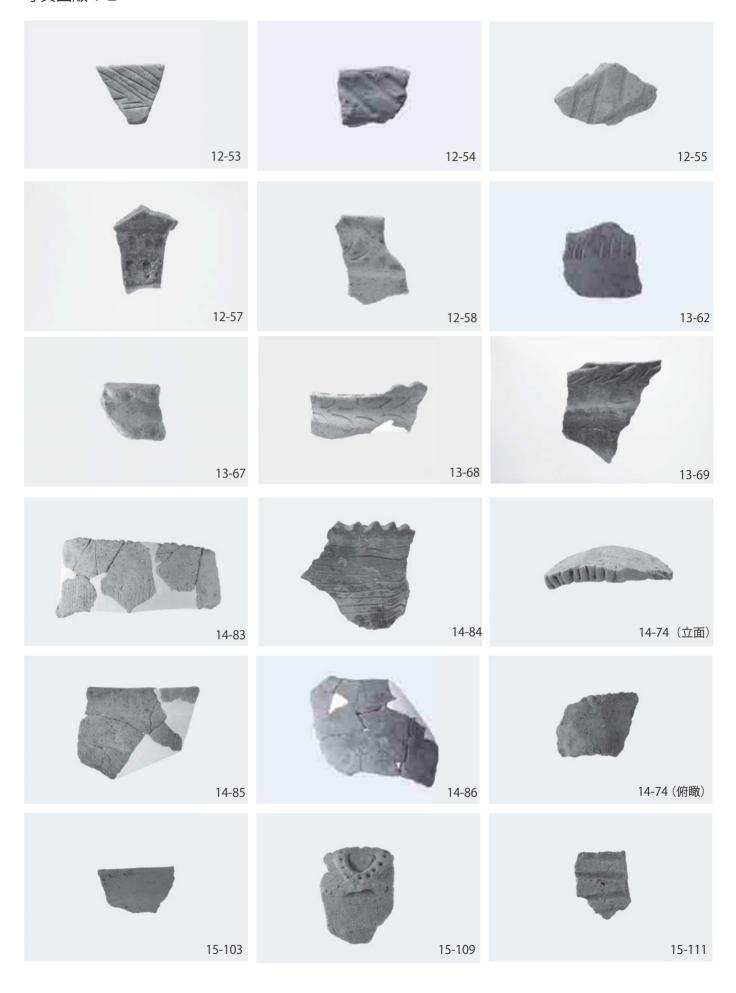
⑧ G 区 1 号掘立柱建物発掘状況(東から)

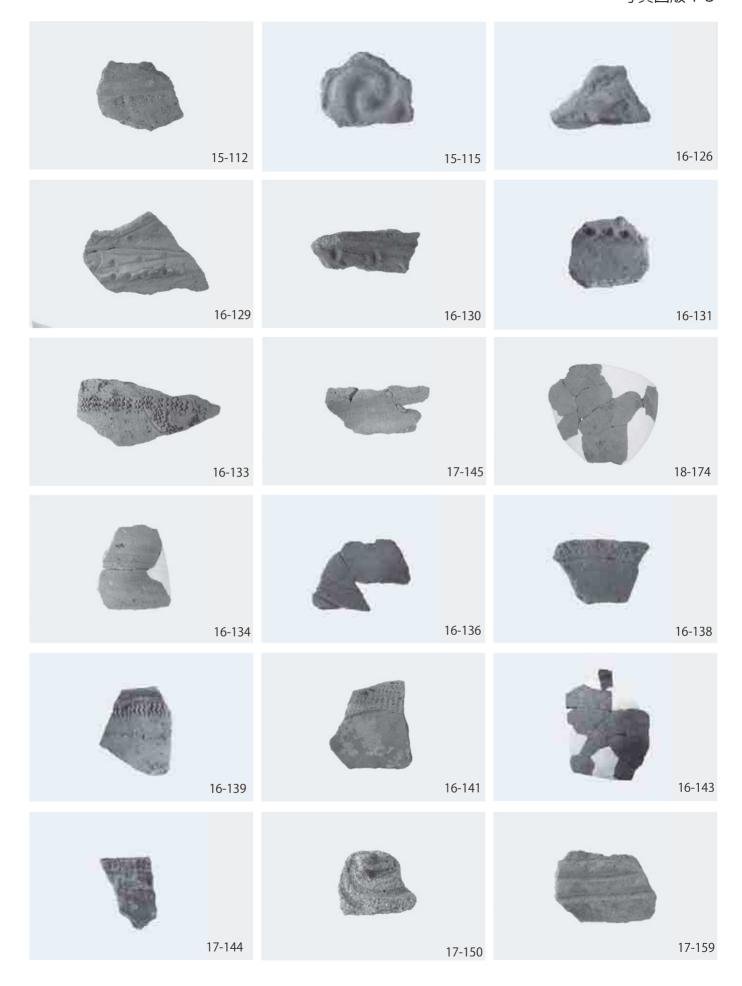


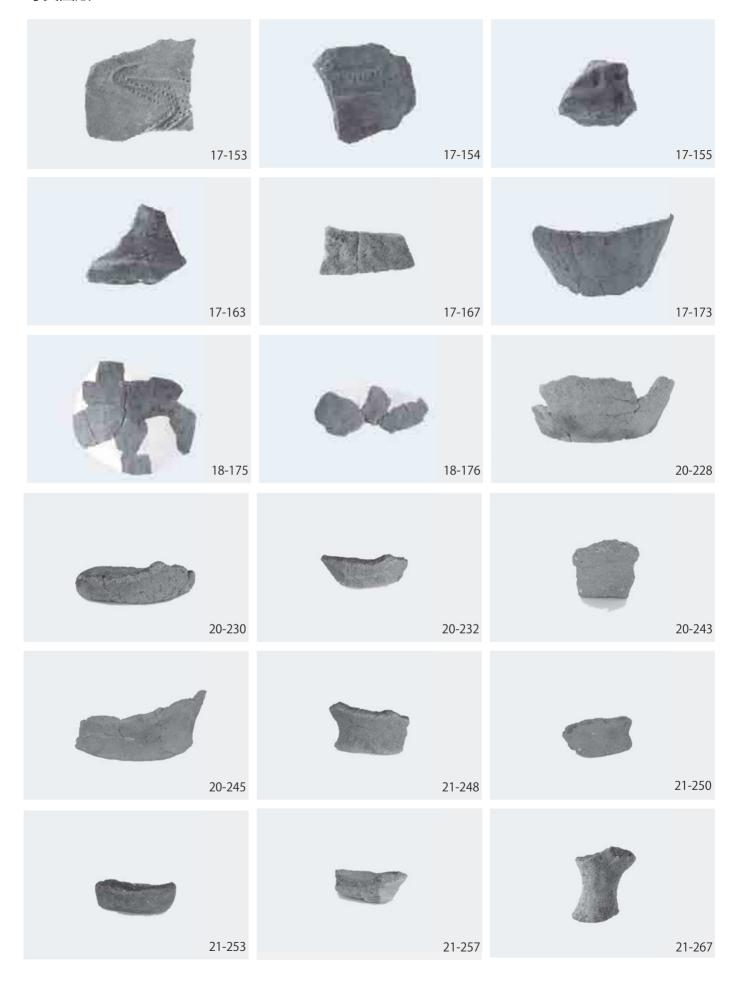
出口遺跡出土縄文土器集合写真

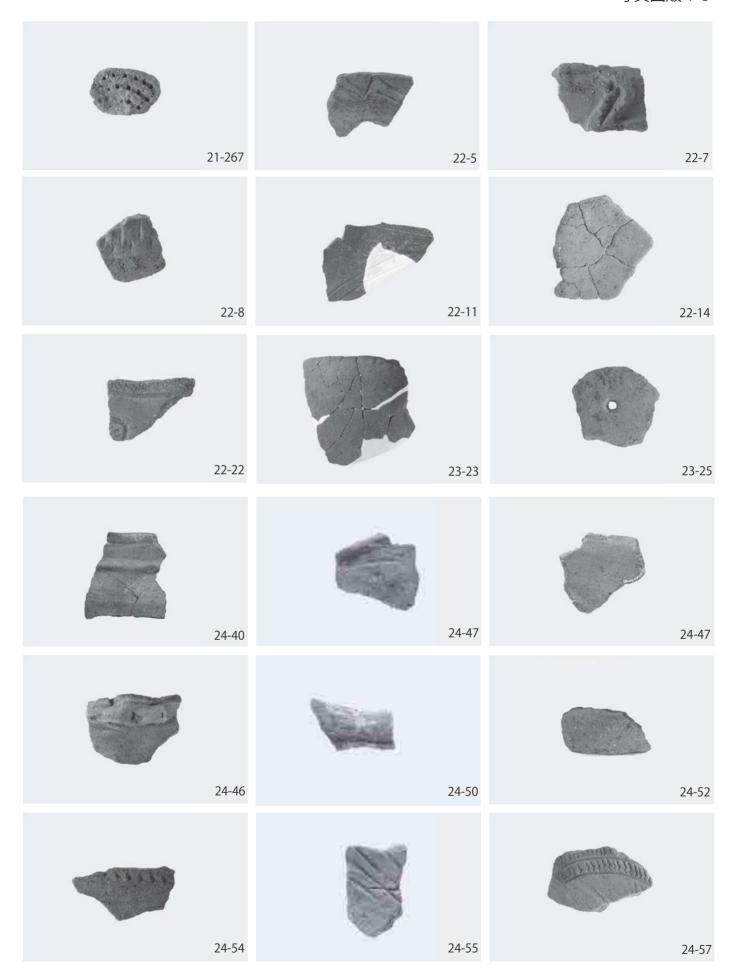




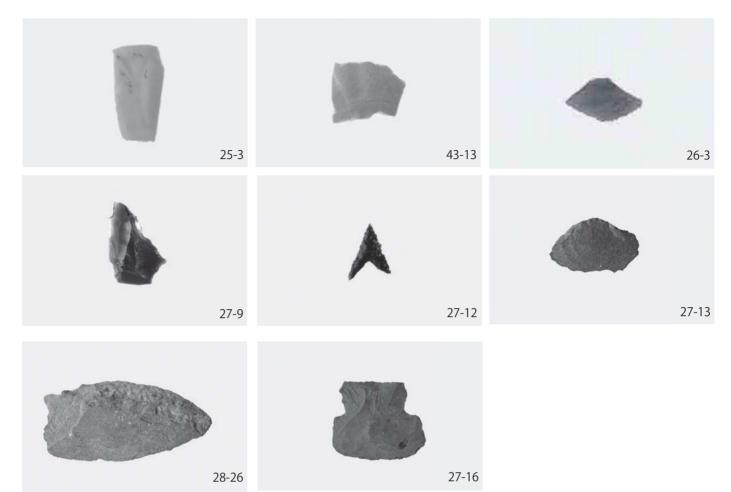








写真図版16



報 告 抄 録

ふ り :	がな	いでぐちいせき									
書	名	出口遺跡									
副書	名	県営中1	口山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻	次										
シリー	ズ名	日田市場	日田市埋蔵文化財調査報告書								
シリース	べ番 号	第126集									
編著	者 名	上原翔平 · 若杉竜太									
編集	機関	日田市教育庁文化財保護課									
所 在	〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1 0973(24)7171										
発 行 年	月 日	2017年(平成29年)3月15日									
ふりがな ふり 所収遺跡名 所) が な 在 地	カラ カ	ード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因		
************************************		でぐち	44204-6	204324	33° 12′ 17″	131° 1′ 17″	2013 0515 ~ 2013	3, 632 m²	記録保存調査		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		É	Eな遺物	特記事項		
出口遺跡	集落	縄文 中世 近世	畑立性建物11保		縄文土器 土師質土 青磁・近	器・白磁			

2013 1002

要 約

出口遺跡は、日田市南東部の台地の一つである五馬台地に所在する。出口谷川によって形成された沖積地と谷の緩斜面上の7か所で調査をおこなった。 縄文時代の包含層からは大量の土器が出土しており、中津・福田KⅡ式といった瀬戸内系の土器、阿高式の系統を引くと考えられる南福寺式や出水式のほか、西和田式の土器まで多様な様相が見られた。時期は後期前葉に収まるものと思われる。 このほか、緩斜面上からは中・近世の掘立柱建物が複数棟発見され、中・近世における土地利用を考える上で貴重な成果を得た。

出口遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第 126 集 2017 年 3 月 15 日

編集 日田市教育庁 文化財保護課

〒 877-0077 大分県日田市南友田町 516-1

発行 日田市教育委員会

〒 877-8601 大分県日田市田島 2 丁目 6-1

印刷 日田時報紙器印刷株式会社

〒 877-0086 大分県日田市二串町 345-3

